

第6章

今後の 観光都市ブランディングへの示唆

- 6. 1 事象の相互関係を考慮した資源保全と利用のあり方
- 6. 2 観光都市ブランディング推進主体の変化
- 6. 3 今後の観光都市ブランディングへの示唆

6. 1 事象の相互関係を考慮した資源保全と利用のあり方

観光都市における事象の相互関係とそのプロセスは、図-5.1及び図-4.2にまとめた通りである。図からは、観光都市における事象は相互に目的あるいは手段となることで、相互に作用し合っていることがわかる。また、直接的な作用のみならず、複数の段階を経て互いに影響し合っている。表-6.1では、“手段”が“目的”に与える“影響”を、ケーススタディにおいて確認された具体例と共にまとめた^{vi-1}。

表-6.1にも示したように、資源や環境の保全対策を講じた場合、その多くが観光やブランドなど別項目にも影響を与えることがわかる。この時、見かけ上は環境や資源を保全するための施策であっても、観光都市側の思惑としては始めから、ブランド獲得が目的であるという事実は5章で示した。また、ブランドを獲得した場合の観光振興効果の有無や接続過程については、表-5.1および3章においてまとめた。

すなわち、環境保全を起点として考えた場合、1)環境保全、2)ブランド保全/強化、3)観光振興、までの流れは、どの観光都市においても同一となる。ここで、持続的な資源利用を考える場合、観光振興を環境に負荷のかからないようにする、もしくは環境の改善に役立てる必要がある。しかしながら、ケーススタディの多くが、観光振興を目指す中でなんらかの問題に突き当たる(図-6.1)。具体的には、4章に示したように①断続的問題、②突発的問題、③オーバーユース問題に大別できる。従って、これらの問題をどう乗り越え、観光振興と環境保全を繋げるかが重要となる。また、技術的・方法的にはその問題の解決が可能であっても、経済的利益と対立する場合には、持続的な資源利用が達成され難いことも考慮する必要がある。

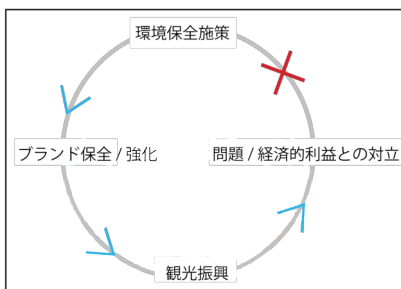


図-6.1：持続性のない資源利用形態

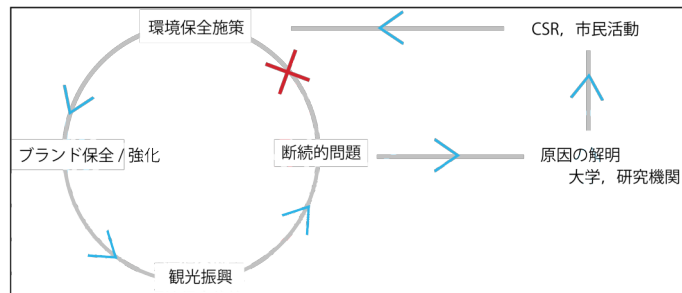


図-6.2：断続的問題に対する持続的資源利用策

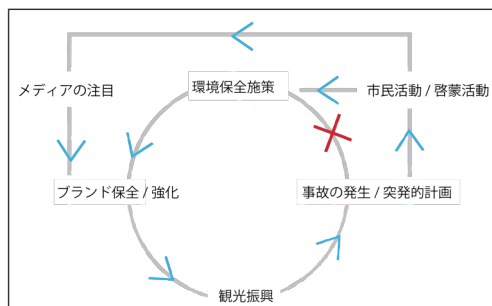


図-6.3：突発的問題に対する持続的資源利用策

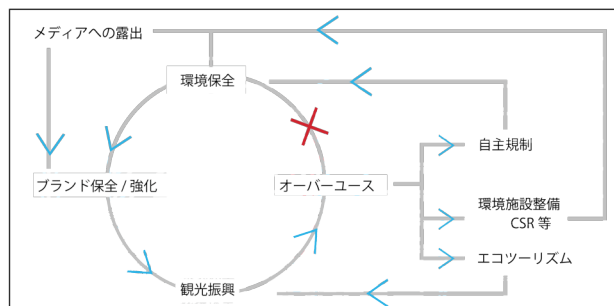


図-6.4：オーバーユース問題に対する持続的資源利用策

vi-1 なお、事例間の共通部分はモデルとして抽出したが、“手段”-“目的”間の相互作用の大小や接続に至る背景・経緯などの詳細部分は観光都市ごとに異なる。事象の接続の詳細はケーススタディにおいて示した。

表-6.1: 観光都市における事象の相互関係

目的 手段	観光	ブランド	市民生活・民間活動	開発・基盤整備	資源・環境
観光	<p>マスト・リゾート化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・得意先へのサービス低下 (白倉温泉) ・客単価の低下 (柳川、伊香保温泉) <p>リピーターの獲得/獲得喪失</p> <p>通過型観光 (柳川 etc.)</p>	<p>イメージの歪曲を防ぐ必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温泉地帯 (白倉温泉、伊香保温泉) ・不良な環境の水質 (柳川) ・草原化による景観悪化 (鳥取砂丘) <p>観光客急増への注目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産登録 (屋久島) ・外国人観光客の急増 (ニセコ) 	<p>地域の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動のモチベーション ・街への愛着意識喚起 ・観光客へのサービス向上 <p>被害 (屋久島)</p> <p>経済/高齢化による影響</p> <p>生活への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客のマナー問題 ・騒音問題 	<p>交通基盤の需要拡大</p> <p>渋滞/駐車場問題 (屋久島)</p>	<p>観光客増加に伴うオーバー・パフォーンス/質変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高血圧の増大 (白倉温泉、伊香保温泉) ・相場の急落 (厚労省、尾瀬、屋久島) ・資源の汚染 (尾瀬、野引浜、屋久島) ・生態系の変化 (屋久島) <p>ニューツーリズム/体験による環境学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズム (厚労省、尾瀬、屋久島) ・ジオツーリズム (鳥取砂丘) ・宇宙観光 (足尾銅山、野引浜) <p>地域資源への理解/尊重</p>
ブランド	<p>観光客数の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブームの発生 (白倉温泉、ニセコ、尾瀬、摩周湖、鳥取砂丘、屋久島) ・外国人観光客の獲得 (ニセコ、摩周湖、屋久島) <p>ブランドの悪化は観光産業に打撃</p>	<p>名産品の選出</p> <p>認知書の発行 (白倉温泉、伊香保温泉)</p> <p>注目ブランドの獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・透明度世界 (厚労省) ・透明度世界 (厚労省) ・映画/ドラマ (厚労省、尾瀬、屋久島) ・漫画/ラジオ (厚労省、尾瀬、屋久島 etc.) ・文芸 (柳川、伊香保温泉、屋久島 etc.) ・イベント ・インターネット (ニセコ) <p>歴史/地理/産業の絡みでのイメージ構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公事と対策/イメージの活用 (足尾銅山) ・通称の獲得 (白倉温泉、柳川、ニセコ、伊香保温泉、摩周湖、足尾銅山、屋久島) 	<p>地盤の上昇 (ニセコ)</p> <p>冠の獲得による観光客/市民の関心の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PRへの活用 ・展示問題の発生 (伊香保温泉) ・風評被害 (白倉温泉/伊香保温泉) <p>市民活動のモチベーション</p>	<p>景観的調和のとれた開発</p> <p>形骸化/文化的脈絡の欠如</p> <p>乱開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地盤の上昇と景観悪化 (ニセコ) 	<p>価値の認定/向上</p> <p>イメージの付与</p>
認知/保全 強化/悪化	<p>もてなし/美化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客との交流 (ニセコ) ・母国語によるケア (ニセコ) ・外国語の看板 <p>PR活動</p>	<p>注目ブランド (地域活動) の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産の保護活動 (柳川) ・料理/加工 (野引浜) ・CSRのテレビCM (尾瀬) <p>新資源の発掘/新企画の立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラフ・イン・ザ・ニセコ ・エコツーリズム (厚労省、尾瀬、屋久島) ・湯めぐりバス (白倉温泉) <p>資源の劣化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地盤への湧水流入 <p>冠獲得に向けた運動/啓蒙活動</p>	<p>運搬施設によるマンパワー/資金力の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SBW北海道 (ニセコ、摩周湖) ・てしかかえごまち協議会 (厚労省) ・ニセコ山系観光連絡協議会 (ニセコ) ・尾瀬地区保全対策推進協議会 (尾瀬) <p>団体の結成/解散</p>	<p>資源の価値発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内発的 (ニセコ、野引浜、屋久島 etc.) ・外発的 (柳川、鳥取砂丘 etc.) <p>取次めによる利用制限/取得権益の発生</p> <p>資源環境の保護/改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハトリール (野引浜) ・掘削清掃 (柳川) ・保護運動の発祥 (尾瀬) ・保全を目的とする団体の結成 (柳川、尾瀬、鳥取砂丘、屋久島 etc.) 	<p>観光客の増加に伴うオーバー・パフォーンス/質変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高血圧の増大 (白倉温泉、伊香保温泉) ・相場の急落 (厚労省、尾瀬、屋久島) ・資源の汚染 (尾瀬、野引浜、屋久島) ・生態系の変化 (屋久島) <p>ニューツーリズム/体験による環境学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズム (厚労省、尾瀬、屋久島) ・ジオツーリズム (鳥取砂丘) ・宇宙観光 (足尾銅山、野引浜) <p>地域資源への理解/尊重</p>
市民生活 民間活動	<p>観光客数の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブームの発生 (白倉温泉、ニセコ、尾瀬、摩周湖、鳥取砂丘、屋久島) ・外国人観光客の獲得 (ニセコ、摩周湖、屋久島) <p>ブランドの悪化は観光産業に打撃</p>	<p>注目ブランド (地域活動) の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産の保護活動 (柳川) ・料理/加工 (野引浜) ・CSRのテレビCM (尾瀬) <p>新資源の発掘/新企画の立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラフ・イン・ザ・ニセコ ・エコツーリズム (厚労省、尾瀬、屋久島) ・湯めぐりバス (白倉温泉) <p>資源の劣化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地盤への湧水流入 <p>冠獲得に向けた運動/啓蒙活動</p>	<p>運搬施設によるマンパワー/資金力の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SBW北海道 (ニセコ、摩周湖) ・てしかかえごまち協議会 (厚労省) ・ニセコ山系観光連絡協議会 (ニセコ) ・尾瀬地区保全対策推進協議会 (尾瀬) <p>団体の結成/解散</p>	<p>資源の価値発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内発的 (ニセコ、野引浜、屋久島 etc.) ・外発的 (柳川、鳥取砂丘 etc.) <p>取次めによる利用制限/取得権益の発生</p> <p>資源環境の保護/改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハトリール (野引浜) ・掘削清掃 (柳川) ・保護運動の発祥 (尾瀬) ・保全を目的とする団体の結成 (柳川、尾瀬、鳥取砂丘、屋久島 etc.) 	<p>観光客の増加に伴うオーバー・パフォーンス/質変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高血圧の増大 (白倉温泉、伊香保温泉) ・相場の急落 (厚労省、尾瀬、屋久島) ・資源の汚染 (尾瀬、野引浜、屋久島) ・生態系の変化 (屋久島) <p>ニューツーリズム/体験による環境学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズム (厚労省、尾瀬、屋久島) ・ジオツーリズム (鳥取砂丘) ・宇宙観光 (足尾銅山、野引浜) <p>地域資源への理解/尊重</p>
開発 基盤整備	<p>アクセス向上による入込客数の増加</p> <p>交通機関の運休に伴う観光客減少 (屋久島)</p> <p>運賃改定に伴う観光客数への影響</p> <p>理解施設の維持管理/コストの発生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木道 (山道の更新 (尾瀬、屋久島)) ・トイレ整備 (屋久島) 	<p>注目ブランド (地域活動) の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産の保護活動 (柳川) ・料理/加工 (野引浜) ・CSRのテレビCM (尾瀬) <p>新資源の発掘/新企画の立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラフ・イン・ザ・ニセコ ・エコツーリズム (厚労省、尾瀬、屋久島) ・湯めぐりバス (白倉温泉) <p>資源の劣化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地盤への湧水流入 <p>冠獲得に向けた運動/啓蒙活動</p>	<p>運搬施設によるマンパワー/資金力の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SBW北海道 (ニセコ、摩周湖) ・てしかかえごまち協議会 (厚労省) ・ニセコ山系観光連絡協議会 (ニセコ) ・尾瀬地区保全対策推進協議会 (尾瀬) <p>団体の結成/解散</p>	<p>資源の価値発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内発的 (ニセコ、野引浜、屋久島 etc.) ・外発的 (柳川、鳥取砂丘 etc.) <p>取次めによる利用制限/取得権益の発生</p> <p>資源環境の保護/改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハトリール (野引浜) ・掘削清掃 (柳川) ・保護運動の発祥 (尾瀬) ・保全を目的とする団体の結成 (柳川、尾瀬、鳥取砂丘、屋久島 etc.) 	<p>観光客の増加に伴うオーバー・パフォーンス/質変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高血圧の増大 (白倉温泉、伊香保温泉) ・相場の急落 (厚労省、尾瀬、屋久島) ・資源の汚染 (尾瀬、野引浜、屋久島) ・生態系の変化 (屋久島) <p>ニューツーリズム/体験による環境学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズム (厚労省、尾瀬、屋久島) ・ジオツーリズム (鳥取砂丘) ・宇宙観光 (足尾銅山、野引浜) <p>地域資源への理解/尊重</p>
資源 環境	<p>観光客の目的化</p> <p>制限に伴う観光客減少/満足度低下</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイカー規制 (厚労省、尾瀬、屋久島) ・入山規制/予約制 (尾瀬、屋久島) <p>利用制限による観光の質劣化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低価格の低い体験の提供 (白倉温泉、伊香保温泉) ・商業作業 (鳥取砂丘) ・採伐 (柳川、野引浜、鳥取砂丘) 	<p>注目ブランド (地域活動) の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産の保護活動 (柳川) ・料理/加工 (野引浜) ・CSRのテレビCM (尾瀬) <p>新資源の発掘/新企画の立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラフ・イン・ザ・ニセコ ・エコツーリズム (厚労省、尾瀬、屋久島) ・湯めぐりバス (白倉温泉) <p>資源の劣化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地盤への湧水流入 <p>冠獲得に向けた運動/啓蒙活動</p>	<p>運搬施設によるマンパワー/資金力の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SBW北海道 (ニセコ、摩周湖) ・てしかかえごまち協議会 (厚労省) ・ニセコ山系観光連絡協議会 (ニセコ) ・尾瀬地区保全対策推進協議会 (尾瀬) <p>団体の結成/解散</p>	<p>資源の価値発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内発的 (ニセコ、野引浜、屋久島 etc.) ・外発的 (柳川、鳥取砂丘 etc.) <p>取次めによる利用制限/取得権益の発生</p> <p>資源環境の保護/改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハトリール (野引浜) ・掘削清掃 (柳川) ・保護運動の発祥 (尾瀬) ・保全を目的とする団体の結成 (柳川、尾瀬、鳥取砂丘、屋久島 etc.) 	<p>観光客の増加に伴うオーバー・パフォーンス/質変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高血圧の増大 (白倉温泉、伊香保温泉) ・相場の急落 (厚労省、尾瀬、屋久島) ・資源の汚染 (尾瀬、野引浜、屋久島) ・生態系の変化 (屋久島) <p>ニューツーリズム/体験による環境学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズム (厚労省、尾瀬、屋久島) ・ジオツーリズム (鳥取砂丘) ・宇宙観光 (足尾銅山、野引浜) <p>地域資源への理解/尊重</p>

研究対象とした観光都市は、その歴史の中で様々な問題を抱え、解決に向けた取り組みを続けてきた。このため、先述した問題への対策や取り組みに関しても先駆的に取り組んできた場であるといえる。そこで、これらの観光都市がどのように観光振興と環境保全を接続し、両立させてきたのかを、先述した問題の種別ごとに観察する。

断続的な問題を抱えている場合、問題解決のためのステップとして、研究機関（中央省庁主導のものを含む）や大学による原因の解明が行われる（図-6.2）。例えば、鳥取砂丘の場合、環境省が主導する調査によって、草原化の原因が植林による砂の動きの低下と河川の護岸による砂の供給量の減少であることを特定した。また、除草をしても周囲の環境に悪影響がなく、人為的な影響を受ける前の景観に戻すためには必要な行為であると判断し、特別保護地区内の除草作業に許可を出したり、植林地を伐採するようになった。除草作業は、市民団体の参加や企業のCSRによって実施されており、経済的利益と対立することなく、持続性のある活動となっている。摩周湖の場合は透明度の低下に対して諸説あり、原因の特定には至っていないが、国立環境研究所によってモニタリング調査が行われるなど、保全に向けた調査が続いている。柳川の場合には、原因が生活廃水にあることは経験的に判明しており、その改善に向けた市民活動が続いている。

突発的な問題に対しては、市民活動によって環境保全を図ったり、啓蒙活動によって開発計画を回避してきた（図-6.3）。また、こうした活動はメディアの注目を集め、それ自体が観光都市の注目ブランドになることもある。例えば、柳川の堀割の埋立て計画が浮上した際に、市の職員が中心となって啓蒙活動を展開し、市民が堀割を地域の資源として再認識することで、埋立て計画は回避された。また、この活動を題材にした映画が製作されるなど、結果的に柳川の堀割は広く認知されるようになった。また、同様に琴引浜の場合は、リゾート計画や重油・廃棄物汚染の際には、市民団体が中心となって計画の回避や砂浜の美化に努めてきた。結果的に、ナホトカ号重油流出事故やその被害、重油回収活動等はテレビのニュースで大きく取り上げられ、琴引浜や鳴き砂の認知も高まった。尾瀬の場合は計画の回避を目的とする市民団体の活動が日本の自然保護運動の発祥とされ、計画を回避した事実とともに、歴史的な価値も大きい。なお、これらの問題に対しては、企業のCSRによる解決は観察されなかった。

オーバーユースや需要を満たそうとする中で生じる問題を抱えている場合は、①自主規制、②環境施設整備、③エコツーリズムによる解決が見られた（図-6.4）。自主規制の事例として、ニセコは不動産投資の過熱による乱開発に対応するために、倶知安町とニセコ町において準都市計画区域を指定した。また、白骨温泉や伊香保温泉では、使用する源泉の量を決め、当該源泉の採掘量を一定に保っている。環境施設整備の事例として、尾瀬では東京電力のCSRとして複線木道の敷設やエコトイレが整備されている。CSRの様子はテレビCMでも放送されていることから、尾瀬や東京電力の認知やブランド強化にも繋がっている。屋久島では、阪急交通社がバイオマストイレを寄贈するなどのCSRが実施されている。観光都市の場合は社会の関心も高く、企業としてのメリットも大きいことから、観光都市の環境保全とCSRとの相性は良いといえる。エコツーリズムの事例として、屋久島ではオーバーユースに陥りながらも、エコツーリズムの積極的な導入により、観光客のマナー向上や環境保全に成功した。エコツーリズムの場合、それ自体が売り物となって観光振興にも繋がる。観光振興を実現しつつ、環境に過度の負荷をかけないという好循環が生まれる。ガイドの育成等の課題も残るが観光の形態自体を変化させることで、観光振興と環境保全が対立するパラダイムから脱却することができる。

以上のように、観光都市においては、持続的な観光資源の利用を妨げる問題が発生することを前提に、その問題を迂回し、循環を再構築するような工夫が必要となる。これ以外にも、表-6.1

に示したようなブランド、開発、市民活動を介することで、高次間接的に観光振興と環境保全が対立しない循環を生むことは可能である。

これらの方法を実行しても、すぐに観光振興に直結するとは限らない。しかしながら、この持続的な資源利用循環を壊さない限り、何度でも観光振興に向けた挑戦が可能となる。沢山の取組みの中で、少しずつ観光振興を実現していくことはできる。開発・基盤整備を介さなければ、費用も抑えられる。また、限られた施策の中で“一発逆転”を狙う場合、多くは成功事例の模倣となる。成功事例の模倣は当然必要になるが、一方で沢山の施策と試行錯誤の中から生まれた地域独自の発想・企画こそが、当該観光都市の個性となり、観光客を引き寄せた例も多い。

現実の問題あるいは予想される問題に対して先述した手法を講じることで、持続的な資源利用循環の確保が可能となることを、先駆事例は示唆している。その知恵を活かし、持続的な資源利用循環を確保した上で、観光振興策や問題回避策等に対して、地域独自の着色をしていく必要があると考える。

環境保全と観光振興が、先述してきたような循環構造になっていると捉えた場合、保護施策が観光都市のブランド向上と観光振興を介してさらなる環境保全に繋がることも考慮しなければならない。事例の多くはキャパシティを越える資源利用が環境的・社会的問題を生じさせ、場合によっては観光都市ブランドの低下と観光客の減少を招くことを示唆している。しかし、観光客の来訪は地域に対して金銭的な利益をもたらす他、地域の市民活動のモチベーションに繋がる。そのモチベーションこそが地域の資源や環境を守る原動力となっている^{vi-2}。すなわち、環境保全や資源保護を考える際に、やみくもに保護施策を講じ、利用を制限したとしても、そこに生じるのは観光客と地元住民の“無関心”だけであり、永続的な保護の実現にはならない。従って、資源保全と観光利用が対立関係にあると考えるのではなく、保全と利用の関係を適切な形に維持していくこそが、適切な資源保全のあり方であると考えられる。そのためには、資源保全に向けた施策に加え、資源に影響のない範囲あるいは回復が可能な範囲を把握し、同一の資源量・消耗量の中で、入込数、満足度、利益を最大化する方法を考えなければならない。

例えば、湯巡り入場手形はその好例である。黒川温泉で初めて導入され、観光振興に成功した歴史がある。白骨温泉でも温泉偽装問題後に取り入れられた。これは「湯巡り手形（名称は温泉地により異なる）」を購入・入手することで、エリア内の異なる旅館の内湯に自由に入浴可能となるものである。温泉地によっては、内湯を巡り、数多くのスタンプを集めることで景品を贈呈する場所もある。つまり、本来無駄になってしまう“源泉掛け流し”のお湯を、観光客サービスのために活用し、利益と満足度の向上に成功した事例であるといえる。言い換えれば、キャパシティにまだ余裕があり、無駄に消費している源泉を有効活用した観光振興策である。また、湯巡り入場手形の性質上、旅館毎の源泉の違いをアピールする効果を持つ。白骨温泉はここに注目し、各旅館の源泉の違いをアピールする手段として導入した。すなわち、観光振興策を通じて、観光客に地元を知ってもらうことが狙いである。観光の質とブランド（≒信頼性）が求められる現代において、全国的に導入が進んでいることは示唆に富む。

vi-2 ヒアリング（鳥取砂丘、琴引浜）より

6. 2 観光都市ブランディング推進主体の変化と観光資源の更新

4章の分析から、観光客数を増加させるヒントを探してみると、事例の範囲で観光客の増加に関連する顕著な傾向は、「自然資源を持ち、かつ観光客数が伸びている観光都市では、国指定もしくは国際条約に基づいた保護指定を受けていて、地区以上の単位で資源の保全・活用を図っている」というものだけだった。この傾向に関して詳しく見ていくと、可逆性は認められなかった。すなわち、国指定以上の環境保護施策を面的に実施しただけでは観光客数が伸びるとは限らない。しかしながら、この傾向は、過去の事例において観光振興に成功した観光都市が、国指定以上の保護施策を、地域のブランド向上に役立ててきたという事実を証明している。加えて、財政の緊縮化が進む日本では、交通網の整備や施設整備による観光振興は期待できない。その意味でも、地域資源の(見かけの)価値向上と、外部からの注目獲得を実現する地域ブランディングへの期待はますます大きくなるだろう。

これまでブランド向上策の多くは、行政の役割であった。行政は、市町村指定の文化財や名数選指定から始め、都道府県、国、最終的には世界へと、より大きな主体から資源の認定・登録・指定を得ることで、資源の価値を上げてきた。しかし、冠の乱立傾向は否めない。指定されても、年数を経ることで風化することが指摘^{vi-3}されているし、マスツーリズム化すれば事例に示したような問題や、観光客の飽きに繋がる可能性^{vi-4}もある。また、乱立に伴って冠ブーム自体が終わる可能性もある。その時に、観光都市に残るものは少ない。また観光客の減少が環境保全にプラスになるわけでもない^{vi-5}。

長期的な視点で見れば、前節で述べた持続的な資源利用循環を構築した場合でも、社会や流行の変化により、資源の利用方法やその意味が陳腐化していく可能性もある。その場合には、資源の利用方法や意味を追加・更新し、観光客から飽きられないように努める必要がある(図-6.5)。

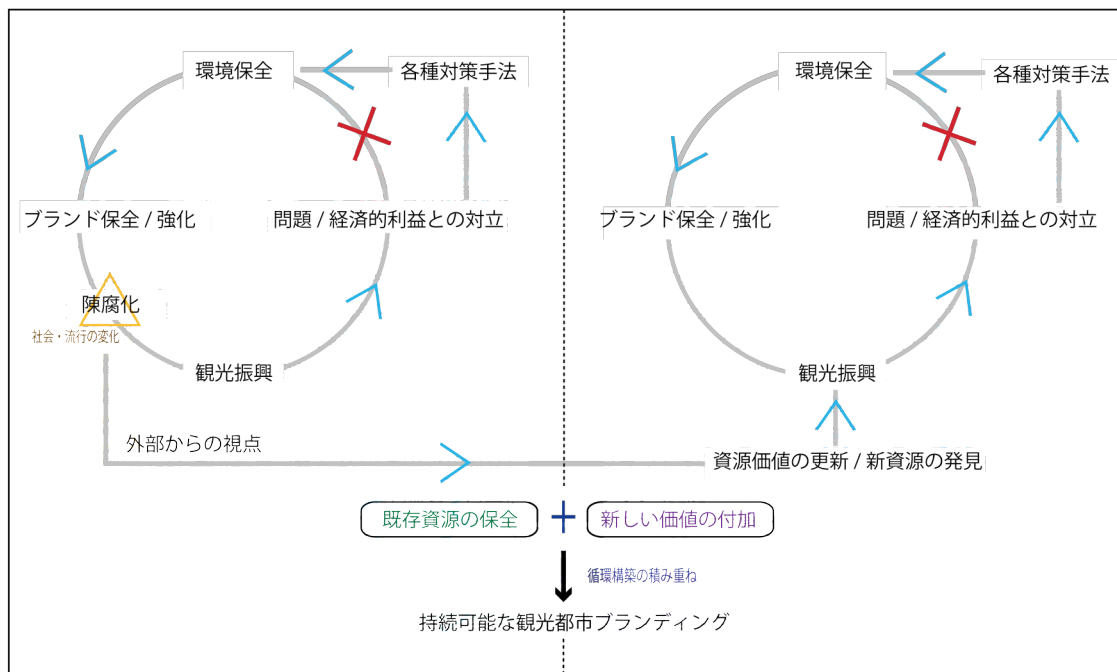


図-6.5: 資源の更新と新循環の構築

vi-3 ヒアリング(琴引浜)より
vi-4 ヒアリング(屋久島)より

vi-5 ヒアリング(鳥取砂丘, 琴引浜)より

だからこそ、今後は民間企業・市民ベースでの観光都市ブランディングが重要になる。既にニセコのラフティングや屋久島でのエコツーリズムは、地域の産業として定着した。いずれも、本来地元側が資源として認識していなかったものを、外発的な発見により、地域の新たな魅力・産業として売り出すことに成功した。この新資源についても、当然ながら、問題や危機に直面する可能性はある。事故対策や周辺環境への配慮が必要となるだろう。しかし、地域資源の利用方法や価値を更新・補強し、新たな資源利用循環が生んだ事例であるといえる。新しい問題や危機を生じる可能性は排除しきれなくても、新たな資源利用循環を構築したことで、観光都市としての陳腐化や観光客の飽きは当面回避できる。また、体験型観光やエコツーリズムの場合、その特性から、環境保全とも対立せず、質の高い循環が構築できる可能性が高い。

この事例は、インターネットが普及し、ニューツーリズムの需要が高まる現代においては、民間ベースでの観光都市ブランディングが可能であることも同時に示唆している。4章の傾向分析では圏域が小さい程、観光振興に苦戦している傾向が示された。確かに柳川の事例を見てみると、自治体単位で堀割という同一の資源・イメージが認知されていることで、そのイメージを強化する事業や施策に注力できている。従って、観光都市ブランディングの主体が民間企業・市民ベースに移行した場合でも、行政や団体間の連携を推進し、広い圏域で活動を展開していく必要があると考える。

6. 3 今後の観光都市ブランディングへの示唆

5章では、現行施策の問題点として、施策の目指す保護が形の保護であって、意味の保護ではない点を指摘した。意味の保護のためには、資源に合わせた柔軟かつダイナミックな保護施策が重要となる。例えば砂丘ならば、景観的に特異な場所に限定せず、砂の供給源である山地や河川も含めた保護をする必要がある。重要伝統的建造物群保存地区のような文化的な場であれば、本来の業の継続に対してインセンティブを与え、地域住民の生活を変化させないことに対するメリットを用意する必要がある。指定と観光客の増加による土産物屋化・俗化を防ぐ工夫が必要だろう。そうすると、文化庁による文化財(重要伝統的建造物群保存地区)による面的・形的な保護だけでは不十分で、省庁や施策分野の壁を越えた一体的対策が必要であると考えられる。観光客の目を楽しませるためのデザインやブランドの強化は、時として過剰演出となり、その地域の資源、歴史、文化、生活の中の真正性(オーセンティシティ)を失わせる。見た目は美しい建築や都市でも、そういった画一的なデザインを地域の特色と混同した時、観光客の飽きと地域の衰退を生むと考える。リゾート都市、文化観光都市、環境学習観光都市、農業体験観光都市等様々な形があっても良い。しかし、歴史や生活の中で培われた観光の型・資源の特性から逸脱する利用をした場合、資源的な限界が訪れ、問題が生じることを本研究の事例は示唆している。観光振興に向けたアクションは積極的に行うべきである。しかしやみくもに観光振興を目指すのではなく、まずは当該観光都市の資源が持つキャパシティを自覚することが重要である。質や価値を落とす利用形態である場合、その観光都市のブランドは下がり、結果的に観光客も離れる。観光客が離れると、市民はやがて当該資源に対して無関心になる。無関心になると鳥取砂丘や柳川の歴史に見られるように、資源の質や環境が劣化する。反対に、関心を集めたことで尾瀬がダム化を免れた例もある。つまり、観光振興が行きすぎると保護対象となってもオーバーユースによる劣化と破壊が生じ、観光客が無関心になると保護の形骸化が進み劣化・破壊が生じる。すなわち、観光振興による影響を資源の持つキャパシティの範囲内に維持し、範囲内で利益を最大化することこそが当該観光都市におけるブランディングの最適解となる。

今後、観光都市には、自らの経験や他の観光都市の危機・問題から得られた教訓を受け入れ、活かしていく柔軟さが求められる。例えば、観光都市が冠ブランドの獲得を目指す傾向はしばらく続くと考えられる。冠ブランドの獲得は、市民活動の活発化や観光客の誘致による経済的利益を生む。しかし、そこにゴールを設定することは、今日までに多くの観光都市が失敗してきた教訓を活かしているとは言えない。冠ブランドの獲得は、冠の乱立により、さほど難しいことではなくなっている。つまり、冠を獲得すること自体の価値は低下してきている。冠ブランドの獲得を目指すことや実際に獲得することは長期的・持続的な観光都市の繁栄・維持を考える上では重要ではない。必要なのは、どのように保全と活用をしていくかを構想し、持続可能な資源利用循環を構築するかという点である。冠ブランドの獲得はあくまでその一手段であり、最終的な目的にはなり得ない。この構想力を持つことで、予防的な対応ができるとともに、仮に資源が危機に陥った際にも迅速な対応が可能となっている^{vi-6}。これによって、初めて持続的な資源の利用が可能となり、ブランドの低下を回避したかたちでの観光振興が可能となる。

また、伝統を守りながらも新しいものを取り入れる勇気も必要となる。例えば、先述し

vi-6 see.e.g. 屋久島

た湯巡り入場手形，エコツーリズム，禁煙ビーチ化，ラフティング観光等は地域の環境と観光を取巻く施策としては先駆的であり，資源に新たな価値を付加した事例といえるだろう．その取組みを先導する人物の共通点としては，環境保全と観光振興のどちらも重要とする立場をとっている点にある．また，施策自体も観光振興効果に加えて資源の有効活用，環境学習，環境保全効果をそれぞれが併せ持っている．こうした一石二鳥の施策が実際の観光都市において定着し，地域にも観光客にも受け入れられている．これを，ここまで考察してきた観光都市の視点から考えてみると，資源の新しい利用方法を発見したことで，

- (1) 資源に新たな価値が付加され，新しい資源利用循環が生まれた．
- (2) 観光都市内部での持続的資源利用循環が生まれたことで，経済的にも潤った．
- (3) 観光振興あるいはブランディングと環境保全を相互に実現する施策を講じることで資源の利用と保全を円滑に接続する効果があった．

といえる．すなわち，地域にとって資源的・経済的に無理がなかったために，定着したものと考えられる．

観光都市の創成期においては，観光都市へのアクセスを確保・改善することで，観光客数を増やしてきた．この方法は非常に効果が高かった．しかし，社会経済は変化し，道路網は既にある程度の水準に達し，また，人口が減少する時代に突入している．バブル期のような飛躍的な観光振興を狙うのは現実的ではないし，変化してきた観光の形態に観光都市側も順応していく必要がある．しかしながら，マスツーリズムの時代が去り，新しい観光形態が生まれつつある昨今でも，地域の持つ資源は劇的に変化するわけではない．だからこそ，資源を持続的に守りながら，場合によっては価値を付加しながら，認知を深めてもらう努力を続けるしかない．認知が深まれば，新しい利用の仕方，価値の発見は内外から自然と出てくる．全国の神社がパワースポットブームで再興しつつあるように，厳しい状況の中でも，その意味や質を維持していくことができれば，必ず再認識・再評価を受ける場面が訪れるものと考えられる．従って，先述してきたように，資源の質を維持し，その範囲で最大のサービスを発案・提供する姿勢が重要となる．

「資源の形・質・意味の保護」は「様々なかたちでの認知と観光都市のブランディング」に繋がる．「観光都市のブランディング」は「観光振興」に繋がる．「観光振興」はそこで生じる問題を回避し，地元の意識向上と金銭的メリットを担保することで「資源の保護」に接続できる．また，観光都市の陳腐化を防ぐためには，「資源の価値の補強」が必要になる．この保護，認知，利用，補強の持続的循環の構築とその積み重ねこそが，今後の観光都市ブランディングのあり方であると考えられる．

第7章

結論

- 7. 1 結論
- 7. 2 本論文の成果と課題

7. 1 結論

本論文の結論を以下に列挙する。

【ケーススタディより】

- ① 観光客数が増減する要因は、気候的要因、基盤的要因、社会経済的要因、資源・環境的要因、ブランド的要因に大別できる。
- ② このうち、ブランド的要因は地域のイメージ認知や強化のきっかけにもなり、
 - a) 冠ブランドの獲得
：名数選出、世界遺産登録、国立公園指定、文化財登録等
 - b) 注目ブランドの獲得
：ドラマ、映画、報道、地域活動、イベント、楽曲、ラジオ、文学、記録、歴史等に分類できる。

【モデル化、分類による分析より】

- ③ 冠ブランドの獲得は観光都市の創成期である場合が多いが、近年も再び世界遺産登録や名数選等の冠ブランドが出現している。
- ④ 注目ブランドの獲得は観光都市の時期区分に関係なく生じる。中には、テレビの普及以前にラジオや文学作品によって観光都市のイメージが構築・認知され、現在でも受け継がれているものもある。近年では、インターネットのロコミや、企業の CSR、新資源の発掘によって観光都市の資源の認知が進むケースもある。
- ⑤ 観光都市の抱える危機・問題はその対策手法から、a)継続的問題、b)突発的問題、c)オーバークースの問題に分類できる。
- ⑥ 自然資源を持ち、かつ観光客数が伸びている観光都市では、国指定または国際条約に基づく保護指定を受けていて、地区以上の単位で資源の保全・活用を図っている。

【事象・施策の整理より】

- ⑦ 観光都市における環境保全活動は、a)環境保全効果だけを持つもの、b)観光振興効果を併せ持つもの、c)地域や資源のブランディング効果を併せ持つものに分類できる。
- ⑧ 国または世界的な環境施策の指定・認定は、資源の価値の裏付けを得ることに等しい。これにより、環境施策が資源と観光都市の価値向上の目的に活用され、観光客を呼び込むための手段となっている。また、こうした冠ブランドは年代によって種類を変化させつつも、現在は乱立傾向にある。

本論文では、環境施策が観光都市のブランディングに繋がってきた事実、観光都市ブランディングが観光振興に繋がる事実、観光振興が様々な環境・資源問題を発生させる事実を示してきた。また、先駆的な観光都市が模索の中で発見した、問題回避手法を整理した。

今後はこうした先進事例の教訓を活かしつつ、持続的な観光資源利用の循環を再構築していく必要がある。また、その循環を単発的なもので終わらせてしまうのではなく、資源の形・質・意味を一体的に保全する柔軟かつダイナミックな施策を講じることで、永続的な循環に代えていく必要がある。

また、より長期的に考えるのであれば、観光資源の利用方法や価値の更新・補強により、新たな資源利用循環を構築する必要がある。社会の変化に対応することで、観光都市としての陳腐化を防ぐことも考えなければならない。

上記の資源利用循環の再構築・更新・補強とその積み重ねこそが、今後の観光都市ブランディングのあり方となる。以上を本論文の結論とする。

7. 2 本論文の成果と課題

本論文の成果としては、以下の項目が挙げられる。

- ① 事例分析により、観光都市の資源認知・保全を取巻く事象とその繋がりを解明するとともに、観光客数が増減する要因を抽出した。
- ② 観光都市のイメージ認知・保全プロセスのモデル化により、観光都市におけるイメージの付与、危機、市民活動、ブランディング、公的施策、基盤整備を時系列に沿ったかたちでパターン化した。
- ③ 分析により、一部の環境施策が観光都市のブランディングに寄与する傾向があることを解明した上で、地域ブランドに繋がる環境施策の全容を整理した。

上記の項目を整理したことにより、今後多くの地域が観光振興を目指す中での、示唆・教訓・指針になると考えている。

先述したように、本論文では様々な特徴を持つ全国10ヶ所の事例を調査し、モデル化することで、観光都市のイメージ認知とその強化がどのように展開されてきたかを明らかにした。研究対象とした観光都市は、全て何らかの課題や問題を抱えている、もしくは克服してきた観光都市であり、観光都市において生じる様々な問題に対してどう対応し、結果的にどうなったのかを観察するという意味では、示唆に富む事例であったと考えている。しかしながら10ヶ所の事例だけでは、本論文の分析結果を観光都市の全体の普遍的現象として捉えるのは難しい。従って、より多くの事例収集をして、適宜モデルの精度を向上させていく必要がある。

また、仮に全国の事例・観光統計（一律の統計条件）を集めれば、事象間の因果関係の大小を定量的に分析することも可能となる。例えば、共分散構造分析を行えば、要素の構造化と寄与度を検証できる。また本論文の一部でも用いた社会ネットワーク分析による傾向分析もより制度の高いものとなり、類似性の評価と要素間の結合構造など、傾向を判断すること以上の分析が可能であると考えられる。

現在、観光統計の統一化が進んでいるが、統計の蓄積と検証には時間がかかる。従って、まだしばらくは、成功事例と失敗例のケーススタディを通して観光的な示唆を得ていくしかない。地域の観光を支え、守ってきた人々の知恵から学ぶ事が重要となる。資源の破壊は、観光都市側の儲けの拡大、観光客の身勝手から生じる。つまるところ、人のエゴから生じる問題である。観光都市のイメージ認知・保全プロセスの中には、愛着、誇り、責任、欲など、数値化しにくい要素が多いのも事実だ。そして、何らかの形で繋がり、観光都市の盛衰に影響を与えている。統計データの乏しい今だからこそ、検証されるべき事象はまだ多い。限られた情報の中で、有意義な検証をし、多くの示唆を得る工夫が必要であると考えられる。

卷末資料

巻末資料では、本文の流れや構成上、本文内では紹介しなかったものの、内容を補足するために必要と考えたものを記載する。

表：巻末資料一覧

資料 No.	資料内容
1	梗概
2	資料提供・ヒアリング依頼文
3	研究対象に選んだ観光都市の観光客数データ
4	ヒアリング項目と回答※
5	社会ネットワーク分析計算表
6	文化財一覧（本文で記載した以外のもの）
7	市民団体連携施策の例とそのメリット
8	研究対象決定に向けたスタディ（結果的に採用しなかった事例：富士五湖）

※ヒアリングの回答に関して

ヒアリングでは、地域の抱える問題やその原因、プロセスについても調査している。この中では、個別の団体（旅館等）に対して批判的な意見もあった。本文中では、固有名詞は用いずに名前を伏せた上で当該観光都市の問題や危機を示しているが、ヒアリングの際には問題の原因となった団体の固有名詞まで聴いている。

本論文では、観光都市の危機や問題に対して積極的に調査・抽出を試みたが、個別の団体を批判する意図はない。このため、ヒアリングに応じてくれた人物やその批判対象となった団体の不利益になるような事柄は、意図的に記載していない。

資料 1

梗概

観光都市におけるイメージ認知／保全プロセスの比較研究

Comparison Study on the Process of Brand Image Construction and Regional Resource Protection in Sightseeing Area

学籍番号 096772
氏名 丸上 雄哉 (Yuya, MARUGAMI)
指導教員 清家 剛 准教授

1. はじめに

1.1 研究の背景

少子高齢・人口減少社会を迎えた日本において、観光は地域経済を活性化し、街に対する誇りや愛着を涵養する手段として注目されている。観光白書によれば、平成20年度における国内旅行消費額は23.6兆円、生産波及効果は51.6兆円（国内生産額の5.3%）であり、雇用誘発効果も含め、日本経済に与える影響は大きい。現在、日本ではビジット・ジャパン・キャンペーンの展開や、中国人の個人向け観光ビザの解禁等、観光立国に向けた動きが活発になっている。

観光客誘致のためには、日本らしさや個性となる地域資源を活用し、観光都市としてのブランディングを進める必要がある。しかしながら、観光資源が、各観光都市において持続可能な形で利用されているとは限らない。例えば、鹿児島県屋久島町では、世界遺産登録を契機に観光都市としてのブランドが向上し、観光客が急増した。これにより島内経済は潤ったが、登山道におけるし尿問題や植生（屋久杉の根）の踏み荒らし問題が生じた。観光振興と資源の保全がトレード・オフの関係に置かれた典型例である。

こうした問題は、観光立国を目指す動きの中で、今後さらに増加するものと推測される。従って、これまでに観光資源の危機・問題に直面してきた観光都市の対応と結果を観察し、今後の観光計画に活かしていく必要がある。

既往研究では複数事例を比較する論文は少数であった。また、本研究の特色である、観光都市のイメージ認知を取巻く人・社会・資源の変容に着目した研究、ブランディングと資源破壊過程を結びつけて追った研究は見られなかった。

1.2 研究の目的

以上を踏まえ、次の研究目的を設定した。

- ① 資源的危機に直面した観光都市の変容事

例の収集・全容把握

- ② 観光都市のブランディング・資源保全プロセスの構造化

これらにより、観光都市のブランディングのあり方を提示するとともに、地域の特性を活かし、魅力と持続性を有した観光都市の構築に寄与することを最終的な目的とする。

1.3 研究の方法

目的達成に向け、現地調査、ヒアリング、資料・文献調査により情報を収集した。個別事例については a)観光都市としての盛衰状況とその背景となった出来事・施策・活動、b)観光振興を進める中で直面した環境・資源問題とそこでの対応・結果を整理した。その上で対象全体として、c)傾向分類に基づくブランディングや資源保全の現状分析 d)対象観光都市で観察される普遍的要素の抽出と分析をした。傾向分析には社会ネットワーク分析（行列計算）を用いた。

2. 研究対象とその概要

2.1 研究対象の選定基準

研究対象は、次に示す基準により選定した。

- ① 地域資源を核とした観光都市
- ② 観光産業への依存が大きい場所
- ③ 開発・利用・保全など人間が観光資源に対して影響を与えた場所
- ④ 環境・社会問題を内包した観光都市

2.2 選定した観光都市と観察要素の概要

表1に研究対象として選定した全国10ヶ所の観光都市と、各観光都市が経験したイメージ認知・強化のきっかけ、資源の危機・問題、主な対策・対応、その他についてまとめた。

次節に白骨温泉の事例分析を示す。また、他の観光都市についても同様の調査を実施した。

3. ケーススタディ

3.1 白骨温泉の概要とブランドの変遷

白骨温泉（長野県松本市）は山に囲まれ、湯川

の流水音が常に響いている。集落は、温泉宿が10軒、日帰り入浴施設が2軒、土産屋・蕎麦屋・案内所が各1軒、その他に空き屋や物置で構成され、民家は無い。交通アクセスも悪い。こうした立地構成上に、炭酸水素塩泉という良好で珍しい温泉が沸いていることから「秘湯」と呼ばれている。源泉は透明で時間が経過すると白濁する性質があり、白骨温泉のイメージを構築している。

表1 研究対象とした観光都市と着目要素

観光地名	イメージ認知・強化のきっかけ	資源の危機・問題	主な対策・対応 (問題発生前からの取組みも含む)	観光客推移の形 / 最盛年 現在の状況 / その他
白骨温泉	・ 秘湯ブーム (朝日新聞) ・ 温泉偽装問題	・ 白濁温泉の枯渇 ・ 温泉偽装問題	・ 内湯巡り ・ 温泉表示認定制度	・ 山型 / 2000年 ・ 転換・過渡期
柳川	・ 映画「からたちの花」 ・ 北原白秋「大柳川都市計画論」 ・ 映画「柳川掘割物語」	・ 堀割の水質悪化 ・ 堀割埋立て計画	・ 水路美化 / 清掃活動 ・ 市職員による啓蒙活動	・ 増加継続型 / 2004年 ・ 繁栄期
ニセコ山系	・ 豪州でのネットロコミ ・ 外国人観光客の急増 ・ 地価上昇率日本一	・ 乱開発 ・ 円高 (観光客減少の懸念)	・ 準都市計画区域の設定 ・ 大規模リゾート開発 ・ 母国語によるケア	・ 増加継続型 (内訳変化) / 1990年 ・ 成長期
伊香保温泉	・ 温泉都市計画 (石段街の形成) ・ 石段の延伸 ・ 「黄金の湯」・「子宝の湯」	・ 温泉使用の利権問題 ・ 低価値 / 循環湯の「天然温泉」表示	・ 白銀の湯の発見と利用 ・ ※黄金の湯に比べて低価値 ・ 証明書の発行	・ 山型 / 1991年 ・ 転換・過渡期
摩周湖	・ 透明度世界一 (1931年での記録) ・ 布施明「霧の摩周湖」	・ 透明度の低下	・ マイカー規制 ・ ※無根拠とする批判。 ・ ていかげえこまち協議会	・ 山型 / 1991年 ・ 衰退期 / 中国における道東ブーム
尾瀬	・ NHK ラジオ「夏の思い出」 ・ 木道敷設 ・ 自然保護運動の発祥 / CSR	・ 水力発電ダム計画 ・ 道路建設問題 ・ ブームに伴う裸地化	・ 複線木道の敷設 ・ マイカー・バス通行規制 ・ 自然保護運動 / 募金 / 登録	・ 複数山型 / 1996年 ・ 成長期 ・ ※2009年は減少
足尾銅山	・ 足尾銅山鉱毒事件	・ 鉱毒のイメージ ・ リピーター獲得の失敗と観光客の継続的減少	・ 環境教育施設の設置 ・ 保安林解除 / 伐採 ・ 史跡指定 / 名数選等	・ 衰退継続型 / 1984年 ・ 世界遺産登録の模索 ・ 足尾銅山観光は1980年にオープン
鳥取砂丘	・ 砂丘保存運動 ・ 天然記念物 / 国立公園指定	・ 農業利用 / 砂防目的の植林 ・ 雑草繁茂と煩雑な除草手続き ・ 上記に伴う砂停滞・景観変化	・ 天然記念物 / 国立公園指定 ・ 保安林解除 / 伐採 ・ 除草作業	・ 複数山型 / 1972年 ・ 転換・過渡期
琴引浜	・ 三輪茂雄氏の訪問 ・ 町や国の文化財指定 / 名数選 ・ 事故や保護活動のメディア報道	・ 重油流出事故 ・ リゾート開発計画 ・ 草 / 廃棄物 / 灰による汚染	・ 鳴き砂を守る会の活動 ・ 禁煙ビーチ化 ・ 名勝 / 天然記念物指定	・ 複数山型 / 1990年 ・ 衰退期 ・ ※近年は衰退傾向が続く
屋久島	・ 縄文杉の発見 ・ 屋久島環境文化村構想 ・ 世界自然遺産登録	・ し尿 / コミ問題 ・ 屋久島の根の踏み荒らし ・ 猿 / 鹿害	・ エコツーリズム / 環境学習 ・ 利用調整 / デッキ等の整備 ・ 各種登録 / 指定 / 募金	・ 増加継続型 / 2007年 ・ 転換・過渡期 ・ ※現在の減少は一時的という見方

3.2 白骨温泉ブランドの変遷

白骨温泉ブランドを取巻く出来事と観光客数の経年変化を図1にまとめた。

白骨温泉は、中里介山の小説『大菩薩峠「白骨の巻」』により、広く知られるようになった。その後、観光客数は交通基盤の整備や旅館の通年営業化により徐々に増加していき、1980年代前半からの秘湯ブームにより急増する。ブーム中は案内所や遊歩道など、白骨温泉内の基盤整備が進んだ。しかしながら、景気後退等の影響から、2000年を境に観光客数は減少に転じた。加えて、2004年7月には、入浴剤使用が発覚し、その傾向に拍車がかかってしまった。以降、白骨温泉を訪れる観光客数(入込数)は、年間19

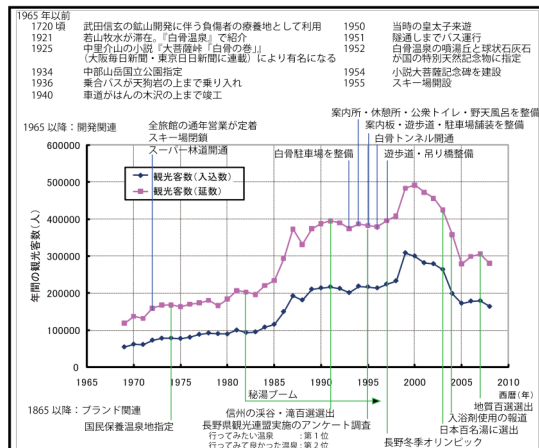


図1 白骨温泉ブランドを取巻く出来事と観光客数の経年変化

3.3 白骨温泉のイメージ変容プロセス

白骨温泉のイメージを変化させた社会・潜在的要素とその構造を図2にまとめた。

白濁で有名な白骨温泉では、朝日新聞発の秘湯ブームにより観光客が急増した。しかし、白骨温泉は中部山岳国立公園に指定されており、また源泉を持つ旅館の既得権保護(源泉枯渇の回避)の観点から、新たな源泉採掘は不可能である。こうした事情の一方、ブームに対応するかたちで各旅館が湯船の拡張・増設をしたことにより、温泉の加水や他源泉の併用が必要になった。湯船の拡張は、お湯と空気との接触面が広がることも意味しており、お湯が冷めやすくなったことで、加温も必要になった。また、全国

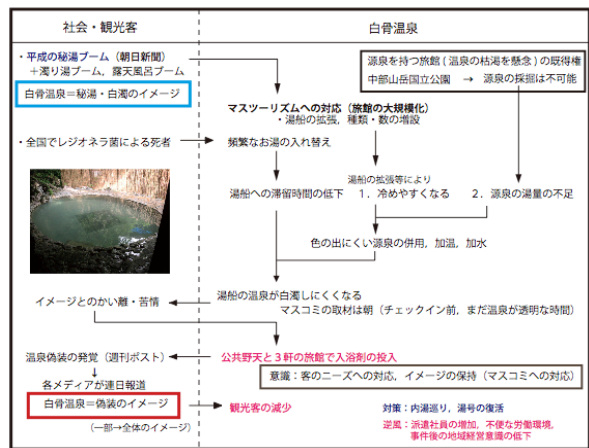


図2 白骨温泉のイメージを変化させた要素とその構造

的なレジオネラ菌対策を背景に、お湯の頻繁な入れ替えを余儀なくされ、滞留時間が低下した。

温泉の①加水、②白濁の薄い源泉併用、③加温、④滞留時間の低下、は温泉の白濁を薄くする原因となり、観光客からの苦情が増えた。加えて、マスコミの取材は、旅館の営業サイクルの関係上、朝に集中する。朝はお湯を入れ替えたばかりであり、湯船の温泉は透明である。こうした事情から、イメージ保持に苦慮した組合(公共野天)と三軒の旅館は入浴剤を入れるようになった。この様子が週刊誌によって明るみとなり、温泉偽装問題として各メディアが連日報道した。結果、偽装のイメージを持たれるようになり、白骨温泉は大きなダメージを受けた。

白骨温泉は、オーバーユースによって提供できる資源の質が低下し、イメージの悪化と観光客数の減少を招いた事例であるといえる。

4. 分析結果

4.1 観光客の増減が生じる要因

ケーススタディでは、以下の要因により観光客数に変化が生じることを確認した。

- ① 気候的要因：気温、天候と交通への影響等
- ② 基盤的要因：交通・施設の新設、料金改定等
- ③ 社会経済的要因：景気、ブーム、風評等
- ④ 資源環境的要因：資源環境の質変化、新資源発掘、利用規制等
- ⑤ ブランド的要因：
 - a) 名数選選出、世界遺産登録、国立公園指定、文化財登録等による「冠」ブランドの獲得。
 - b) ドラマ、映画、ニュース、地域活動、イベント、歴史等による「注目」ブランドの獲得。

4.2 観光都市のイメージ認知/保全プロセス

ケーススタディを基に、年代や観光都市の盛

衰状況に応じた資源の危機・問題、民間・市民活動、基盤整備、公的施策、ブランディング、イメージ認知・強化の流れを図3に整理した。

観光都市のイメージを認知・強化するような冠ブランド(国立公園指定、文化財登録等)の獲得は観光都市の創成期である場合が多いが、近年も世界遺産登録や名数選等の冠ブランドが出現している。

一方、注目ブランドの獲得は観光都市の時期区分に関係なく出現する。中には、テレビの普及以前にラジオや文学作品によって観光都市のイメージが構築・認知され、現在でも受け継がれているものもある。近年ではインターネットのロコミや、企業のCSR、新資源の発掘によって観光都市の資源の認知が進むケースもある。

また、観光都市の抱える危機・問題はその対策手法を基準に、①断続的問題、②突発的問題、③オーバーユース的問題の3種類に分類できる。

4.3 観光都市における資源問題・危機回避手法

断続的な問題(柳川：堀割の水質悪化、摩周湖：透明度低下、鳥取砂丘：草原化)の場合、原因の解明が必要になる。鳥取砂丘では環境省の調査により、草原化の原因が植林による砂の動きの低下と河川護岸による砂の供給量の減少にあることを特定した。これに基づき、国立公園の特別保護地区内の除草作業に許可を出したり、植林地の伐採が進んだ。除草作業は、市民活動や企業のCSRとして実施する例が見られる。

突発的な問題(柳川：堀割埋立て計画、尾瀬：ダム・道路建設計画、琴引浜：重油流出事故等)に対しては、市民活動・啓蒙活動によって環境改善したり、開発計画を回避してきた。こうした活動はメディアの関心を集め、それ自体が観光都市の

		各項目の出現時期と内容の変化					
民間・市民活動	I 断続的に存在	地域資源としての認知 / 行政からの引き継ぎ					
	II 事故突発的計画	地域資源としての認知 → 開発計画の中止：活動・団体の終息 or 存続 → 新たな危機の発生：団体の活動内容の拡大・変化					
	III オーバーユース観光的要求	ブーム / キャパシティ以上の客数 問題の表面化 → 利用制限 / 回復事業等 → CSR					
資源の認知・イメージの付与		ブーム / 映画 / ラジオ / 伝説 / 楽曲 / 国立公園指定 / 文化財指定 をきっかけとする資源の認知・イメージの確立 → マイナスイメージの付与 → 世界遺産 / 映画 / 環境学習 / CSR 事故 / 活動によるイメージ付与					
ブランディング		映画 / テレビ / ラジオ / 楽曲 / 文学 / 記録 天然記念物 / 国立公園 / 国民保養温泉地 → 百選 / 映画 / テレビ / 楽曲 → 百選 / 世界遺産 / 地域遺産 / 楽曲 海外映画 / 天然記念物 / インターネット					
公的施策		国立公園指定 / 文化財指定 → 自然公園 / 文化財を保護し、地域の個性を強化する 計画 / 事業 / イベント / 条例 / 設立 → 世界遺産 / ラムサール条約 景観保護 / 地域連携推進施策					
開発・基盤整備	外部からのアクセス	外部からのアクセスを可能にする道路 / 鉄道 / 飛行場 → 大都市圏からのアクセスを容易にする鉄道(新幹線・エクスプレス) / 航空定期便等					
	内部の施設整備	環境保全&観光目的施設(木道 / デッキ) 整備 観光の基盤となる スキー場 / テーマパーク / 公共浴場 / 宿泊施設 観光地内部の基盤整備(町道 / 遊歩道 / 街並整備等) → 環境 / 文化 / 情報発信施設					
観光都市の時期区分		創成期	成長期	繁栄期	衰退期	近年転換期 / 第2成長期	

図3 観光都市のイメージ認知/保全プロセス

注目ブランドになることもある。琴引浜では、「琴引浜の鳴り砂を守る会」が中心となってリゾート計画の回避や砂浜の美化に努めてきた。特にナホトカ号事故の際の重油回収活動は報道で大きく取り上げられ、琴引浜や鳴き砂の認知も高まった。

オーバーユースにより生じる問題（白骨温泉：白濁の薄化，ニセコ：乱開発，伊香保温泉：温泉表示問題，尾瀬：裸地化，屋久島：し尿問題等）に対しては，①自主規制，②環境施設整備，③エコツーリズムによる解決が見られた。

ニセコ（倶知安町とニセコ町）は不動産投資の過熱に対応して準都市計画区域を指定した。また，白骨温泉や伊香保温泉では，使用する源泉の量を決め，当該源泉の採掘量を一定に保っている。尾瀬では東京電力の CSR として複線木道の敷設やエコトイレが整備されている。CSR の様子はテレビCMでも放送されていることから，尾瀬や東京電力の認知やブランド強化にも繋がっている。観光都市の場合は社会の関心も高く，観光都市の環境保全と CSR との相性は良い。屋久島ではエコツーリズムの積極的な導入により，観光振興と同時に観光客のマナー向上や環境保全に成功した。

5. 観光都市におけるブランディングのあり方

国または世界的な環境施策の指定・認定は，資源と地域の価値の裏付けを得ることに等しい（表 2）。このため，観光都市は国立公園等の冠獲得に躍起になっている。しかし，こうした

冠ブランドは年代によって種類を変化させつつも，現在は乱立傾向にある。画一的な法律による保護は個別の資源特性に対応できず，形骸化やオーバーユースなど新たな問題を発生させた。

今後は先進事例の教訓を活かし，観光資源の危機や問題の発生を前提として，図 4,5,6 に示したような持続可能な資源利用循環を再構築していく必要がある。同時に，観光都市の陳腐化を防ぎ，発展を続けるためには，循環を保持した上での利益の最大化の一方で，資源の更新・補強が必要になる。ニセコのラフティングや屋久島のエコツアーのように，資源の新たな価値の発見・活用を進めるとともに，そこでも新たな資源利用循環を構築していく必要がある。

そして，環境・ブランド・観光の相互関係を意識し，供給源，生態系，観光・交流等，資源を取巻くあらゆる要素の循環構造に配慮した保護を進めるべきである。資源の形・質・意味を一体的に保全する柔軟かつダイナミックな施策を講じることで，永続的な循環に代えていく必要がある。その循環構築と積み重ねこそが，今後の観光都市ブランディングのあり方だと考える。

主要参考文献

- 1) 敷田麻実「観光による持続可能な地域資源の活用戦略」,2010
- 2) 井上美奈,伊藤香織「都市ブランディングの現状と可能性 日本の先進事例を通じて」,2006

表 2 観光都市における環境施策（ケーススタディより抽出）

施策	効果			観光地に適用する場合に観察される課題・問題点	施策	効果			観光地に適用する場合に観察される課題・問題点
	環境保全	観光振興	ブランド			環境保全	観光振興	ブランド	
世界遺産条約	○	○	○	観光客の増加に伴うオーバーユース，資源の劣化，また，それを懸念する自然保護派からの反対運動や，土地利用制限を嫌う市民の反対運動などが発生。	景観条例・建築協定・デザイン規制	○	△	○	観光振興のために，市民や所有者の経済・管理・生活的負担が大きくなる。
ラムサール条約	○	○	○		エコ施設整備	○	○	○	
世界ジオパークネットワーク登録	△	○	○		募金・協力金	○	○	○	観光客の負担増加。割高感。
自然保護法（国立公園指定）	○	○	○	特別保護地区内でも入浴が許可されるなど，米国に比べ，日本の国立公園制度では観光利用の比重が大きい。国立公園に指定されていても，国有林では地権区分及び林野庁（地主）の意向次第で森林伐採が可能。	植栽・清掃・環境改善活動	○	△	○	
文化財保護法	○	○	○	形骸化。高齢化（重要伝統的建造物群）。	植林・記念植樹	○	○	○	
保護林指定（森林生態系保護地域指定）	○	○	○	国有林野事業の財政難に伴う国有林売却の懸念。	環境教育・研究・エコツアー・啓蒙・ガイド	○	○	○	ガイドとのトラブルの発生。ガイドの質の確保。
（原生）自然環境保全地域指定	○	○	○	国指定の場合，①指定条件の厳しいこと，②土地利用に制限を受ける，③指定実績や認知度の低さから観光客誘致が期待できないなどから，市町村が指定に対し熱心ではない。	市民団体・NPO・財団の結成や連携	△	○	○	
都市計画・憲章・構想	△	○	○		CSR	○	△	△	利益幅の小さな企業における CSR 活動が進んでいない。
立入・車・経路・資源使用規制	○	×	○	観光振興のために，市民や所有者の経済・管理・生活的負担が大きくなる。	特区・特例	○	○	○	環境保全に寄与するかは，制度の使い分け次第。近年は地方自治体の特区制度を導入しようとする意欲が低下気味。

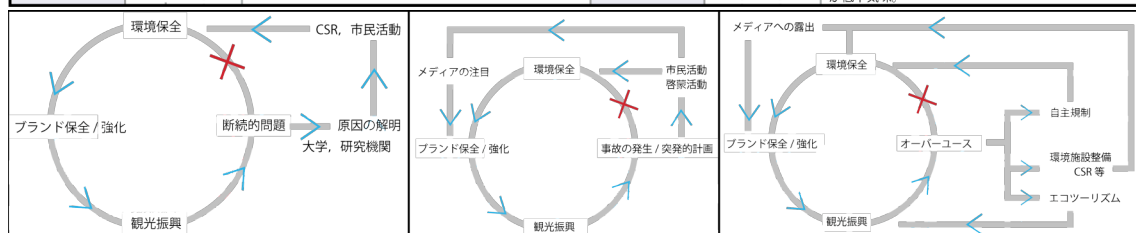


図 4 持続的資源利用策 1 (断続的問題) 図 5 持続的資源利用策 2 (突発的問題) 図 6 持続的資源利用策 3 (overuse 問題)

資料 2

資料提供・ヒアリング依頼文

※ 資料提供依頼の例として屋久島町役場，ヒアリング依頼の例として鳥取砂丘を示す。

平成 22 年 11 月

屋久島の地域ブランド構築プロセスに関する資料提供のお願い

東京大学大学院 空間計画研究室

修士 2 年 丸上 雄哉

屋久町役場 担当者様

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

私ども東京大学空間計画研究室では都市の形成・計画について研究を行っております。また私個人の修士論文として、観光地がそのイメージを構築するまでのプロセスを研究しております。屋久島は世界遺産に認定される豊かな自然と観光産業により繁栄し、毎年多くの観光客を引き寄せています。また、エコツーリズムやゼロエミッション等、盛んな活動が展開されており、研究対象として、多大な関心を持っております。

これらの検討にあたっては、屋久島の観光まちづくりに携わるみなさま方のご協力が極めて重要になるものと考えております。つきましては、ご多忙中、大変恐縮ではございますが、以下の資料のご提供にご協力いただければと思います。なお、ご提供いただいた資料は学術研究のみに使用し、目的以外で使用することはありません。本調査の趣旨をご理解の上、何卒ご協力をお願い申し上げます。

敬具

1. ご提供を希望する資料

(1) 屋久島のブランディングに関わる資料

：〇〇百選/世界遺産/史跡指定を目指す動き、メディアへの露出、環境保全、市民活動、ロゴの作成、など

(2) 屋久島を訪れる観光客数の推移：可能な限り昔から、Excel データを希望。

(3) 屋久島の観光基本計画：関連計画も含む

(4) 屋久島におけるエコツーリズム、体験観光、環境教育に関する資料

(5) 屋久島観光の現状・課題に関する資料

(6) 屋久島観光に係わる施策の年表

：世界遺産認定に向けた要望書の提出時期、高速船運行開始時期、国立公園指定時期 etc・・・

完全に一致する資料でなくても構いません。計画・開発・活動に関しては、内容と年代がわかる資料をいただくと幸いです。また、ご提供いただける資料以外にも、地元側として発行した書籍等をご存知の場合は、その書籍名等をご紹介いただければと思います。お忙しい中、大変恐縮ではありますが、ご協力をお願い申し上げます。

2. 返送方法

ご提供いただける資料を同封の返信用封筒に入れ、下記の住所にご返送していただくと幸いです。あるいは、下記のメールアドレスに添付データとして送信していただいても構いません。お手数ですが、何卒よろしくご返信いたします。

<ご返送・お問い合わせ先>

下記の住所にご返送をお願いします。また、調査内容に関するご質問等ございましたら、下記連絡先までお願いします。

〒270-0115 千葉県流山市江戸川台西3-3 2-5 3 ウッディパレス江戸川台1 0 2 号

東京大学 空間計画研究室 丸上 雄哉

携帯: 090-4952-4299 Mail: 096772a@shk.k.u-tokyo.ac.jp

平成 22 年 11 月

鳥取砂丘の環境保全に関するヒアリング・資料提供のお願い

東京大学大学院 空間計画研究室

修士 2 年 丸上雄哉

環境省 浦富自然保護官事務所 山崎様

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

私ども東京大学空間計画研究室では都市のデザイン・形成について研究を行っております。また私個人の修士論文として、観光地の振興と環境保全の両立について研究しております。

山陰海岸国立公園の鳥取砂丘は、地域のシンボルとして大切に保護され、多くの観光客を引き寄せています。その陰には、砂丘を保護するための様々な施策、活動がある一方、雑草繁茂への対応や砂害など難しい問題もあるかと存じます。私は、鳥取砂丘が地域資源として、これまでに直面して来た課題をどう乗り越え、保護されてきたのかについて、多大な関心を持っております。

これらの検討にあたっては、国立公園を管理する立場の方や、地域の皆様のご協力が極めて重要になるものと考えております。つきましては、ご多忙中、大変恐縮ではございますが、インタビューにご協力いただけますよう、お願い申し上げます。なお、ご提供していただいた情報は学術研究のみに使用し、目的以外で使用することはありません。本調査の趣旨をご理解の上、何卒ご協力をお願い申し上げます。

敬具

1. ヒアリング日時・場所・お問い合わせ先

お電話にてお約束いただいた通り、下記の日時・場所でのインタビューをお願い致します。

- ・日時：12月13日（月）13時30分～（30分～最大1時間程度）
- ・場所：浦富自然保護官事務所

<お問い合わせ先>

調査内容に関するご質問等ございましたら、下記連絡先までお願い致します。

〒270-0115 千葉県流山市江戸川台西3-32-53 ウッディパレス江戸川台102号

東京大学 空間計画研究室 丸上 雄哉

携帯: 090-4952-4299 Mail: 096772a@sbk.k.u-tokyo.ac.jp

2. 予定している質問項目

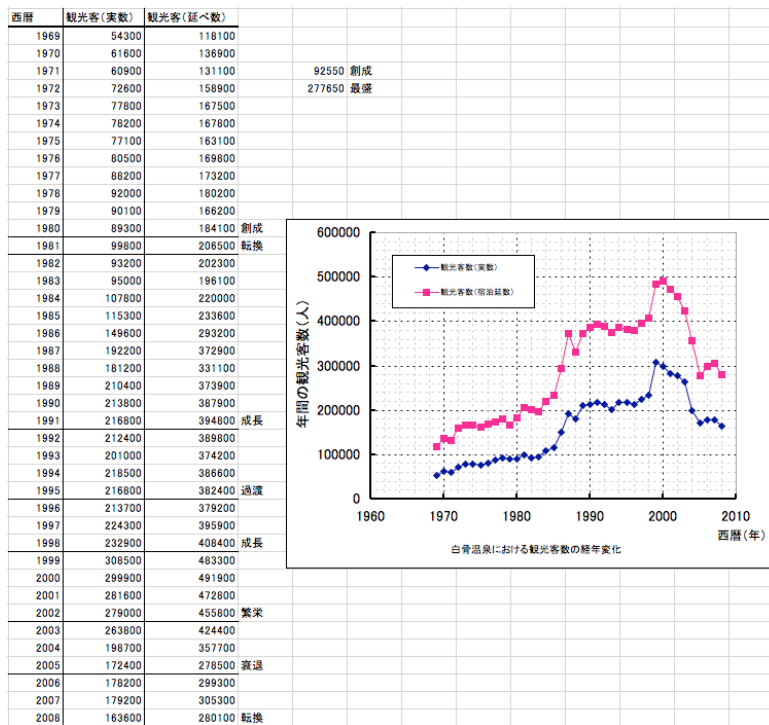
- (1) 鳥取砂丘が抱える環境問題について
 - ① 雑草の繁茂 : 現状、かつての植林との関係、外来植物
 - ② 砂害 : 現状、植林伐採の影響
 - ③ 落書き、その他
- (2) 鳥取砂丘の環境保護について
 - ① 国立公園制度について
 - : 山陰海岸国立公園の概要
 - : 特別保護地区について
 - : 国立公園に指定されることで、エリアのブランド価値が上がり観光振興効果が期待されるが、これは環境保護とは矛盾しないのか。あるいは、最初から観光振興も目的にしているのか。
 - : 鳥取砂丘における環境保護
 - (鳥取砂丘の環境保護とは、砂丘という資源の保護なのか、あるがままの自然を残すことなのか)
 - ② 国立公園内での除草作業に関して: 法的な問題、手続き、頻度、除草作業開始の経緯等
 - ③ その他、鳥取砂丘を保護するための施策・取組み・活動等
 - ④ 観光客が訪れることによるメリット・デメリット (特に環境的側面から)
 - ⑤ 鳥取砂丘での開発 (遊歩道・観光施設) やイベント (砂丘イリュージョン等) はどこまで許されるのか
- (3) 林野庁 (植林側)、鳥取市や市民団体との連携について
- (4) 鳥取砂丘を取り巻く今後の施策・計画 (予定・方針があれば)
- (5) 自然保護官の仕事について
 - ① 業務内容、これまでの仕事
 - ② エコツアー関連の仕事についての有無、経緯、事例
 - ③ 国立公園の保護について感じる問題点等
 - ④ その他鳥取砂丘の保護と利用に向けて感じること

当日、お話の流れで、追加の質問をさせていただくことがありますが、わかる範囲でお応えいただければ幸いです。
急なお願い、並びにご多忙の中申し訳ありませんがよろしくお願い致します。

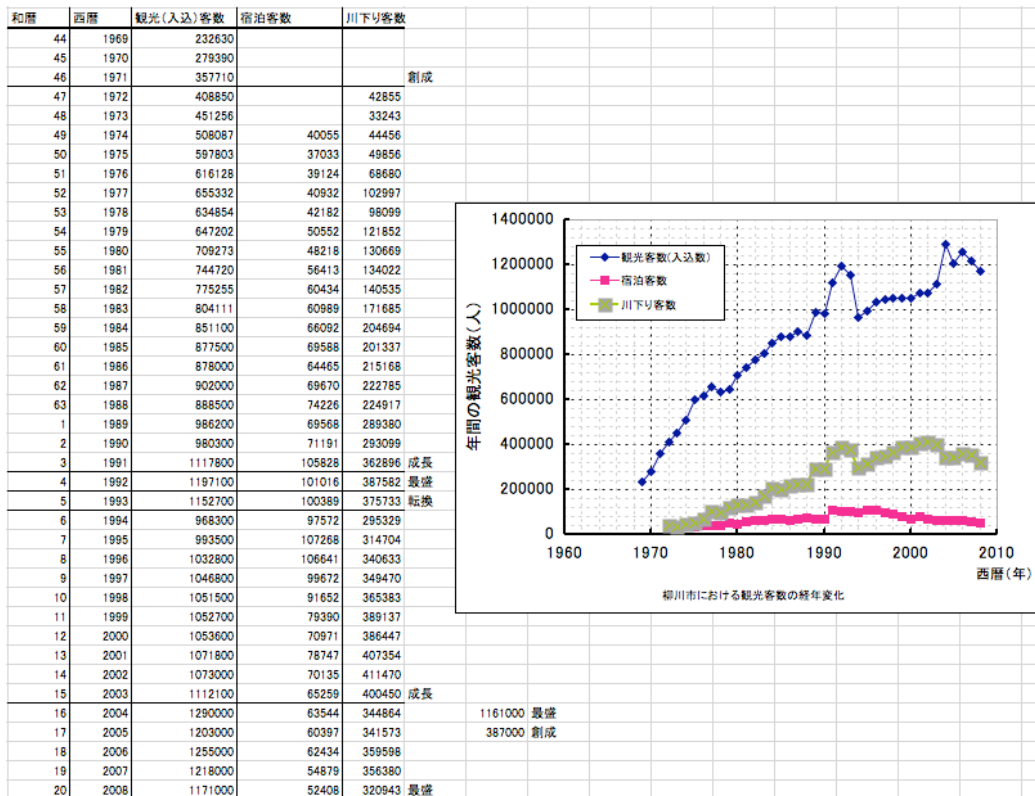
資料 3

研究対象に選んだ観光都市の観光客数データ

(1) 白骨温泉

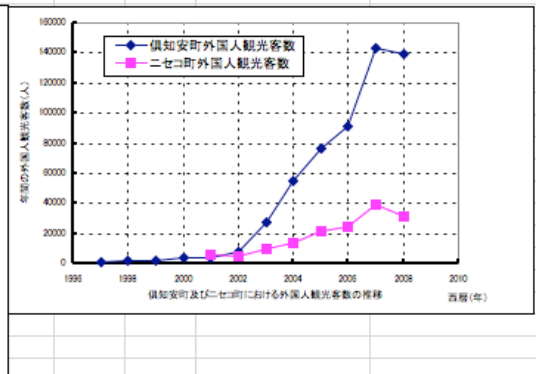
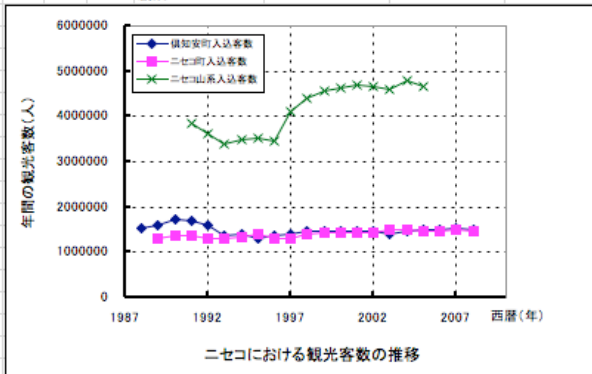


(2) 柳川市



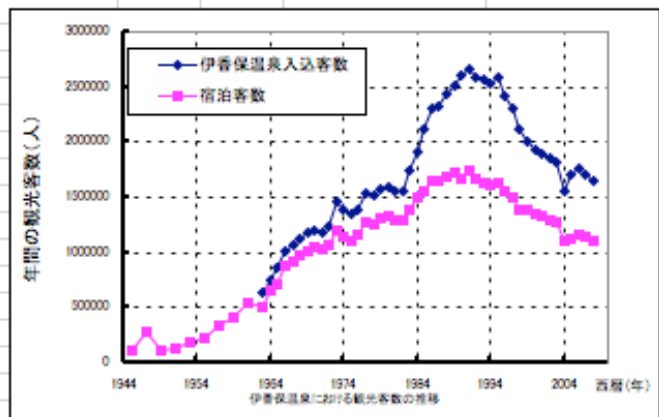
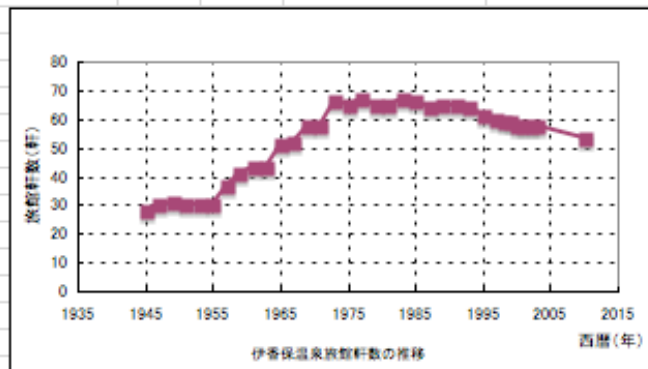
(3) ニセコ山系

和暦	西暦	倶知安町入込客数	ニセコ町入込客数	蘭越町入込客数	ニセコ山系入込客数				
62	1987								
過渡	63	1988	1518000						
1	1989	1604000	1297000						
2	1990	1712000	1376000						
3	1991	1701000	1379000					3851000	
繁栄	4	1992	1610000	1292000				3635000	
5	1993	1378000	1307000					3380000	
衰退	6	1994	1396000	1342000				3482000	
7	1995	1310000	1407000					3525000	
8	1996	1361000	1302000					3464000	
9	1997	1402000	1291000				西暦	倶知安町外国人観光客数	ニセコ町外国人観光客数
10	1998	1454000	1403000				1997	900	
11	1999	1473000	1425000				1998	2100	
12	2000	1455500	1451000				1999	1600	
13	2001	1458000	1445000				2000	3800	
14	2002	1459900	1439000				2001	4200	6121
15	2003	1413600	1505000				2002	7600	4715
16	2004	1481000	1510000	884300			2003	27300	9943
17	2005	1501800	1481000	863100			2004	55300	13833
18	2006	1509400	1481000	852600			2005	76100	21160
19	2007	1520200	1490000	839900			2006	91500	24313
成長	20	2008	1512800	1452000	814100		2007	143600	39611
							2008	139100	31609
		最盛		1540800					
		創成		513600					



(4) 伊香保温泉

和暦	西暦	伊香保温泉入込客数	宿泊客数	旅館軒数	
	20		116514	28	
	22		278153	30	
	24		110077	31	
	26		134574	30	
	28		183942	30	
	30		230397	30	
	32		340131	37	
	34		421027	41	
	36		545975	43	
	38	631892	501855	43	
	39	754082	653569		創成
	40	870754	720374	51	
	41	1015459	879427		
	42	1068546	925198	52	
	43	1119630	966322		
	44	1174753	1017583	58	
	45	1208316	1046653		
	46	1186010	1027337	58	
	47	1241025	1074852		
	48	1470480	1192547	66	成長
	49	1384930	1138062		
	50	1351200	1104195	65	
	51	1393993	1156751		
	52	1541403	1275980	67	
	53	1519329	1261404		
	54	1576721	1312031	65	
	55	1598163	1331704		過渡
	56	1561853	1294575	65	
	57	1564986	1296040		
	58	1751160	1379657	67	
	59	1903371	1497567		
	60	2126212	1552602	66	
	61	2301940	1659079		
	62	2321531	1641370	64	成長
	63	2438914	1682540		
	1	2506043	1717365	65	
	2	2601686	1674953		
	3	2669943	1736912	65	
	4	2581683	1671600		
	5	2562203	1637206	64	
	6	2535397	1618837		
	7	2578344	1634546	61	
	8	2424142	1548624		最盛
	9	2311493	1493504	60	
	10	2110296	1395268	59	
	11	2005187	1380723	59	
	12	1931682	1347132	58	
	13	1900445	1322594	58	
	14	1857794	1301647	58	
	15	1827427	1267808	58	
	16	1565379	1097903		衰退
	17	1704156	1130248		
	18	1760300	1166880		
	19	1704350	1145673		
	20	1641262	1111135		過渡
	2009				
	2010			53	

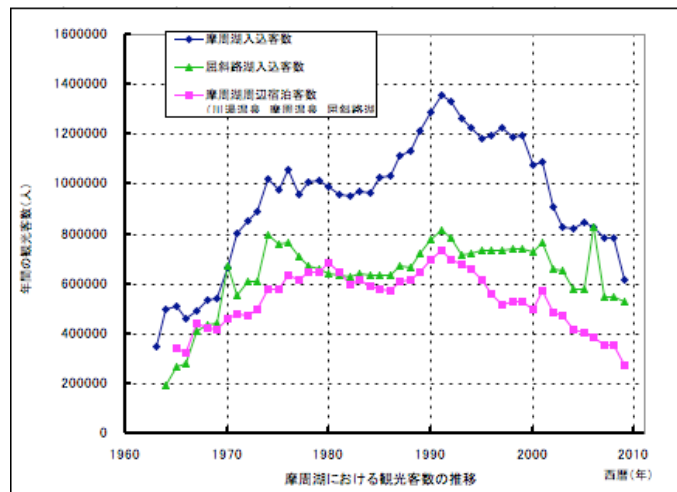


最盛
創成

2402948.7
800982.9

(5) 摩周湖

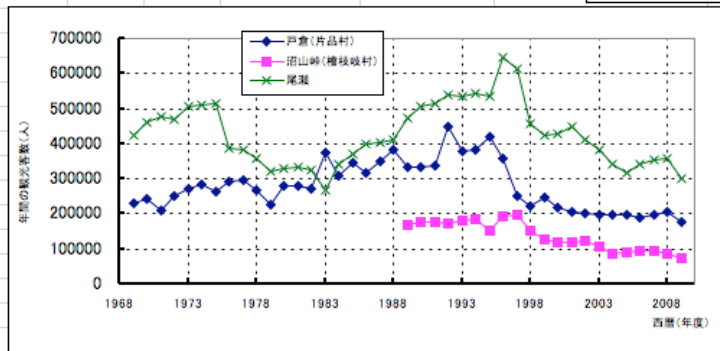
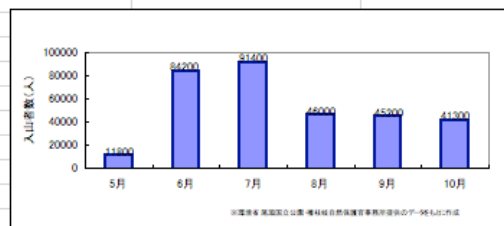
和暦	西暦	摩周湖入込客数	旧斜路湖入込客数	摩周湖周辺宿泊客数 (川湯温泉、摩周温泉、旧斜路湖)		
38	1963	349,628				創成期
39	1964	499,505	189,928			
40	1965	507,810	265,210	341,710		過渡期
41	1966	461,130	281,475	324,580		
42	1967	492,712	413,261	443,576		
43	1968	535,155	437,307	421,054		
44	1969	539,805	440,042	416,279		
45	1970	666,249	673,370	463,099		
46	1971	805,580	554,668	478,645		
47	1972	850,718	609,699	470,453		
48	1973	890,596	611,747	496,272		
49	1974	1,023,974	798,192	581,303		
50	1975	976,261	756,694	581,005		
51	1976	1,060,406	766,319	635,315		
52	1977	959,385	710,581	619,073		
53	1978	1,007,823	671,915	650,384		
54	1979	1,014,862	662,464	647,630		成長期
55	1980	989,511	640,938	685,503		
56	1981	957,246	632,850	649,738		
57	1982	949,926	628,216	600,487		
58	1983	969,073	644,234	613,628		衰退期
59	1984	963,197	636,088	591,101		
60	1985	1,024,878	635,294	581,275		
61	1986	1,034,839	634,990	575,807		
62	1987	1,114,342	672,850	609,616		
63	1988	1,132,736	664,846	619,019		
1	1989	1,212,048	724,383	649,756		成長期
2	1990	1,291,041	777,987	696,045		
3	1991	1,357,823	813,809	734,039		
4	1992	1,334,421	783,223	696,524		
5	1993	1,262,098	716,717	678,479		
6	1994	1,227,796	721,905	661,954		繁栄期
7	1995	1,185,675	737,566	613,269		衰退期
8	1996	1,193,189	733,477	558,134		過渡期
9	1997	1,220,290	733,334	516,126		繁栄期
10	1998	1,188,534	738,356	529,308		
11	1999	1,196,291	738,315	531,475		
12	2000	1,075,320	727,234	496,208		過渡期
13	2001	1,091,409	766,075	572,495		
14	2002	907,075	662,532	487,045		
15	2003	825,038	654,913	475,137		最盛
16	2004	821,067	581,140	415,467		創成
17	2005	844,147	579,945	406,271		
18	2006	828,032	528,032	387,999		
19	2007	783,458	546,184	355,582		
20	2008	783,458	546,184	356,658		
21	2009	618,917	529,264	275,447		衰退期



(6) 尾瀬

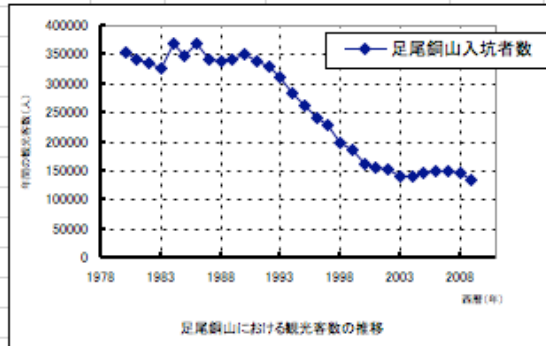
	和暦	西暦(年度)	尾瀬	戸倉(片品村)	沼山峠(檜枝岐村)	奥只見・鏡山平等(旧湯之谷村)	尾瀬入山者数(センサー)
		44	1969	424,330	229,850		
		45	1970	461,180	241,890		
過渡期		46	1971	475,600	209,720		
		47	1972	470,860	251,500		
		48	1973	508,000	271,500		
		49	1974	511,688	285,889		
成長期		50	1975	515,000	262,084		
		51	1976	388,222	291,151		
		52	1977	381,075	297,269		
		53	1978	359,535	265,729		
衰退期		54	1979	321,996	227,414		
		55	1980	331,097	279,913		
		56	1981	333,000	279,267		
過渡期		57	1982	325,100	269,809		
		58	1983	267,109	375,255		
		59	1984	340,988	308,156		
		60	1985	369,520	345,423		
		61	1986	398,589	318,215		
		62	1987	405,300	351,000		
		63	1988	410,400	384,700		
		1	1989	473,450	334,430	169725	467,900
		2	1990	505,830	334,510	178604	505,800
		3	1991	515,100	336,350	175205	515,000
		4	1992	539,790	446,793	173955	539,700
		5	1993	536,355	377,453	179507	540,200
		6	1994	542,058	382,610	183509	542,000
成長期		7	1995	534,196	421,342	153275	534,100
		8	1996	647,523	358,218	193106	647,500
繁栄期		9	1997	614,317	250,996	196433	614,300
		10	1998	455,409	221,109	151669	455,400
衰退期		11	1999	425,807	245,514	126386	425,400
転換期		12	2000	428,446	219,830	119779	428,100
		13	2001	448,041	205,770	118596	447,700
		14	2002	409,942	203,399	123951	409,500
		15	2003	384,251	196,950	107525	383,900
衰退期		16	2004	341,558	199,123	88041	341,200
		17	2005	317,847	197,359	90000	317,500
		18	2006	341,369	187,886	95553	341,000
		19	2007	354,901	197,690	95461	354,500
		20	2008	360,000	205,678	88000	381,700
成長期		21	2009	300,800	178,931	72900	322,800

繁栄期	582770.7	5月	11800
創成	194256.9	6月	84200
		7月	91400
		8月	46000
		9月	45200
		10月	41300



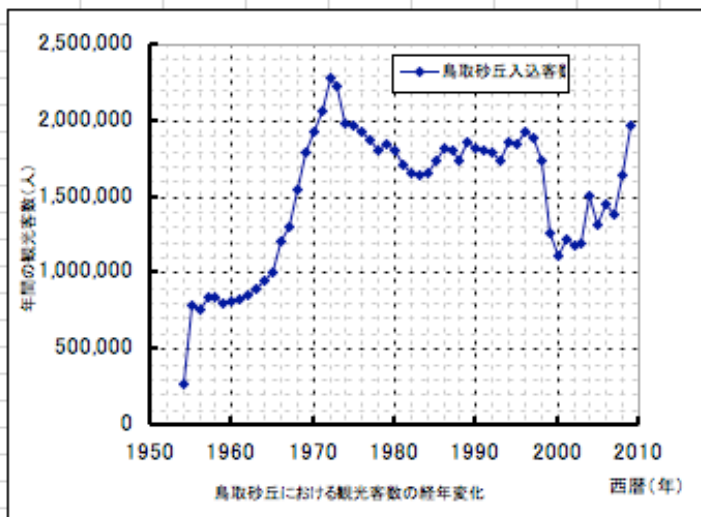
(7) 足尾銅山

和暦	西暦	足尾銅山入坑者数				
55	1980	353,865				
56	1981	342,865				
57	1982	334,455				
58	1983	327,152				
59	1984	370,885		繁栄期	333796.5	
60	1985	348,608		創成期	111265.5	
61	1986	368,506				
62	1987	342,475				
63	1988	339,365				
1	1989	342,673				
2	1990	351,458				
3	1991	340,112	繁栄期			
4	1992	330,417				
5	1993	310,502				
6	1994	283,750				
7	1995	262,142				
8	1996	241,238				
9	1997	227,610				
10	1998	198,278				
11	1999	185,855				
12	2000	162,697				
13	2001	155,837				
14	2002	152,917	衰退期			
15	2003	141,487				
16	2004	141,851				
17	2005	145,266				
18	2006	148,612	成長期			
19	2007	148,432				
20	2008	146,486				
21	2009	135,639	衰退期			

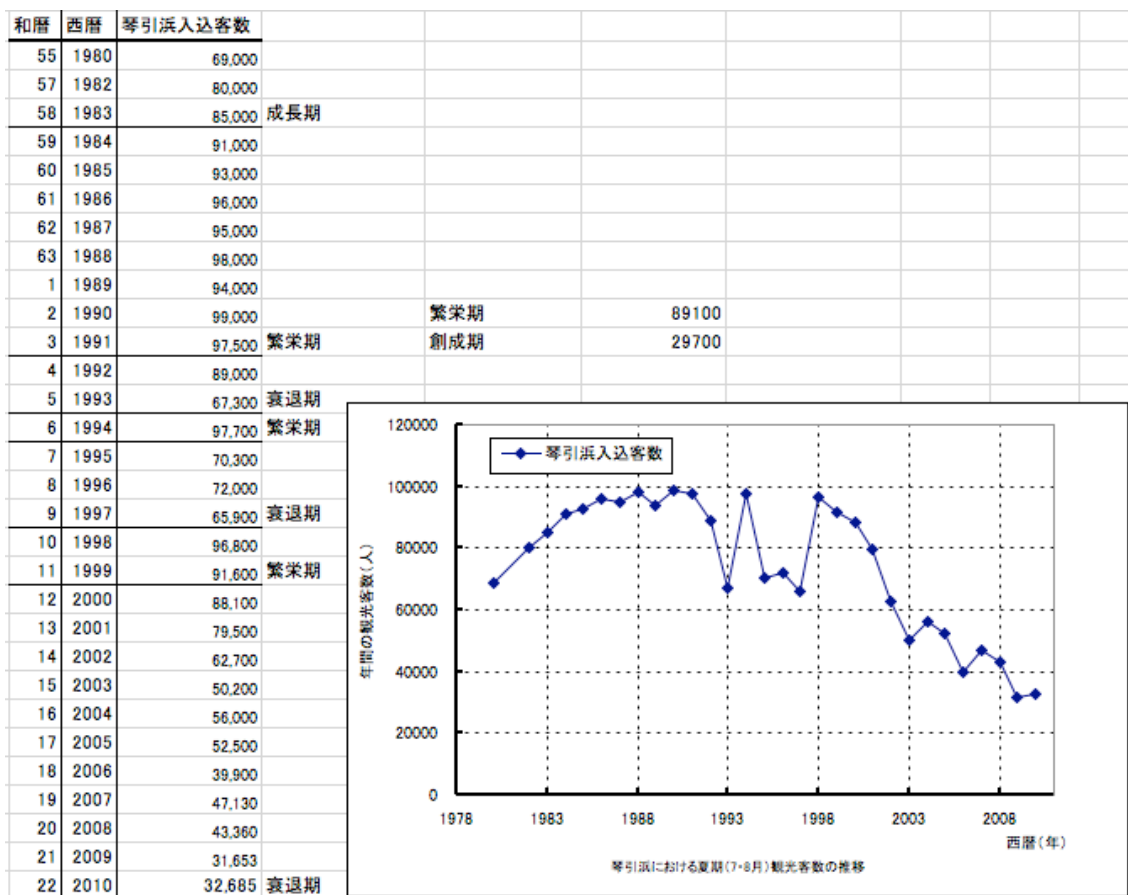


(8) 鳥取砂丘

和暦	西暦	鳥取砂丘入込客数			
29	1954	278,039	創成期		
30	1955	788,810			
31	1956	762,831			
32	1957	836,456	繁栄期	2057130	
33	1958	849,120	過渡期	創成期	685710
34	1959	806,993			
35	1960	819,615			
36	1961	835,354			
37	1962	862,311			※S41以前は調査元不明
38	1963	901,162			※S41、42は「観光客の動向調査」S58年1月鳥取市観光協会による。
39	1964	954,355			※S43～45は「観光客入り込み動態調査表」S58年分～45年分鳥取県商工労働部通商観光課による。
40	1965	1,011,616			※H～は「観光客入り込み動態調査結果」鳥取県商工労働部観光物産課(旧からは観光課)による。
41	1966	1,203,823			※H10～H15は調査方式の見直しによる数値(鳥取砂丘・いづは温泉郷周辺)。
42	1967	1,301,280			※H16～はカウンター導入により、鳥取砂丘のみの数値で精度の高い調査方式に変更。
43	1968	1,555,662			
44	1969	1,789,011			
45	1970	1,930,164	成長期		
46	1971	2,060,900			
47	1972	2,285,700			
48	1973	2,228,700	繁栄期		
49	1974	1,985,800			
50	1975	1,975,300			
51	1976	1,935,800			
52	1977	1,878,600			
53	1978	1,804,500			
54	1979	1,847,400			
55	1980	1,802,200			
56	1981	1,714,400			
57	1982	1,654,200	衰退期		
58	1983	1,644,100			
59	1984	1,658,900			
60	1985	1,740,200			
61	1986	1,815,800	成長期		
62	1987	1,809,100			
63	1988	1,739,800	転換・過渡期		
1	1989	1,867,500			
2	1990	1,827,200			
3	1991	1,802,400			
4	1992	1,796,200			
5	1993	1,739,300			
6	1994	1,864,500			
7	1995	1,852,400			
8	1996	1,926,500			
9	1997	1,887,500			
10	1998	1,738,033			
11	1999	1,257,000			
12	2000	1,114,000			
13	2001	1,224,000			
14	2002	1,177,000	衰退期		
15	2003	1,190,000			
16	2004	1,510,000			
17	2005	1,313,134			
18	2006	1,450,245			
19	2007	1,384,873			
20	2008	1,640,266			
21	2009	1,975,367	転換期		

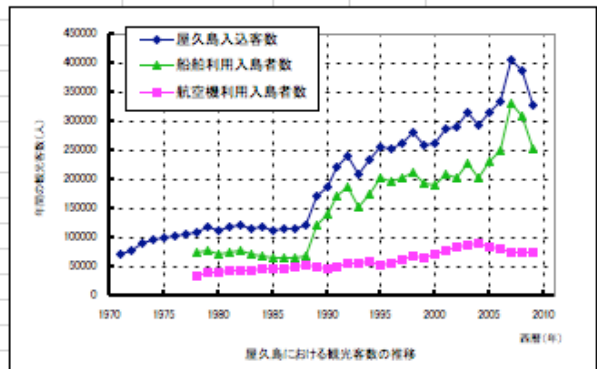


(9) 琴引浜



(10) 屋久島

和暦	西暦	屋久島入込客数	船舶利用入島者数	航空機利用入島者数		
38	1963					
39	1964					
40	1965					
41	1966					
42	1967					
43	1968					
44	1969					
45	1970					
46	1971	71,795				
47	1972	79,679				
48	1973	90,092				
49	1974	98,298				
50	1975	98,623				
51	1976	103,398				
52	1977	107,431				
53	1978	109,449	75,339	34,110		
54	1979	118,309	78,287	40,022		
55	1980	112,287	71,091	41,196		
56	1981	117,649	73,939	43,710		
57	1982	122,452	77,403	45,049	割成期	
58	1983	115,526	70,647	44,879		
59	1984	118,003	69,799	48,204		
60	1985	111,937	65,486	46,451		
61	1986	114,451	66,763	47,688		
62	1987	115,819	65,605	50,214		
63	1988	122,149	69,021	53,128		
1	1989	171,484	121,559	49,925		
2	1990	187,469	140,763	46,706		
3	1991	221,765	172,404	49,361		
4	1992	241,623	186,721	54,902		
5	1993	209,219	153,028	56,191		
6	1994	233,489	175,007	58,482		
7	1995	256,645	203,231	53,414		
8	1996	252,838	195,880	56,958		
9	1997	263,734	202,721	61,013		
10	1998	279,735	211,288	68,447		
11	1999	260,161	193,927	66,234		
12	2000	263,077	191,570	71,507		
13	2001	286,277	209,697	76,580		
14	2002	289,535	204,531	85,004		
15	2003	314,766	228,436	86,330		最盛
16	2004	293,832	203,271	90,561		割成
17	2005	316,884	231,332	85,552		
18	2006	333,224	251,239	81,985	成長期	
19	2007	406,387	332,028	74,359		
20	2008	385,987	310,531	75,456	繁栄期	
21	2009	327,861	251,931	75,930	転換・過渡期	



最盛 365748
割成 121916

資料 4

ヒアリング項目と回答

※ ヒアリングの際に IC レコーダーで録音し、その内容を抜粋・要約したものを次ページ以降に記載する。役所では、資料提供も同時に依頼した。ヒアリングは資料の少ないところに対して重点的に行い、ヒアリング調査も全て筆者が単独で実施した。

(1) 白骨温泉

ヒアリング内容

観光関係者 (=住民)

- ① 白骨温泉の自慢は何ですか？
- ② “白骨温泉”と聞いた時に全国の人や観光客はどんなイメージを持つとお考えですか？
- ③ 温泉偽装事件について、地元側の人間としてはどうお考えですか？
- ④ なぜこの事件が起きたと思いますか？背景や原因について思うことを教えて下さい。
- ⑤ 偽装事件の前後で、観光客の数はどう変化しましたか？
- ⑥ 信頼回復のためには何が必要ですか？
- ⑦ その他、白骨温泉が外部に向けてどんなイメージ戦略・PR・取組みをしているか、何かご存じでしたら教えて下さい。
- ⑧ 湯郷について教えて下さい。
- ⑨ その他、地元の方にとって、白骨温泉はどんな存在ですか？語ってください。

観光客

- 1 こちらに観光に来た目的はなんですか？
- 2 白骨温泉について知っていることやイメージを教えてください。
- 3 何を見て、そのイメージを持つようになりましたか？
- 4 ここに旅行に来ようと思ったきっかけはなんですか？
- 5 温泉偽装事件についてどうお考えですか？
- 6 なぜこうした事件を起こしてしまったとお考えですか？
- 7 湯号について何かご存じですか？
- 8 交通手段は？
- 9 実際に白骨に来た感想をお聞かせ下さい。
- 10 その他

日時	2009, 7/3 8:00
属性	男性, 白骨に来て3ヶ月の派遣社員

- ① 温泉しかない。
- ② 秘湯, ツアーでは“信州秘湯の旅”のように紹介される。
- ③ 今はもう話題としてあまり出ない。
- ④ お客は白いお湯目当てであり, 白骨温泉もそれを売りにしている。それがなければクレームがつくから。

- ⑤ 数はわからない。
- ⑥ わからない。
- ⑦ ネットや旅行会社の影響が大きい。上高地に行くお客をどう取り込むか（セットにして）今は温泉好きだけを狙うのではなく、若い人も取り込んでいく必要がある。
- ⑧ 旅館自体が少ないので、あんまり湯号の意識はない。
- ⑨ 派遣が多く、愛着を持っている人は、地元の少数だと思う。どうにも言いようがない。

日時	2009, 7/3 9:20
属性	男性, 観光組合（観光案内所職員）, 松本から車で通勤

- ① 泉質（とても珍しい炭酸水素塩泉）、飲める温泉。
- ② ネーミングのインパクト、お湯が白い、あまり知らないと思う・・・。
- ③ 源泉は透明で、空気に触れると白くなる。しかし、白くなる度合は光や気温に影響され、毎日異なる。
 確かにお客は白いお湯を求めるが、入浴剤の混入は企業努力ではないと思う。馬鹿なことをしたと思う。
- ④ ニーズに応えようとしたのだと思う。あるものを使えば良いのに・・・。
- ⑤
- ⑥ 公共の野天風呂に関しては、掃除を徹底して、衛生面を確実にしている。お湯を入れ替えるから、あまり白くはならないけど、衛生面は基本であると考えている。
- ⑦ PRはもっとすべき。3年7ヵ月、白骨への近道が通行止めになった。このため、“ついで”ができなくなった。上高地との連携という意味ですごく痛手。
- ⑧ 湯号はあまり定着していない。
- ⑨ 数ある温泉地の中でも屈指の泉質。それが自慢。いいところだと思う。
 個々の旅館のサービスについてはわからない。
- ⑩ ・一番安くて9000円台。しかもここは部屋にトイレがない。時代に逆行した値段設定だと思う。
 ・公共野天の平日の入浴者は50人程度。土日は100人前後。昔は1000人くらい入浴に来た。
 ・観光地としての年間のピークは8・10月

日時	2009, 7/3 9:40
属性	男性, 白骨齋藤売店店主

- ① 泉質と原風景。

② 白いお湯，風紀の水・食事。

③ ④ 各旅館が源泉を持っており，一か所からの供給ではない。色々な泉質がある。

どの旅館も親譲りの経営であり、欲が先走ったのだと思う。一時期メディアに取り上げられてテングになってしまった。風呂釜を広くしたことで、お湯が冷めやすくなるから、加温するが、加温すると白くなりにくい性質がある。また、時間がたてば白くなるものの、取材は午後にお客が来る関係上、朝に受けていた。朝だとまだ透明であるが、メディアがイメージを作り、宣伝してくれるから、白くしなくてはと思ったのだと思う。罪の意識は薄かったのではないか。

先祖から守ってきたものの大切さを見失った。

⑤ 最盛期は昭和 30 年くらい。県内からの湯治客が多かった。その後、秘湯ブーム・濁り湯ブームで若者が来るようになった。個人の客は受け入れず、団体客ばかりを優先（得意先への割引サービスなどを止めた）し、旅館の大型化をした。それにより、お湯が透明に近くなり、入浴剤を入れ、結果的に失敗した。

⑥ お客の希望を、自らの器の中で満たす。

⑦ おかゆ（飲泉）

地元のものを提供することを皆が取り組む必要がある。全国の人に知ってもらうには、長い時間をかける必要がある。1つ1つこなしていくことが重要。

ついでではなく、白骨だけきても価値のある場所づくりが必要。

⑧ 湯号は昔から部分的にあった。最近強調するようになった。

⑨ 温泉はかけ流しが原則。夢を見ず、お客への理解を深める。これが共有されたとき、もっと復活できる。

⑩ ここに生まれたが、子供をこの場所に残そうとは思わなかった。働く環境が整っていない。旅館の人が派遣ばかりで、入れ替わりが多く、お得意先ができにくいのは問題。各旅館はプライドはあると思うが、意見にひな壇がある。お山の大将的である。

もっと排他的な気持ちをなくし、ここに住みたいと思わせるような対策が必要。

日時	2009, 7/3 10:30
属性	男性, 煤香庵（齋藤旅館系列）店主

① 飲めるところ（温泉がゆ）。

② 秘湯（←交通の便）。

③ 過去のこと。マイナス。テレビの影響で、白骨温泉すべてが一緒と思われる。

④ 白くなる源泉がある一方で、そうでないところもある。しかし、お客は「白い温泉」のイメージを持っており、白くないと苦情がくるから。

- ⑤ お客は減った。
- ⑥ そのままの素で勝負する。客へのもてなしをしっかりとやる。
温泉は、お客に入ってもらえれば良さがわかる。入ってもらい、リピーターになってもらう。それしかない。
- ⑦ 乗鞍休暇村との連携
乗鞍高原は、白骨とは違う泉質であり白くもなければ、飲むこともできない。そこに連泊の場合は、お客に喜んでもらうために無料送迎（向こう側に利益はない）をしてここに連れてくる。これにより実際に入ってもらい、知ってもらう。
- ⑧ プライドはある。他の温泉には負けない！

日時	2009, 7/3 10:50
属性	女性, 湯元齋藤旅館女将

- ① 豊かな自然の中の良質な温泉。
- ② 温泉偽装。
- ③ 信用が一番大切なのに・・・。うそつきが謝っても、性分は変えられない。
そのひとたちは一生汚名を背負う。
- ④ 秘湯ブームで過熱気味になった。マスコミにとりあげられてうかされた。これにより、湯量が少ないにも関わらず、規模を大きくした。そして、濁りが少なくなって偽装をした。
- ⑤ ガクッと下がった。40 万人近い観光客だったのに、閑古鳥状態。最近はやや回復。事件の事は反省し、落ち込んでいるが、社会的な落ち込みも重なって、いまだに苦しんでいる。
- ⑥ それぞれが地道にやるのが重要。イベントをしてもダメで、日々のお客にベストをつくすことが大切。そこから口コミで広がっていくと思う。白骨温泉は、競い合って良くなってきた。だから、白骨温泉というよりは、〇〇旅館というブランドをつくっていきたい。
- ⑦ 十数件しかないのに、3 件（元湯齋藤旅館，白船グランドホテル，泡の湯旅館：ただし泡の湯は辞退）が 5 つ星をもらうのはすごいこと。これからは、個の時代。この旅館には、これだけの規模にも関わらず、はきものを預かり、管理する。これはまさに日本の清潔な文化であり、海外の人も、これを体験して喜ぶ。オーストラリアのリピーターもいる。
- ⑧ 昔から。
- ⑨ 死守していこうとする気持ちでいっぱい。誇りをもっているし、ここに縁があって嫁にきたのだから、大昔の先祖から受け継いだものを大切に守っていきたい。使命感はある。
ポンプアップすればいつか枯れてしまうから、やらない。
- ⑩・武田信玄
 - ・人と心が大切。人間性が大切。

日時	2009, 7/3 11:40
属性	男性, 内湯旅館まえた主人

- ① 泉質。
- ② 不気味（「はっこつ」とも読めるから。温泉好きなら特徴も知ってると思う。
- ③ ④ 背伸びしすぎた。自噴する湯量が決まっているのに、設備ばかりが大きくなる。
湯船を増やすことで、薄めたり、沸かしたりする必要があった。温泉の根源にかかわる部分で、一部のから全部のイメージになってしまった。
- ⑤ 秘湯ブームの前は 8・10 月だけ。ブームの時は通年で忙しくなった。事件後、ガクッと下がった。回復は少しだけ。
思ったよりも影響が長い。もっと早く収束すると思った。景気の影響もあると思う。
- ⑥ 特効薬はなく、地道にやるしかない。流行に乗っても陳腐化するだけだと思う。
- ⑦
 - ・旅館の主人が流行の温泉地を回って研究。
 - ・まちづくり委員会を開催
 - ・ロゴや看板を統一
 - ・国立公園で、色々と制限があり、屋根は神社色。
あととは個別に。
- ⑧ 湯号は 2 年前から。昔から十各旅館のオーナーの好きな名前。
- ⑨ 誇りはあるが、一般人として考えたとき、生活は不便。仕事するには良いと思う。

日時	2009, 7/3 12:40
属性	男性, わたの湯 柳屋主人（普段は名古屋に住んでいる）

- ① 泉質：硫黄，カルシウム，マグネシウム，ナトリウム：炭酸水素塩温泉
ミルクィーホワイト。
- ② 白い。
- ③ 当時ここにはいなかったが，“乳白色”を過大に宣伝してしまったために、白くないとお客を呼べないと考えてしまった。今はみんな失敗と思っている。
- ④ 乳白色が透明になった→客が減ってくる→宣伝と違う→入浴剤。
- ⑤ 減った。客は個人が源泉を持っているとは思わないから一ヶ所がやったら全部そうだとされる。
- ⑥ 短期は無理。温泉に来たお客さんに事情を話す。わかってもらい“わかりません”という対応をしている人もいるが・・・
- ⑦ 湯号。湯号は源泉の違いを意味していて、源泉が異なることをお客さんに入ってもらい、

実感してもらおう。

- ⑧ 旅行雑誌や JR のちらしを介してあわの湯＝白骨のイメージをもってもらいたい。大分とかは宣伝や PR で大きくなっているような気がする。白骨も過去は PR をし過ぎた。
- ⑨ 普通は旅館組合や観光協会が色々な特色を探す。白骨は温泉としてだけ PR している。
 - ・ 花火などのイベントは一切しない
 - ・ 各旅館の女将が松本駅において温泉粥をふるまっている
 - ・ ある意味本物だと思う
 - ・ 地理的には小規模だが、秘湯と呼ばれるし、本物だと思う

日時	2009, 7/3 13:50
属性	男性, つるや旅館主人

- ① 風呂（清潔できれい）。
- ② 千差万別：山の中にある秘湯
- ③ ④ ⑤非常に残念。マスコミの取り上げ方と現実の問題とのずれがあった。例えば、源泉 16 のうち、2－3個は時間が経たないと色が変わらない状況。そんな背景のもとお客の増加→風呂の種類を増やす、露天や家族風呂など→お湯の色が出ないものをつかうしかない。また、日本でレジオネラ菌で人が死んだ→毎日きれいにして水を入れ替える（以前は週に 1 度）→塩素は成分が変化してしまうし、それこそ本物ではないから温泉水を入れるしかない→色が出にくい源泉は色が出ない→問題→説明しても報道されず。一番大切にしていたのは、成分を変えず、良い泉質をみんなに味わってもらいたいということ。事件は悪意ではないのに報道の仕方は明らかに悪者扱い。食の偽装とはわけがちがう。影響は今も。
- ⑥ 一番は実際に入ってもらおう。時間はかかるけど、“その後の白骨温泉”というかたちで各テレビが取り上げたけど、払拭はできていない。報道量が少ない。月に一度、温泉で湯粥を無料提供（松本か東京）。地道に
- ⑦ 室町時代に松本藩の落ち人が切り傷が化膿しない効能のある白骨温泉を利用。昔から飲泉は胃腸に良いとされてきた。昭和 40 年代後半から秘湯ブームで脚光を浴びた。これは朝日新聞が全国の秘湯を紹介したことがきっかけ。白骨温泉は秘湯の中でも濁り湯であることが特色。
- ⑧ 湯号は各旅館のお湯に名前を付けて売ろうとするもので定着はまだ。
- ⑨ 白骨温泉は歴史は古い名前が知られてきたのはまだ最近。民家が一軒もなく飲み屋もない。営業優先ではなく、癒しを与える場所であってほしい。プライドもある。温泉というと飲み会やエロのイメージがあるが、白骨温泉にはそれがないことが逆に売りで誇り。

日時	2009, 7/3 15:10
属性	男性, 新宅旅館

- ① 泉質, 地域性 (横のつながり)。
- ② 特に浸透していないと思う。
- ③ リスクは大きい。でも、業界の中では繋がりが強くなる機会。イメージダウンではあるがあれはあれで良かった。
- ④ ブランド志向に対する答え。。イメージ。
- ⑤ 激減。
- ⑥ 一つの旅館としてではなく、地域としての発展を。
- ⑦ わからない。
- ⑧ 定着してない。
- ⑨ 生活の場。愛着が湧いてくる。思い入れ。道の遮断などの出来事は自然と向き合う機会。

日時	2009, 7/3 15:45
属性	男性, 斎藤別館主人

- ① 泉質。
- ② 文字のインパクト (はっこつ)。“乳白”。これはお湯の酸化によるもので、個々の宿で白くなる時間や度合いが異なる。硫黄とカルシウムの割合。
- ③ マスコミにひきずりおろされた。聴いてびっくり。
- ④ “白い温泉”というイメージが強い→客は白いと思っている→白くすれば良い。白くなっていれば何も言われぬ→「温泉」を着色したことに罪の意識はなかった。温泉は温泉と考えていたようだ。
- ⑤ 激減。客あつての商売にとっては落差が激し過ぎる。普通の観光地のように週末集中型になった。
- ⑥ こつこつやる。先人はそうやってきた。それを潰してしまった。手つかずの環境を維持する事が生き残るポイント。早急にできる対策はない。
- ⑦ いまさら湯号を復活させなくてもと思う。名前が2つになってかえって混乱する。組合としては
 - ・ 湯めぐり
 - ・ 飲泉
 - ・ 湯粥
 を行っている。できることから。
- ⑧ “このままであってほしい” 人気が時は沢山きたが、大きい施設がないので、泊まれ

ない人もいた。需要と供給のバランス。今はお客ものんびりしている。昔は駐車場もなく渋滞でお客もイライラしてる。

日時	2009, 7/3 16:10
属性	女性（観光客）

- 1 温泉。
- 2 白いお風呂。山奥だとは知らなかった。
- 3 来たいと思うようになってから、温泉ガイドを見て、白いことを知った。
- 4 何年も前から来たかった。
- 5 知ってる。
- 6 しばらく来ようとは思わなかった。足が遠のいた。
- 7 伸び悩み（白くならない）。
- 8 知らない。
- 9 自家用車。
- 10 値段が高い。別の場所に車で泊まった。年齢的に時間の余裕ができた。山が好きだから、深い緑がきれい。

日時	2009, 7/3 16:20
属性	男性（観光客）

- 1, 2 白く濁った風呂。
- 3 観光雑誌。
- 4 白いお湯が出なくなってしまったから困ってやったんだと思う。昔から良く来ることもあり、気持ちはわからなくはない。
- 8 車。
- 10 雰囲気は川もあって最高。週刊ポストの写真を見て、雰囲気が良いと思って来た。

日時	2009, 7/3 16:30
属性	男性（住み込みで勤務）

- ① おいしい空気と飲める温泉。
- ② “白骨”の漢字のインパクト（悪いイメージでは？）→成分が固まって湯船が骨みたいだから。行きたい温泉ランキングで上位。白いのは来てから知るかも。
- ③ まず謝るべき。国立公園の看板をもらっている以上、ちゃんと説明するべき。それによって復活をアピールすべき。

- ④ 原因は良く知らない。
- ⑤ 笑顔で歓迎。でも交流がない。旅館ばかりでライバルだから。もっと地元同士が親睦を深めて人と交流を持つべき。そのうえで来る人を歓迎するべき。
- ⑥ 海拔 1460m。都会から来る人が多い。声をかけて交流するようにしている。愛着はもちろんある。文化人の影響も。

日時	2009, 7/3 16:50
属性	女性（観光客）

- 1 温泉。
- 2 豪雪・白い温泉。
- 3 実際に前回来てみて。息子が温泉好き。
- 4 誘ってくれたから。
- 5 偽装については知らない。

日時	2009, 7/4 9:20
属性	男性, グランドホテル

- ① お風呂。
 - ② 秘湯。
 - ③ 法には抵触してない。特になし。
 - ④ マスコミ。
 - ⑤ 多少変化した。もともと
 - ⑥
 - ⑦ HP。
 - ⑧ 定着してない。案内所のみ。
 - ⑨ 松本市の中で、乗鞍、上高地、高山の拠点として、バスの便が悪い。
- その他：マイカー・ツアーが多い。愛着あり。

日時	2009, 7/4 10:00
属性	男性, 湯川荘主人（まちづくり委員会会長）

- ① 深い自然と温泉（ロマン）。
- ② 情報が多い中で、インパクトの強い名前だと思う。昔は白船温泉だった。アンケートをして約 900 のうち 65%が白骨が良いと回答した。白船は 20%くらい。昭和 20 年代終盤までは冬なると閉まっていた。

- ③ ④ ⑤白骨温泉は国立公園の特別地域であり、新規参入が難しい。また、商売は持続性が
必要でブームへの葛藤があった。
- ・ 1番になりたくない。5番目の白骨温泉で良い。
 - ・ 上高地も冬になると閉まるが、半期でも商売が成り立つ。
 - ・ 変わらない魅力の中に、変化のある魅力が必要。温泉（恒久）と四季や時間で変化する
自然。付加価値の時代から本質の時代へ。
 - ・ 白骨に生まれたからには、それを職業として白骨の良さをわかってもらう努力が必要
 - ・ 「白骨」というブランドが大切。それが良くないとダメ。それが悪くなったとたん、み
んな閉じこもる。一番大切なもので裏切ったが、でも当事者に出て行けとはいえない。全
体で反省すべき。地元に戻って「白骨温泉に行ってきた」と話す観光客はいても、「〇〇
旅館に行ってきた」と話す観光客はいない。
 - ・ まちづくり委員会を復活させた。
 - ・ 湯元（斎藤旅館）と新宅旅館は江戸時代から。入合集団の土地のお湯を柳屋、大石（現
在はない）、つるやが使い、儲けたら出て行く風習だった。
 - ・ 柳屋から1大石→湯川荘，2泡の湯，3えびす4ささやにお湯を分ける仕組みだった。
 - ・ 泣きたいのは真面目にやった方。でも下を向いていられない。マスコミは真面目にや
った旅館のことは伝えない。加害者ばかりを注目。
- 欲。発展したことで企業ベースの生業ができるようになった。
- ・ バブル（仕事の環境としては良くない→頑張って働いたことでバブル終了後も右肩上が
りだった→しかし、サービスにも限界があり、また観光客はバブル後は損をしないように
マスツーリズムに流れた→お風呂を大きくする必要性→自然のまま使っていると苦情→つ
らい→入浴剤の投入（もしかしたらホスピタリティ向上のためにやったのかも）→旅とい
うのは旅館自身のことを知ってもらうべき→真似ををしてもそこらのホテルになるだけ。
 - ・ 湯川荘は家業として続けるために小さくしようと考えていた。ブームのリバウンドはこ
わい。
 - ・ 客の立場から言えば、風呂は大きい方が良い。しかしそれだとぬるくなり易い。42度
になるように設定。そうじゃないと苦情。熱をかけると白くならない性質。
 - ・ 白骨という看板を忘れていたのだろう。ブランドイメージは一軒じゃない。
 - ・すごい影響。芸能人は悪い事をしてすぐに復帰できるが・・・。
- ⑥ 良くなったことをアピール。元を代えてアピールするためには、公共野天の源泉を変える
べき。でもふんぎれていない。
- ・ 労働者のプライドや福利を一緒にしないといけない。継続できる人に手当を出さないと
いけない。それをしていない。真面目にやっているところを評価してくれる世の中にする

べき。

- ⑦ HP→作り直さないといけないが、みんな自分の旅館で精一杯。白骨をしょってることを考えないといけないのに。
- ⑧ 湯号→湯のブランド化。ぬるい湯・白い湯色々あって良い。
- ⑨ 温泉はみんなのもの。ここに生まれて育ったから多くの人につかってもらいたい。この意識が足りない。

日時	2009, 7/4 11:00
属性	女性, 笹屋女将

- ① 自然のまま。
- ② ひなびた温泉地。
- ③ 当事者であり、正直に話した。頭が真っ白になり、再生をどうしようかと考えた。
- ④ 色々な要因がある。新聞では書かれていないが……。事件ではなく騒動であり、警察沙汰でもなく、隠したわけでもない。謝ったことで注目を浴びてしまった側面もある。来てくれる人は、「あそこまでやる必要はない」と言ってくれる。
- ⑤ 2〜3割減った。景気の影響もあると思う。その後は横ばい。
- ⑥ 女将会で、3年前から湯粥会。エコの宿。長野の入浴指導員（資格）。
- ⑦ 泊まった人に泉質の違いを無料でアピール。
- ⑧ 湯号は決めた後は特に……
- ⑨ 大きな存在。守っていききたい。使命感がある。愛着もある。この場所からは動かないし、動けない。自然で癒される場所にするには自然のまままで。

日時	2009, 7/4 11:50
属性	男性, 日帰り観光客

- 1 温泉。
- 2 白い湯, 山の中。
- 3 雑誌とテレビ。
- 4 近いから。
- 5 知っている。
- 6 良い泉質なんだからそんなことしなくても……。
- 7 観光客に来てもらうために白い湯のイメージを保ちたかったんだと思う。
- 8 車。
- 9 人も少なく、山の中で良い。

日時	2009, 7/4 12:30
属性	男性, 泡の湯

- ① 秘湯・白い湯がたっぷり。
- ② 山奥・秘湯。
- ③ やってはいけないことだが、考え直すきっかけになった。
- ④ “お客を思って” というのが強い。独特の白いお湯が薄くなったことが原因。
- ⑤ 減ったし、怒られた。いまだに言われる。回復はしているように思う。
- ⑥ どうすれば喜んでもらえるか、初心にかえる必要性。何をするにも客を考える。
- ⑦ 社長が専門家であるので、外回り・売り込みを行っている。
- ⑧ 湯号は定着していない。炭酸が多く、気泡ができることから泡の湯と名付けた。
- ⑨ 毎日の生活の場であり、愛着は強い。

日時	2009, 7/4 13:00
属性	男性, 丸永旅館

- ① 泉質。
- ② 偽装事件。以降臆病になった。
- ③ 入浴剤の使用は法律違反ではなく、公表しなかったことが倫理的に×。野天に入れていたのは知っていたが、数軒の旅館も入れていたのが衝撃。田中知事が来て、余計にマスコミやレポーターが集まって逆宣伝になった。今の知事はそれに対して批判している。逆にかばうべきだったと考えている。
- ④ 根深い。公共野天の源泉は色が出にくいものを使っている。それに色を入れたのを口実に入浴剤の使用を始めた旅館もある。というか、今になって考えると、公共野天に入浴剤を入れようと発案した元村長は、自分の旅館で既に入れていたんだと思う。
- ⑤ 細く長くやるしかない。経済環境も重なり、回復の兆しはない。
- ⑥ まちづくり委員会が中心になった意識改革。環境を整える必要。例えば、遊歩道の整備、飲泉所の整備、建物の色の統一など。また、温泉粥を毎日出してる。
- ⑦ 噴湯丘は地質 100 選だし、白骨温泉は開湯から 800 年が経つ。武田信玄が銀鉦山のけが人を白骨温泉で療養させたのが始まり。“しんぷとうぎ”
- ⑧ 湯号は浸透していない。長い名前になってしまう。昔から桂の湯。
- ⑨ 癒しの空間にしたい。日本の心およりどころから世界の心のよりどころへ。建物の近代化が寂しい。

日時	2009, 7/4 13:40
属性	女性, 退職して実家に戻る

- ① お湯。
 - ② 名前。
 - ③ 色が薄くなってもそれは自然現象。
 - ④ ありのままを伝える。
- ⑨ 交通の便が悪い。働いていたが何もなくして精神的にまいった。でも生活感の無さが売り。例えば洗濯物を干しているのを見せてはいけない。夏のシーズンは月末しか休みをもらえない。

日時	2009, 7/4 14:00
属性	夫婦, 観光客

- 1 ツアーの一部にここが入っていた。
- 2 秘湯。
- 3 偽装をきっかけにテレビで。
- 6 群馬の草津の入浴剤を入れてるというイメージで覚えた。風呂に入りたいという気持ちはない。珍しいもの見たさに来てみた。ヒヤカシ半分できてみた。友人が運転では2度と行きたくないと言っていて、興味が湧いた。上高地（メイン）とのツアーだからきた。
- 7 バス。

(2) 柳川市

日時	2009, 9/3 14:00
属性	柳川市役所 (観光課)

- ① 堀割の成り立ちについて
低湿地帯の掘削と開墾を繰り返し、掘削後の水路が堀割。江戸時代は水の防壁として開発された。その後、上水、農業、洪水予防の貯水路として活用されるようになった。
- ② 堀割の環境悪化について
昭和40年頃まで上水や水運の場として活用していた。そこから水路網や道路網の整備とともに清掃がされなくなり、水草やごみがめだつようになった。埋め立て計画もあった。その後なんとか河川浄化計画によって復活したが、今は化学薬品や生活廃水、下水道不足が問題。
- ③ 川下り観光の成立、堀割のイメージ構築について
昭和27年のからたちの花が川下りのイメージを世間に認知させた。その後観光利用が始まった。
- ④ 柳川観光の課題について

高速道路が 1000 円になったことで、みんなであそべるところが選ばれる様になってしまうのが
 怖い。

⑤ その他

- ・ 中国, 韓国, 台湾からの観光客が増えている。
- ・ 川下りは年代に関係なくお客さんがいる。修学旅行先としても選ばれる。
- ・ 昔は飲料水だったが、今は水質改善されず・・・。昔はうなぎもいた。
- ・ 最近護岸が進んだ。昔は石と土だった。
- ・ 船頭は長い人で 20 数年くらいやってる人がいる。
- ・ 水位は 1 m くらい。
- ・ 底がへどろになっている。
- ・ 三ツ橋と柳川が合併。

日時	2009, 9/3 16:00
属性	柳川市役所 (水路課)

① どのような管理をしているか

堀割 (二ツ川) は水草がすぐ生えてくる。2/9 から一週間、川を掃除して水の入れ替えをしてい
 る。そうしないと異臭がする。

② どのような企画があるか

- ・ 川登りの結婚式
- ・ 水辺の散歩道が日本の道百選に選ばれた

③ どのような整備をしているか

堀割の役割としては①城を守る②農業③水道がある。堀割の土手が崩れないように根の強い
 柳が植えてあった。土手が崩れたら堀が埋まり柳川城が攻められるから昔から。
 柳は市の木であり、堀割沿いに植えている。

(3) ニセコ山系

日時	2009, 9/18 13:00
属性	蘭越町役場

① ニセコ山系の範囲について

蘭越町も含む。倶知安町、蘭越町、共和町、岩内町、ニセコ町の一帯をニセコと呼ぶ。

② ニセコエリアとして観光客誘致に向けた取組みについて

ニセコ山系観光連絡協議会(倶知安, 共和, ニセコ, 蘭越) で連携し大都市でのパンフレット配
 布などの PR 活動を展開し、入込客数を増やしている。

③ “ニセコブーム”の影響について

外国人は増えたが、倶知安の一部分に集中している印象。

観光客も増えたと思う。ただ、観光統計は最近とり始めたので、むかしとの比較ができないと思う。

日時	2009, 9/18 16:00
属性	倶知安町役場

① ニセコブームと乱開発の対策について

現在バブル状態。観光客や不動産投資が増えてから準都市計画区域を設定した。高さ制限、色、容積率など。元々は要綱として存在したが、強制力がないため、条例化した。

② パウダースノーと呼ばれるが、そのイメージは戦略的なものなのか、偶然なのか。

以前から、国内では有名だった。近年、口コミやネットで広がった。ネットでは観光事業者のHPが広げるきっかけとなり、英語に対応していたことが大きい。

③ オーストラリアにおけるニセコブーム以前の様子について

外国人はあまりいなかった。外国人が口コミで増えて、それが報道されて日本人も増えた印象。

④ 以前、ペンションブームがあったが、それはどういうきっかけだったのか。

オープンな土地柄であり、スキー場もあることから、町外あるいは道外から、ニセコ（倶知安）で一旗揚げようとする人が集まった。脱サラのオーナーが多かった。

⑤ 大規模開発について

ニセコビレッジスキーリゾートなど。旧ニセコ東山スキー場の近くにあり、直結。

(4) 伊香保温泉

日時	2010, 1/4 15:00
属性	渋川市伊香保総合支所

① 黄金の湯と白銀の湯について

黄金の湯を使っているのは27軒だが、13軒（大屋）以外は源泉を買い取っている。白銀の湯は23軒が使っていて、これは市が掘り当てた源泉を買い取る形。両方を使っている旅館も3軒ある。

② 温泉都市計画の成立について

長篠の戦いの際に、武田軍に沢山の負傷者が出て、その治療のための温泉として活用された。この時までは、今とは違う場所に温泉が湧いている場所があった。ただ、負傷者が多く、広い場所を必要としたので、現在の場所になった。源泉から温泉宿まで管を引く必要性があり、それが温泉都市計画とされた。

③ イメージの構築（石段）について

石段も、温泉都市計画として作られたが、知られたのは小説の不如帰がきっかけ。あとは子宝の湯と呼ばれる。婦人病に効能がある。

④ 温泉偽装問題について

比較的新しい旅館はバブルの時に増改築をして、高級感を演出しようとした。これで客単価を上げようとしたが、値引き合戦になってしまった。

一応、一部でも温泉なら、天然温泉の看板を設けて良いので、小さい家族風呂にだけ温泉を使って、のこりは水道水を使っていたらしい。反対に料理や内装を優先した方が儲かると考えたらしい。

影響は大きかった。

⑤ 伊香保温泉のイメージや資源を守るための対策について

温泉については証明書を発行している。石段については今延長の工事をしている。

⑥ その他

- ・地区計画（文学の小径）や観光基本計画を作成した。
- ・ベルツの湯も有名だが、今はやってない。

（5）摩周湖

日時	2010, 5/9 15:00
属性	摩周湖観光協会

① マイカー規制について

マイカー規制は2008年の夏期の3ヶ月に実施した。商工会によるもので、マイカー規制によってバスに乗ってくれる人は多くなったが、苦情も多かった。規制をしていなくてもバスはでている。

② 交通について

今年もシャトルバスは行っていて、エコの理解と協力（お金）をもらうための手段。

一昨年は摩周文化センターから摩周湖に向かうかたちだったが、それ以降は駅から出ている。夏の3ヶ月と冬の1ヶ月。

③ 摩周湖の圏域施策について

2デーパスを1000円で販売している。去年の7-9月。これを使うと、屈斜路湖までのバス、摩周湖展望台までのタクシーの他、JRも川湯駅や摩周駅で利用できる。自転車を載せることも可能。荷物を預かって、駅弁の特別メニューも楽しめる。これは苦情は少なかった。

④ 観光客に金銭的負担を求めることについて（観光と環境の両立について）

駐車料金をとられるだけで客は嫌がるが、観光地をきれいに保つには、こういう施策をしてい

かなければ守っていけない。環境的に害にならない施策が必要。

日時	2010, 5/10 14:00
属性	弟子屈町役場

① 摩周湖における観光振興と環境保全に向けた動きについて

摩周湖には

- ・ 摩周湖世界遺産登録実行委員会
- ・ NPO 摩周の里：植樹や調査
- ・ 公共交通活性化協議会

などがある。また、てしかがえこまち推進協議会が中心となって、弟子屈の魅力や観光を売り込んでいる。これは観光庁、町、北海道、農水省が支援している。今までは観光協会や旅館組合がプロモーションやキャンペーンを行って来たがうまくいかなかった。これからは、主婦や子供、教師など様々な人が参加して生活、文化、歴史を発見、アピールしていく。

② 世界遺産登録に向けた動きについて

摩周湖世界遺産登録実行委員会は、商工会の青年部が中心になった団体で、世界遺産効果を狙ったもの。登録に向けて調査や働きかけを行ったが、知床が候補になったことで意気消沈した印象。知床には一坪運動（守るため）があったが、摩周湖の場合はそういった環境保全策がなく、突然世界遺産登録を言い出した印象。なかなかもりあがらず、実行委員会だけがもりあがっている印象だった。

③ マイカー規制について

車の排ガスに含まれる CO2 によって草木の立ち枯れが生じる事で、保水力の低下を招き、それによって斜面が崩落し、透明度が低下したと考えた。今は 28m くらい。CO2 に関するデータはないが、まず自分たちから環境問題を考えようというもの。

④ 摩周湖観光の現状について

摩周だけの目的で訪れる人は少ない。通過のポイントの一つでしかなく、町内の滞留は少ない。だから、生活や文化、歴史にクローズアップして、ガイド養成やおもてなしツアー、地域の食材を使った料理などを考えている。川湯温泉に宿泊施設が集中している。

⑤ 摩周湖のマイカー規制の根拠のなさを批判する論文の存在について

話題・議論になってしまった。マイカー規制は観光振興と環境の両立・バランスをとるためのもの。お金を運営費として使い、不足を国交省や町が出すかたち。環境の専門家が協議会の中にいなかったのは反省点。批判するだけでなく、アドバイスが欲しかった。

⑥ 観光圏域整備について

町をまたいだ連携として観光圏整備法に基づいた対応をしている。エリアとして捉え、2泊3

日以上の滞在を目指して

- ・公共交通の充実
- ・情報発信
- ・インセンティブの付加

弟子屈プラス釧路で行っている。

シーニックは道による連携。

⑦ 摩周湖観光の課題

どう宿泊地として選ばれる地域になるか。摩周湖プラス温泉。今は大型バスやマスツーリズムの典型的な場所。しかし、マスツーリズムのお客は減少傾向。

資源はある中で、どう選ばれるようになるかが課題。お客の求めるものは個々の事業者もわかっているはず。

対応として観光基本法を策定する予定。自治体主導の計画だけでなく、儲ける人のことも、なにをすべきか、なにをしていくべきかを考えるべき。

⑧ 摩周湖のイメージが認知されるきっかけについて

昭和22年の布施明の「摩周湖」のヒットをきっかけに、霧のイメージが定着。その後、観光客は増えた（H3がピーク）。40%くらいが宿泊。霧で摩周湖の湖面が見えないのは2割くらい。

⑨ 摩周湖のブランド強化のための方策について

農協、観光協会、ハイアーの名称を摩周がつくように改名した。

(6) 屋久島

日時	2010, 12/4 11:00
属性	屋久島観光協会

① 世界遺産登録に向けた経緯・活動・地元住民の反応について

屋久島は約8割が国有林で、林野庁が管理、利用している。禁伐。

屋久島出身の泊如竹が生活の糧として伐採を始め、耕地がなく年貢がないことから、屋久杉を上納した。その後、国が島の山林を管理しつつも伐採が続き、チェーンソーの普及に伴って伐採速度が増加した。昭和30年代後半に伐採に関して、資源枯渇の危機感をもつようになった。島民はそれほど危機感はなかったが、島外からの声（柴鐵生さん）が屋久杉を守る運動をはじめた。これをきっかけに島で屋久杉の保存運動が起こった。林業事業者（生活を守る会）からは反対のこえがあった。でも、無秩序な伐採から作業量や人員の減少が続き、林業自体が衰退していたから、生活を守る会の活動意義も低下した。

その後、国に働きかけをして、屋久杉を守っていくことになった。島民意識と森林施策の一致。

当時としては観光目的の資源確保というよりは、貴重な森林資源、自然資源の保存が目的だった。

た。その後、保存をしながら林地を活用する＝観光利用することを考え始め、自然と共生しながら保存していることが評価されて世界自然遺産になった。これに至までには、上屋久町の林地活用計画や鹿児島県の環境文化村構想があった。

② 世界遺産登録前後の観光客数の変化、メリット、デメリット、変化、意識面の変化。観光客の環境意識は登録前後・オーバーユース問題が表面化する前後で変化したのか。

登録前は遺産地域指定によって林業事業者が山にはいることへの規制が強まる不安もあったが、指定後は直接的な影響は無く、あまり不満は出なかった。元々、耕地が少なく林業に頼る人が多かったが、林業の衰退や農業の衰退もあり、世界遺産登録後は民宿が増えた。

民宿、土産屋、観光への波及効果が見られた。

ただし、デメリットとして無造作な旅行客の受け入れがあった。環境は一旦壊れると、修復不能となる。観光客が持ち込むごみやし尿処理の問題が見られた。縄文杉へのルートは、知識を有した登山ルートから、観光ルートへと変化した。登録後、観光客の増加に伴い、木道を整備した。その目的は歩き易さの向上とルートを限定することだった。

③ 屋久島におけるエコツアー、体験観光、環境教育の内容、主体、取り組みの経緯、課題
ガイド需要の高まりから、ツアーガイドが 200 名（8割が島外）いる。元々決められたルールは無く、料金や繁忙期だけガイドをして屋久島を去ることなどは島民との摩擦を生んだ。こうしたことから、ルールづくりが必要となり、エコツーリズム推進協議会ができた。ここでは、ガイドの定期的な講習、登録、公表を行い、ガイド側にもメリットがある。これからは、登録ガイドの上に、認定ガイドを新設しようかと思っている。ガイドが観光客の指導をすることで、マナーは向上した。

エコツーリズム推進協議会が働きかけることで、エコツーリズム推進法ができた。これに伴い、町の条例として強制力をもつようになった。引き続き、環境保全も外部へのアピールにしながら利用調整をしていきたい。

④ 利用調整について

現在 3-11 月は登山バスが出ていて、一般車両の規制が掛けられている。一般車両は全部×。多い時は 1000 人/日の人が縄文杉登山。これだと時間帯もかぶって、ちょっとしか縄文杉が見れないし、環境問題も起こる。そこで、1日の入山人数を 420 名程度にしようとしている。予約制。ただし、せっかく観光で盛り上がっているのに・・・と足踏み状態で、提案自体に賛否両論ある。

⑤ 外部の人からどういうイメージだと思うか？

屋久島＝屋久杉＝縄文杉のイメージだと思う。もう少し屋久島全体に目を向けてほしい。

⑦ 屋久島の自慢は何か？

資源としては、杉以外に、

- ・ ウミガメ
- ・ 海の珊瑚
- ・ 魚種の豊富さ
- ・ 里のエコツアー（景観（連続テレビ小説まんてん）、文化）
- ・ 環境学習目的の修学旅行

⑧ 自治体として行う屋久島のブランディング（外部に向けてどんなイメージ戦略・PR・取組みをしているか）

島側があえて売り出さなくても、どんどん取材が入る。マスコミ（CM、ロケ（最近では余命一ヶ月の花嫁））やエージェントの注目を集めていて、PR してくれる。これは屋久島の強みで、根底には自然資源があるが、一方で、停滞する屋久島経済の起爆剤としてさらに振興するか、観光客が入る事で壊してしまっただけかという葛藤がある。最近では、海外客も増えていて、ミシュラングリーンガイド 2009 で三ツ星を獲得し、海外からの注目も集めた。知らない間に、テレビに次々に映る印象。

⑨ 屋久島観光の現状・課題・今後の方針

屋久島は保全と利用の両立。現在はし尿問題が最大の課題。古い登山小屋のトイレはキャパシティが小さく、観光客の増加に対応できない。現在は人力で搬送していて、雇用に繋げる狙いがある。もちかえりも進めているが、人件費がかかり 800 万/年の赤字。山岳部保全募金でまかなっている。募金や協力金は一括した方が割安感がある。そこで、島に入る段階で入島料を徴収しようと考えたが、税金にすると一般島民からもとることになってしまう。特区制度の利用を代替案として模索中。

⑩ 平成 21 年に観光客数が激減している理由は？

篤姫による鹿児島県内の目的地が指宿方面に移動。高速船が流木の影響で止まったから。

⑪ 屋久島の開発を規制する計画・条例について

一極集中を解消する必要はあるし、世界遺産登録後民宿は増加した。しかし、ホテルは増えていない。だから、乱開発状態にはなっておらず、景観条例もない。かつては 3—5, 7 8 9 月が観光シーズン。シーズンオフが長く温泉も少ないから、ホテルがこなかった？今は 12 3 月がオフシーズン。ピーク時は宿が足りないが、オフシーズンにもお客が呼べる様に、・フィッシング・エコツアー・自転車（2 月産経スポーツ：エコライド）：全国的な大会。

⑫ 獣害について

サル 20000, シカ 20000, 人 20000。観光客に慣れてシカや猿が逃げず、畑を荒らす。シカとサルをかつて観光資源にしようとする動きがあり、観光客にみせるために猿を餌付けして林道のそばまで誘導。シカは保護獣（許可を得ないと狩れない）。

里地には昔は現れなかったが、林の伐採や人に慣れていたこともあり、人里へきた。その後は

味をしめた。シカが世界遺産内の草を食すことで①生態系②地形が変化し、危機が表面化しつつある。対策として電気柵などを設置しているが、猿は入ってくる。

⑬施設について

世界遺産登録後に研修センター、文化館は建設された。

日時	2010, 12/4 14:00
属性	環境文化村財団

① 世界遺産登録に向けたプロセスについて

鹿児島県の環境文化村構想（H5）は環境文化懇談会+同研究会などを統合してできた。懇談会の中には、専門家がいて、そこで世界遺産登録という概念が登場した。アピールの材料になると考え、国を挙げた動きになった。屋久島は経済・産業的に厳しかったこともあり、どうすれば良いかを模索していた。林の伐採から自然保護にシフトしていたが、これを契機に観光もおりまぜて屋久島をアピールしようと考えた。

② 登録後の影響について

世界遺産の看板が大きすぎて、予想よりも観光客の数が増えてしまった。

構想を実現するために、登録後財団が設立された。

県、国、町、民間の足なみを揃えるのが難しい。

③ エコツアーは世界遺産登録によるオーバーユースを見越していたのか

ある意味環境の危機の先を見越していた。施設の立地的にも、地域の経済や産業及び環境保全を考慮した観光客向けのゲート機能。

日時	2010, 12/4 15:00
属性	YNAC（エコツーリズムを主催する企業）

① 屋久島でエコツーリズムを始める経緯

松本氏は元々ダイビングショップをしていて 87 年から YNAC, 市川氏は元々環境省のレンジャーで 88 年から YNAC, 小原氏は元々山岳ガイドをしていて 87 年から。3 人とも屋久島出身ではない。松本氏は屋久島に来るまでは縄文杉のことを知らなかった。ダイビングに一度訪れて、ここだ!と思った。それが 87 年 2 月で、10 月には住んでいた。80 年代後半にはエコツアーはなかった。民間企業としては日本の先駆者。屋久島にカヌーを持ち込んだ。元々“エコツアー”とは言っておらず、屋久島の自然をアピールしてじっくり見なければ、沖縄には勝てないと考えた。文化村財団のマスタープランにエコツアーの推進が掲げられていて、モデルケースを作ってくれと言われた。今エコツアーに転換しないといけないという思いが財団の方にもあったのだと思う。その後世界遺産になったり、自然と共生する新しい観光として新聞（共同通信社）

が取り上げてくれた。

② YNACのエコツアーの内容

登山、フォレストウォーク、リバーカヤックなど。フォレストウォークでは、縄文杉に行くものはない。屋久島＝縄文杉じゃなくて、素晴らしい森を見ませんか？という提案をする。印象として、観光客にとっては、屋久島＝縄文杉じゃなくて、縄文杉を代表とする自然と触れ合いたいという思いが一番だった。ガイドと一緒にある面白さを教えた。一方で、島側は縄文杉が一番というスタンス。

③ 屋久島のエコツアー会社の概要について

YNACには5人のガイドがいる（島のガイドは200人）会社としては

- ・ネイティブビジョン
- ・屋久島ガイド協会
- ・YNAC

この他個人単位でのガイドがいる。

④ 観光客の満足度・ツアーの感想・エコツアーを主催する際の注意

当初のエコツアーは堅苦しいイメージだった。自然を知る事で、周りにごみがなければツアー客自身も捨てたりしない。先頭を歩くガイドがごみを拾えば、捨てない。こけの知識があれば踏まない。つまり、自然を理解すればこういう問題はなくなる。エコツアーには少人数を対象にガイドをすることで、監視する効果があると思う。バスガイドとは違う。屋久島の自然は特別ではなく、屋久島の自然をきっかけに関心を持つ事で、生態系を学ぶ事で、日常の発見にも繋がる。自然を見る姿勢の低さを学ぶ場。お礼の手紙も多い。

基本的には自然の中で楽しく過ごしてもらえるようにして、危険に対しては理由を含めて話すようにしている。そうすることで、自然への理解も進む。

⑤ 地域の観光振興と環境保全を両立させるにはどうしたら良いと思うか

キーワードは保全、経済、地域であり、バランスが難しいと思う。来るなというスタンスではなく、静かな森はこの人数でないと維持できないという姿勢が重要。みんなが屋久島はこうあるべきだという合意のもとにエコツーリズム全体構想（縄文杉を特定観光資源として認定し、保全していく）ができた。

元々、屋久島は林業によって繁栄し、その後切り尽くしたことで林業が衰退した。その次として観光を考え、経済も良くなった。でも自然があった。現在は制限した方が良いという意識。ただ難しい。結局は木を切っている時と同じ意識。制限するべきだが、食べるためには・・・という意識。今までの観光地は人を呼びまくることで自然は荒れたし、飽きられた。尾瀬をモデルにして良いのか？それは屋久島なのか？と思う。

利用制限ではなく、利用調整。市民はもっと人を呼びたいと考えているから、事前申し込みの

煩雑さから屋久島離れの懸念を抱いている。利用調整に関しては、環境省が430人/日、観光協会が600+200人（←実質的に制限が無い数字。ホテルや旅館への配慮）を出している。でも調整しなければという意識はある。段階的にやって様子を見る方針。エコツアーは個人客だからあまり影響は無い。ただ、調整・制限が希少価値になるかめんどくさいになるか。今から良いものを末永く利用する姿勢を持ち、繁栄を続けるべきだと思う。エコツアーに関しても、コストリカにおいて残った熱帯雨林を観光資源として残そうとしたのが始まり。屋久島にしても、切ってしまった中で、残ったものを守るために、食いつぶさないように。地元がどういう意識を持つかが重要。例えば、アンケートをすると、観光客は屋久島の環境保全のために1000円出しても良いと考えている。ならば、募金や協力金で守れるはずだが、白谷雲水峡とかだけで、今のシステムではそこにいった人たちが入場料として払っているだけ。よくガイドは募金するのかと聴かれるが、それはおかしい。保全に向けた募金を島全体としてとれる仕組みが必要。

⑥ エコツアーの今後の課題

エコツアーからエコツーリスト（屋久島だけじゃなく、知床や小笠原などをエコツアーを目的として廻る観光客）が必要で、日本は屋久島が良いから、そのおまけとしてエコツアーがある。海外ではエコツアー自体を目的としている。日本でもエコツーリストを育てるべき。軽井沢の星野リゾートでは周囲のホテルが潰れたことで専門家を呼び、朝に野鳥を見るプログラムを作り、リピーターが増加した。知名度はなくても〇〇のエコツアーが面白い！という形で広まるのが大切。こういうのが増えると、下手なガイドがたたかれる。ちゃんと評価する。屋久島も評価されてレベルが上がる。資源に関係なく、どこにだって展開できる。目黒にだって素材はある。

⑦ エコツアーの今後の課題

ガイドの質の低下。付けても付けなくても一緒という評判がインターネットで流れるとガイドは使ってもらえない。

⑧ エコツーリズムをさらに定着させるために必要なことは何か

屋久島ですら“何も無い”と言われて来た。きれいな川を使わずにいた。元々は俺たちの水源で何してるの？みたいな反応だった。そこで、地元のカヌー体験会を開いて、そこに子供達が沢山参加してくれて、少しずつ市民権を獲得してきた。発想をすることで、カヌーが生まれ、地元の人もカヌー営業を始めた。今では40社くらい。1番の資源を活用する必要はなくて、工夫して繋げることで、資源じゃないものが資源になる。

エコツアーは、

- ・ 地域の宝探し
- ・ お客が見て素晴らしいと思うものに育てる
- ・ おしつけではダメで、工夫が必要

⑨ 今後、考えていること

人数ではなく満足度も高さを価値にする。安く沢山だと、最終的に屋久島があきられる。子供が島を出て部屋が空いたからという理由で始めた民宿は安く、ノーサービス。観光協会にもクレームが入るなど、悪い傾向がある。

⑩ その他

・松本氏本人は屋久島ガイド連絡協議会（ガイドの認定/クレーム対応/問題を話し合う場：有志）→観光協会のガイド部会（公的）、日本エコツアーリズム協会（研究者が多い）のガイド部会長をしている。

・ガイドは車に乗せて現場まで送迎するのが普通だが、これは白タク問題である。ただ、これがだめだとエコツアーの実施が厳しくなる。規制緩和してほしい。

・ガイドは飽和状態で、次のステップに展開する必要がある。例えば、屋久島高校には生物部も山岳部もない。ガイドが手助けして、地元のガイドを育成する必要がある。地域としての取組みの場にする必要性。

・ガイドの質向上が必要。みんな自分のやっていることで満足している状態。ガイド同士の交流で、向上心を持つことが大切。

(7) 鳥取砂丘

日時	2010, 12/13 13:00
属性	環境省 浦富自然保護官事務所

① 山陰海岸国立公園・鳥取砂丘についての概要

岩戸～白兔海岸の一带。砂丘は元々はもっと大きかった。空港や市街地は植林の結果として建設。かつては洗濯物への被害などもあったが、砂害は今あまり聴かない。砂防林によって民家の砂害には至っていない。砂丘は全部林にする計画もあった。

最初は国立公園で、冠として“国立公園の方が良い”“一番のお墨付きがほしい”ということで格上げに向けた動きができた。自然公園法は“見た目の保護”と“利用の増進”⇔観光を考えたもので、生態系の保護などは後にプラスされたこと。国立公園の昇格に明確な基準はなく、委員の多数決。行政や市民が盛り上がりから国立公園化に向けた働きかけと啓蒙活動が行われた。（当時の委員に納得してもらうため）

② 鳥取砂丘が抱える環境問題とその解決に向けた施策や手続きについて（雑草の繁茂，砂害等）

砂漠とは異なり、砂丘の降水量は多い。砂の動きが激しいから砂丘になった。しかし、植林を機に草原化した。また、植林地を伐採（砂防林以外の部分部分）を切ったらそこが草原になった。つまり一部を伐採しても砂の動きが完全に回復したわけではなかった。平成 2 年に環境省の調査に基づき、大規模除草が実施された。これにより指定された当時の景観に戻そうとした。

その後も、申請・許可の手続きを経て、場所によっては車の乗り入れやトラクターを用いて除草している。本来特別保護地区は落ち葉拾いや草刈りも禁止されていて、それが景観を壊していても取り除くことはできないが、許可を出している。草刈りは希少種でなければ OK で、メインは外来種。許可は紙 1 枚の申請ででき、HP からダウンロードできるが、図面や写真を付ける必要がある。国立公園内でも、土地の所有者は様々だから、建築も可能（例：こどもの国）。ただし審査基準がある。環境大臣や知事が認めれば OK。砂丘イリュージョン等も毎年許可をとっている。イルミネーションは駐車場でやっており、元々自然景観ではないし、観光施設が集中する場所でやっているから OK。景観・規模等が基準以下であれば、建築物の目的は問われない。

落書きに関しては、厳密には法律違反とは言い難い。問題になった後、現在は条例によって 10 m²以上は禁止されている。

その他、どこまでを砂丘として保護するかの問題がある。道による分断など。

③ 観光客が訪れることによるメリット・デメリット（特に環境的側面から）

観光客に来てもらうことはモチベーションだし、地域経済のためにもなる。地元の人の認識の変化にも繋がる。無関心はこわいし、何も始まらない。今やっていることも、来て、感じてもらいたい。デメリットとしては、鳥取砂丘に関しては渋滞くらい。GW や秋の連休は混む。また、もてなそうとする事による俗化は嫌だ。そのためには再認識が必要で、地方の人は流され易いから自信を持ったアピールは難しい。

④ 鳥取砂丘を取り巻く今後の施策・計画（予定・方針があれば）

パトロールと清掃を続けていく方針。継続が大切だと思う。行政が苦手な部分だとは思うが。

⑤ 自然保護官の仕事について

- ・ 許可申請処理
- ・ 調査や研究の調整
- ・ 観察会の主催（エコツアー関連はこれくらい。ただ、ジオパークセンターが砂丘ツアーをやっている。ユネスコの支援する世界ジオパークネットワーク）
- ・ 巡視
- ・ 事務手続き

⑥ その他鳥取砂丘の保護と利用に向けて感じること

保全と利用のバランスの正解がわからない。常にその場での判断。“利用”というと箱物になりがち。また、守るために規制を緩和してほしいという希望もある。砂丘は特殊だから、一律の法（自然公園法など）ではカバーしきれない部分もあり、判断が難しい。同じ国立公園内・特別保護地区でも違いがある。また、地元民がいての砂丘。地元民がどう感じているかが重要。

日時	2010, 12/13 16:45
属性	(財)自然公園財団 鳥取支部

① ジオパークセンターについて

ユネスコの支援するジオパークセンターは自然公園財団の職員が運営している。2010 ねんから。きっかけは 6 年前の GGN（地学の専門家の集まり）。仕事としては、例えば、小学校からのクラス見学に対してメンバーが対応し、ジオガイド（成り立ち、砂丘の特色、遺跡、体験、砂粒見学）

② 鳥取砂丘の環境保全活動について

戦後、軍から払い下げられて大学が砂防、植林、農業開発を進めた。それにより、除草が必要になっているが、除草剤は使っていない。ボランティアや企業の CRS によって本来の姿を維持するための活動を行っている。毎年駆除区域を決めて、環境省（国立公園）と文化庁（天然記念物）に許可をとる。また、大学、県、学生グループが春と秋に海岸を清掃している。大陸からの留学生も参加していて、越境汚染や漂流物を見て、恥ずかしい事だと実感しているようだった。

④ 鳥取砂丘観光を振興することによる弊害について

お客が来て困る事はないが、

- ・ 落書きの発生：「これを見に来たんじゃない」と怒ってきた客もいる
- ・ 砂の持ち帰り

レンジャーが注意するようにしている。

⑤ ジオツアーの工夫について

鳥取砂丘の教育的な利用はあまりできていなかった。地元との対話の中で、公園・自然の美しさをもっと伝えるべきとの意見が出た。

これに伴い、いかに楽しんでもいろうかが重要になり、

- ・ 語りかけ
- ・ 手作り工作（風の玉、風の風鈴）

による手作り・イラストを用いた教育で簡易な表現をすることで、こどもに伝えたり、

- ・ 展示施設でできるだけお客に話し掛ける

ようにした。

風の玉や風の風鈴はスリバチに投げると、風の渦で戻ってくる。これが驚きに繋がり、渦の理解や地形・気象の理解に繋がる。子供の反応も良い。

また、例えば、砂の数を論理的に計算してみると、7 京粒になる。沢山のイメージや図を用いて、こうした驚きを与えることで、帰った後に、話をしてくれる。するとジオパークセンターに行こうという話になる。

⑤ エコツアーの内容について

植物や昆虫の観察会（毎週日曜）

ジオツアー（土日に学習会）：自由研究に使う小学生も多い。その展示ややりとりを通じて、子供との繋がりも生まれている。

現在も、試行錯誤している。

（８）琴引浜

日時	2010, 12/14 13:00
属性	琴引浜の鳴り砂を守る会

① 鳴り砂を守る会結成の経緯

s62年のバブル崩壊前、金銭面から海岸の近くで民宿をやりたいという住民の意識のなかで、温泉を完備したリゾート計画が持ち上がった。外部からの発足で、琴引浜の価値を知り、「未来に繋げるべきものを自分たちが使い切ってしまうのか。放り出せば、自然が壊れる。放っておけないという下地を作りたい。」と考え、会を発足。

② 鳴き砂の価値を認知するまでのプロセス

京丹後市の学生が、三輪先生の研究室にいた。そして、琴引浜のことを話し、感銘を受けた三輪先生の指摘により再発見。鳴き砂の価値は知っていたが、大事にしていくという意識はなかった。元々、細川ガラシャなどの和歌にも登場するが、地元が忘れていた状態にあった。

③ 琴引浜でのイベント

丹後観光キャンペーン（1市6町）→音楽祭→琴引浜で継続→はだしのコンサート

④ 禁煙ビーチ化への経緯

三輪先生の指摘、具体的には、

- ・ 波打ち際でのごみの焼却
- ・ キャンプ
- ・ たばこ

によって、鳴き砂が音を出さなくなることをデモンストレーションや勉強会を通じて教えてくれた。これをきっかけに禁煙ビーチ化に向けた動きを始めた。

⑤ 琴引浜が抱える環境問題について

以前はオイルボール（エンジン廃油）は日常的だった。ナホトカ号事故以降、行政の監視の目が厳しくなり、なくなった。

今は温泉を用いて海岸で体を洗えるが、温泉を掘ってみてその利用としてリゾート計画（行政）が浮上した。ホテルが賑わえば、ホテルで収容できない分を民宿がもらえる。農業商品や魚介も売れると思った人も多いが、ホテルの場合、画一的な品物じゃないとダメだし、地元はもうからない。また、雇用効果についても、資金回収が優先されるから、外への経済効果はな

いのではないかと考えた。外部の意見もあった。こうしたことから、区長として同意しないことを決めた。土地を買った人や買い込んだ人はさんざんな目にあった。その後、リゾート計画は頓挫した。仮に成功しても他のリゾート地とは歴史が違う。

漂着物については、腐らないものが普及してからは、韓国や中国のものが目立った。今は減少した。ごみは季節風によって漂着するが、海はごみの最終処分場じゃないことに気づいてほしいが、その国だけを悪者にすれば良いという問題ではない。

医療廃棄物については、小泉元首相が厚生大臣をしているときに守る会が指摘したが、保健所は異常はないとしてデータを公表してくれなかった。メディアは取り上げ、“琴引浜にごみがながれつく”という報道だった。でも、これはごみを集める活動をしていたからこそわかったこと。

禁煙ビーチ化を決める時は不安だったが、観光客は散らかさないようになった。マナーは向上し、ついにごみ拾いをする人が増加。心配されたトラブルはなかった。周囲がしなければ、人はやらない。

今年に関しては、越前クラゲはこなかった。去年とかは沢山きた。中国で大イベントがあると、越前クラゲは日本にこない。オリンピックや万博など。規制してるから？とも考えた。

⑥ 各種名数選への選出に関して、守る会としては働きかけをしたのか。また

選出されていることをどう思うか。

働きかけはしていない。潜在的には誇りに思っているはず。けど、みんなそれに向けた行動をしたりはしない。

⑦ 観光客が訪れることによるメリット・デメリット

駐車料金は琴引浜の管理・清掃費に充てられる。人が来た方が、金銭的に潤い、維持管理もし易い（インフラ整備）。人が来ないようにしたら、逆にごみ問題は増えてしまう。沢山人にきてもらい、よりよく運営することが重要。人に大勢来てもらって、綺麗な海岸であるとほめてもらうことが一番の励み。

⑧ その他

イベント潰けにしたら、客は疲れる。だから、資本をかけてイベントをする必要はないが、例えば、ホテルにお客が来なくなって、裏山に散歩道をつくり、花を植えたことで繁盛した事例がある。琴引浜でも、出会う人がにこやかでホッとする雰囲気づくりをしたいが難しい。まずは環境づくりからやりたい。地域ぐるみで。声が出るだけ良いとは思いますが、輪が広がらない。例えば、行政が花を配っても、飾らず、翌年から続かなかった。

姿勢として、行政から「木が育ったら切るぞ」とか言われても、「かまわない」と言って、実行することが大切。『思いついた人の勇気』が大切。大変を平気で自分の楽しみにという発想の転換が必要。

- ・琴引浜は案内人、ガイドが増えている。地域の小中学校の環境教育の素材になっている。

資料 5

社会ネットワーク分析計算表

※ 転置行列と使用した関数.

本文中では割愛した、^tB（行列 B の転置行列）と ^tC（行列 C の転置行列）の出力結果を以下に示す。

^t B	白骨温泉	柳川	二七コ山系	伊香保温泉	摩周湖	尾瀬	足尾銅山	鳥取砂丘	琴引浜	屋久島
人工資源	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
自然開発資源	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0
自然資源	0	0	0	0	1	1	0	1	1	1
経験的危機	1	0	0	1	0	1	1	0	1	0
現状の危機	1	0	0	1	1	1	0	1	0	1
潜在的危機	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
山未完成型	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1
単独山型	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0
山複数型	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0
地区計画	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
市町村指定	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
都道府県指定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国指定	1	0	1	0	1	0	0	1	1	0
国際条約	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
予防的対策	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1
連続的対策	0	1	1	1	0	1	0	1	1	0
対症療法的対策	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0
成長期	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1
転換・過渡期	1	0	1	1	1	1	0	1	1	0
衰退期	1	0	0	1	1	0	1	0	1	0
自治体複数	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1
自治体	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1
地区	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0
集落	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0
建築物	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
外発的	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
歴史偶発的	1	0	0	1	1	1	1	0	0	0
内発的	0	1	0	1	1	1	0	1	0	0

^t C	白骨温泉	柳川	二七コ山系	伊香保温泉	摩周湖	尾瀬	足尾銅山	鳥取砂丘	琴引浜	屋久島
自然保護型	0	0	0	1	1	1	0	0	1	1
伝統保護型	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
伝統活用型	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0
自然活用型	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0
自然資源成長型	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1
伝統資源成長型	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
伝統資源衰退型	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0
自然資源衰退型	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0
広域自然型	0	0	1	1	1	1	0	1	0	1
広域伝統型	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0
スモール伝統型	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
スモール自然型	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0
外発的自然発見型	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1
外発的伝統発見型	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0
内発的自然発見型	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0
内発的伝統発見型	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0
革新手法型	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
伝統手法型	0	1	0	1	1	1	0	0	1	1
再創手法型	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0
現状策束手法型	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
資源好調型	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1
資源復活型	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1
資源衰退型	1	0	0	1	1	0	1	0	1	0
資源不調型	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
広域危機潜在型	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1
広域危機経験型	0	1	0	1	1	1	0	0	0	1
スモール危機経験型	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0
スモール潜在危機型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
外発的危機内包型	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
外発的危機経験型	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1
内発的危機経験型	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0
内発的危機内包型	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
経験学習型	0	1	0	1	1	1	0	0	1	0
先見の明型	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
将来不透明型	1	1	1	0	0	0	1	0	0	1
経験非学習型	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0
対策成功型	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
成長持続型	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
衰退連続型	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0
対策構築型	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0
広域多数変動型	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0
広域極端持続型	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1
スモール極端持続型	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
スモール多数変動型	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0
外発的見後変動極端型	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
外発的見後持続極端型	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1
内発的見後持続極端型	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0
外発的見後変動極端型	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0
嚴重保護型	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
自主予防型	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
活用優先型	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
環境維持型	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0
環境観光両立施策型	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1
観光施策先行型	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
商業回避型	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
環境施策先行型	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0
広域保全型	0	0	1	0	1	0	1	0	1	1
広域活用型	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
スモール活用型	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
スモール保全型	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0
外部指授型	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1
外部指授型	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
アビール型	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0
内外共有型	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0

なお、転置行列の作成や行列計算は Excel の関数機能によって行った。転置行列の作成には TRANSPOSE、行列計算には MMULT を用いた。

資料 6

文化財一覧

※特別指定を受けていない文化財一覧を示す（特別指定を受けているものは本文中に記載）。
文化庁 HP : <http://www.bunka.go.jp/>, 2011 年 1 月 14 日の内容を編集してリスト化した。

(1) 史跡一覧

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
1	ウサクマイ遺跡群	北海道	66	浜尻屋敷塚	青森県	131	私田稲跡	秋田県
2	オタフンベチャシ跡	北海道	67	沼岡城跡	青森県	132	平田篤胤墓	秋田県
3	カリンバ遺跡	北海道	68	綾織新田遺跡	岩手県	133	由利海岸波除石垣	秋田県
4	キウス周墳墓群	北海道	69	下船渡貝塚	岩手県	134	脇本城跡	秋田県
5	シベチャリ川流域チャシ跡群及びアッペンチャシ跡	北海道	70	角塚古墳	岩手県	135	権山安東氏城館跡 等	秋田県
6	ピリカ遺跡	北海道	71	柳山遺跡	岩手県	136	一ノ坂遺跡	山形県
7	フゴッペ洞窟	北海道	72	横野高炉跡	岩手県	137	一の沢洞窟	山形県
8	モシリヤ管跡	北海道	73	金鶏山	岩手県	138	稲荷森古墳	山形県
9	ユクエビラチャシ跡	北海道	74	丸戸城跡	岩手県	139	羽州街道 橋下宿 金山越	山形県
10	菅江環状列石	北海道	75	御所野遺跡	岩手県	140	蒸沢御山遺跡	山形県
11	開拓使札幌本庁本庁舎跡および旧北海道庁本庁舎	北海道	76	江釣子古墳群	岩手県	141	下小松古墳群	山形県
12	旧下ヨイチ運上家	北海道	77	高野長英旧宅	岩手県	142	火箱岩洞窟	山形県
13	旧島松駅遺所	北海道	78	国見山湧寺跡	岩手県	143	旧教道館	山形県
14	旧余市福原漁場	北海道	79	骨寺村石蔵遺跡	岩手県	144	旧館屋	山形県
15	旧榎前佐賀家漁場	北海道	80	崎山貝塚	岩手県	145	吉志田東遺跡	山形県
16	琴似屯田兵村兵屋跡	北海道	81	志波城跡	岩手県	146	左沢橋山城跡	山形県
17	柱ヶ岡管跡	北海道	82	盛岡城跡	岩手県	147	山形城跡	山形県
18	江別古墳群	北海道	83	大清水上遺跡	岩手県	148	山寺	山形県
19	国泰寺跡	北海道	84	大淵貝塚	岩手県	149	小国城跡	山形県
20	榎室半島チャシ跡群	北海道	85	蛸ノ浦貝塚	岩手県	150	松ヶ岡開墾場	山形県
21	最寄貝塚	北海道	86	津谷窟	岩手県	151	上杉治憲敬師邸跡	山形県
22	四稜郭	北海道	87	胆沢城跡	岩手県	152	城輪稲跡	山形県
23	志苔館跡	北海道	88	中沢沢貝塚	岩手県	153	新庄藩主戸沢家墓所	山形県
24	千宮洞窟	北海道	89	徳丹城跡	岩手県	154	西沼田遺跡	山形県
25	春採台地竅穴群	北海道	90	南部領伊達領境塚	岩手県	155	大立洞窟	山形県
26	庄内藩ハママシヶ陣屋跡	北海道	91	八天遺跡	岩手県	156	嶋遺跡	山形県
27	松前氏城跡 福山城跡 館城跡	北海道	92	柳之御所・平泉遺跡群	岩手県	157	堂の前遺跡	山形県
28	松前藩戸切地陣屋跡	北海道	93	伊治城跡	宮城県	158	日向洞窟	山形県
29	松前藩主松前家墓所	北海道	94	遠見塚古墳	宮城県	159	米沢藩主上杉家墓所	山形県
30	上之関館跡 等	北海道	95	貴金山産金遺跡	宮城県	160	阿津賀志山防壘	福島県
31	常呂遺跡	北海道	96	岩切城跡	宮城県	161	鮎津渡船場跡	福島県
32	西月ヶ岡遺跡	北海道	97	宮沢遺跡	宮城県	162	宇津峰	福島県
33	静川遺跡	北海道	98	旧有徳館および倉庫	宮城県	163	羽山横穴	福島県
34	善光寺跡	北海道	99	旧有徳館本陣	宮城県	164	涌沢貝塚	福島県
35	大館跡	北海道	100	三十三間堂官街遺跡	宮城県	165	下鳥渡供養石塔	福島県
36	大船遺跡	北海道	101	山王御遺跡	宮城県	166	下野街道	福島県
37	大谷地貝塚	北海道	102	山前遺跡	宮城県	167	会津新宮城跡	福島県
38	鶴ヶ信チャランヶ管跡	北海道	103	山形横穴群	宮城県	168	会津藩主松平家墓所	福島県
39	東蝦夷地南部藩陣屋跡 等	北海道	104	沼津貝塚	宮城県	169	観音堂石仏	福島県
40	東釧路貝塚	北海道	105	城生稲跡	宮城県	170	関和久官街遺跡	福島県
41	入江・高砂貝塚	北海道	106	西の浜貝塚	宮城県	171	亀ヶ森・鎮守森古墳	福島県
42	忍路環状列石	北海道	107	仙台郡山官街遺跡群	宮城県	172	宮畑遺跡	福島県
43	白滝遺跡群	北海道	108	仙台城跡	宮城県	173	旧滝沢本陣	福島県
44	白老仙台藩陣屋跡	北海道	109	仙台藩花山村寒湯番所跡	宮城県	174	旧二本松藩戒石銘碑	福島県
45	権津遺跡群 等	北海道	110	大吉山瓦窯跡	宮城県	175	桑折西山城跡	福島県
46	北黄金貝塚	北海道	111	大木洞貝塚	宮城県	176	慧日寺跡	福島県
47	北斗遺跡	北海道	112	中沢目貝塚	宮城県	177	古屋敷遺跡	福島県
48	茂別館跡	北海道	113	長根貝塚	宮城県	178	向羽黒山城跡	福島県
49	蟹ノ木遺跡	北海道	114	東山官街遺跡	宮城県	179	甲塚古墳	福島県
50	阿光坊古墳群	青森県	115	日の出山瓦窯跡	宮城県	180	榎岸官街遺跡群	福島県
51	亀ヶ岡石器時代遺跡	青森県	116	飯野坂古墳群	宮城県	181	桜井古墳	福島県
52	五所川原須志墓塚跡	青森県	117	名生館官街遺跡	宮城県	182	若松城跡	福島県
53	高屋敷館遺跡	青森県	118	木戸瓦窯跡	宮城県	183	上人塚庚寺跡	福島県
54	榎城跡	青森県	119	雷神山古墳	宮城県	184	新地貝塚 附 平長明神社跡	福島県
55	七戸城跡	青森県	120	黒沢貝塚	宮城県	185	真野古墳群	福島県
56	十三湊遺跡	青森県	121	陸奥国分寺跡	宮城県	186	薩が臺城跡	福島県
57	小牧野遺跡	青森県	122	陸奥国分寺跡	宮城県	187	須賀川一里塚	福島県
58	藤柳遺跡	青森県	123	陸奥上街道	宮城県	188	須賀東福寺舍利石塔	福島県
59	星川石器時代遺跡	青森県	124	安濃浦遺跡	宮城県	189	清戸追横穴	福島県
60	聖寿寺館跡	青森県	125	林子平墓	宮城県	190	石母田供養石塔	福島県
61	丹後平古墳群	青森県	126	伊勢堂信遺跡	秋田県	191	泉崎横穴	福島県
62	長七谷地貝塚	青森県	127	岩井堂洞窟	秋田県	192	大安塚古墳	福島県
63	津軽氏城跡 等	青森県	128	秋田城跡	秋田県	193	大塚山古墳	福島県
64	田小屋野貝塚	青森県	129	杉沢台遺跡	秋田県	194	中田横穴	福島県
65	二ツ森貝塚	青森県	130	地蔵田遺跡	秋田県	195	南湖公園	福島県

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
196	二本松城跡	福島県	261	摩利支天塚古墳	栃木県	326	下総国分寺跡	千葉県
197	白河關跡	福島県	262	茅野遺跡	群馬県	327	下総国分尼寺跡	千葉県
198	白河舟田・本沼遺跡群	福島県	263	観音山古墳	群馬県	328	下総小金中野牧跡	千葉県
199	白水阿弥陀堂境域	福島県	264	観音塚古墳	群馬県	329	加曾利貝塚	千葉県
200	米山寺経塚群	福島県	265	岩宿遺跡	群馬県	330	花輪貝塚	千葉県
201	薬師堂石仏 等	福島県	266	旧富岡製糸場	群馬県	331	月ノ木貝塚	千葉県
202	露山	福島県	267	金山城跡	群馬県	332	荒屋敷貝塚	千葉県
203	和台遺跡	福島県	268	後二子古墳ならびに小古墳	群馬県	333	山崎貝塚	千葉県
204	愛宕山古墳	茨城県	269	高山社跡	群馬県	334	芝山古墳群	千葉県
205	関城跡	茨城県	270	高山彦九郎宅跡 附 遺髪塚	群馬県	335	上総国分寺跡	千葉県
206	吉田古墳	茨城県	271	黒井峯遺跡	群馬県	336	上総国分尼寺跡	千葉県
207	金田官街遺跡	茨城県	272	山王廟寺跡	群馬県	337	曾谷貝塚	千葉県
208	結城廟寺跡 等	茨城県	273	七興山古墳	群馬県	338	大原懸字遺跡	千葉県
209	虎塚古墳	茨城県	274	蛇穴山古墳	群馬県	339	長柄横穴群	千葉県
210	広畑貝塚	茨城県	275	十三宝塚遺跡	群馬県	340	内裏塚古墳	千葉県
211	佐久良東郷旧宅	茨城県	276	女体山古墳	群馬県	341	井天山古墳	千葉県
212	鹿島神宮境内 等	茨城県	277	女塚	群馬県	342	堀之内貝塚	千葉県
213	舟塚山古墳	茨城県	278	上野国新田郡庁跡	群馬県	343	本佐倉城跡	千葉県
214	小田城跡	茨城県	279	上野国分寺跡	群馬県	344	龍角寺境内ノ塔址	千葉県
215	小幡北山埴輪製作遺跡	茨城県	280	譲原石器時代住居跡	群馬県	345	龍角寺古墳群・岩屋古墳	千葉県
216	上高津貝塚	茨城県	281	新田荘遺跡	群馬県	346	良文貝塚	千葉県
217	常盤公園	茨城県	282	水上石器時代住居跡	群馬県	347	横橋貝塚	千葉県
218	新治郡街跡	茨城県	283	生品神社境内(新田義貞軍兵伝説地)	群馬県	348	伊能忠敬墓	東京都
219	新治廟寺跡 等	茨城県	284	西原田中島遺跡	群馬県	349	萩生祖塚墓	東京都
220	真壁城跡	茨城県	285	浅間山古墳	群馬県	350	下布田遺跡	東京都
221	水戸鉢川家墓所	茨城県	286	前二子古墳	群馬県	351	加茂真淵墓	東京都
222	台護国廟寺跡	茨城県	287	大鶴巻古墳	群馬県	352	清生君平墓	東京都
223	大車貝塚	茨城県	288	瀧沢石器時代遺跡	群馬県	353	亀甲山古墳	東京都
224	大宝城跡	茨城県	289	中高瀬観音山遺跡	群馬県	354	旧新橋停車場跡	東京都
225	馬渡埴輪製作遺跡	茨城県	290	中二子古墳	群馬県	355	旧白金御料地	東京都
226	平沢官街遺跡	茨城県	291	天神山古墳	群馬県	356	玉川上水	東京都
227	陸平貝塚	茨城県	292	二子山古墳	群馬県	357	向島百花園	東京都
228	愛宕山古墳	栃木県	293	二子山古墳	群馬県	358	江戸城外堀跡	東京都
229	乙女不動頭瓦葺跡	栃木県	294	日高遺跡	群馬県	359	高ヶ坂石器時代遺跡	東京都
230	下野国庁跡	栃木県	295	白石稲荷山古墳	群馬県	360	高橋至時墓	東京都
231	下野国分寺跡	栃木県	296	八幡山古墳	群馬県	361	高島秋帆墓	東京都
232	下野国分尼寺跡	栃木県	297	武井廟寺塔跡	群馬県	362	高輪大木戸跡	東京都
233	下野薬師寺跡	栃木県	298	保蓮田古墳群	群馬県	363	佐藤一斎墓	東京都
234	榑崎寺跡	栃木県	299	宝塔山古墳	群馬県	364	船井広沢墓	東京都
235	牛塚古墳	栃木県	300	北谷遺跡	群馬県	365	山鹿素行墓	東京都
236	吾妻古墳	栃木県	301	本郷埴輪高跡	群馬県	366	志村一里塚	東京都
237	根吉谷台遺跡	栃木県	302	箕輪城跡	群馬県	367	小仏關跡	東京都
238	佐貫石仏	栃木県	303	矢淵遺跡	群馬県	368	松平定信墓	東京都
239	榑崎陣屋跡	栃木県	304	河越館跡	埼玉県	369	常盤橋門跡	東京都
240	侍塚古墳	栃木県	305	吉見百穴	埼玉県	370	深大寺城跡	東京都
241	寺野東遺跡	栃木県	306	宮塚古墳	埼玉県	371	西ヶ原一里塚	東京都
242	車塚古墳	栃木県	307	見沼通船堀	埼玉県	372	西秋留石器時代住居跡	東京都
243	小金井一里塚	栃木県	308	高麗村石器時代住居跡	埼玉県	373	青木昆陽墓	東京都
244	小山氏城跡 等	栃木県	309	黒沢貝塚	埼玉県	374	浅野長知墓および赤穂義士墓	東京都
245	上神主・茂原官街遺跡	栃木県	310	埼玉古墳群	埼玉県	375	船田石器時代遺跡	東京都
246	玉生一里塚	栃木県	311	小見真観寺古墳	埼玉県	376	大森貝塚	東京都
247	専修寺境内	栃木県	312	真福寺貝塚	埼玉県	377	大塚先徳墓所	東京都
248	足尾銅山跡 等	栃木県	313	水子貝塚	埼玉県	378	滝山城跡	東京都
249	足利学校跡(聖廟および附属建築物を含む)	栃木県	314	水殿瓦葺跡	埼玉県	379	沢庵墓	東京都
250	足利氏宅跡(護国寺)	栃木県	315	大谷瓦葺跡	埼玉県	380	中里貝塚	東京都
251	茶臼山古墳	栃木県	316	栃本關跡	埼玉県	381	湯島聖堂	東京都
252	長者ヶ平官街遺跡附東山道跡	栃木県	317	両河原石塔婆	埼玉県	382	八王子城跡	東京都
253	唐柳所横穴	栃木県	318	鉢形城跡	埼玉県	383	品川台場	東京都
254	藤本観音山古墳	栃木県	319	堀保己一旧宅	埼玉県	384	武蔵国府跡	東京都
255	那須官街遺跡	栃木県	320	比企城館跡都	埼玉県	385	武蔵国分寺跡	東京都
256	那須小川古墳群 等	栃木県	321	野上下郷石塔婆	埼玉県	386	武蔵府中野神社古墳	東京都
257	那須神田城跡	栃木県	322	阿玉台貝塚	千葉県	387	平賀源内墓	東京都
258	日光山内	栃木県	323	伊能忠敬旧宅	千葉県	388	弥生二丁目遺跡	東京都
259	飛山城跡	栃木県	324	井野長前遺跡	千葉県	389	林氏墓地	東京都
260	葛懸塚古墳	栃木県	325	姥山貝塚	千葉県	390	網田遺跡	東京都

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
391	伊勢原八幡台石器時代住居跡	神奈川県	456	坂戸城跡	新潟県	521	若狭国分寺跡	福井県
392	一ノ木遺跡	神奈川県	457	鼓ヶ尾城跡	新潟県	522	小浜藩台場跡 等	福井県
393	稲村ヶ崎(新田義貞従弟伝説地)	神奈川県	458	寺地遺跡	新潟県	523	松岡古墳群	福井県
394	荻柄天神社境内	神奈川県	459	室谷洞窟	新潟県	524	上ノ塚古墳	福井県
395	永福寺跡	神奈川県	460	春日山城跡	新潟県	525	上船塚古墳	福井県
396	円覚寺境内	神奈川県	461	小湊ヶ沢洞窟	新潟県	526	西塚古墳	福井県
397	円覚寺庭園	神奈川県	462	松本街道	新潟県	527	中郷古墳群	福井県
398	飯越坂	神奈川県	463	葛塚古墳	新潟県	528	中塚古墳	福井県
399	夏島貝塚	神奈川県	464	水科古墳群	新潟県	529	燈明寺新田義貞戦後伝説地	福井県
400	寛園寺境内	神奈川県	465	村上城跡	新潟県	530	白山平泉寺旧境内	福井県
401	鎌倉大仏殿跡	神奈川県	466	長者ヶ原遺跡	新潟県	531	武田耕雲斎等墓	福井県
402	竜ヶ谷坂	神奈川県	467	長者ヶ平遺跡	新潟県	532	免鳥長山古墳	福井県
403	旧横浜正金銀行本店	神奈川県	468	藤橋遺跡	新潟県	533	六呂瀬山古墳群	福井県
404	旧相模川橋脚	神奈川県	469	馬高三十種墳遺跡	新潟県	534	杣山城跡	福井県
405	巨福呂坂	神奈川県	470	八幡林官街遺跡	新潟県	535	金生遺跡	山梨県
406	権楽寺境内・忍性墓	神奈川県	471	麦太遺跡群	新潟県	536	御勅使川旧堤防(将棋頭・石積)	山梨県
407	建長寺境内	神奈川県	472	平林城跡	新潟県	537	甲斐金山遺跡	山梨県
408	建長寺庭園	神奈川県	473	じょうべのま遺跡	富山県	538	甲斐国分寺跡	山梨県
409	元新根石仏群	神奈川県	474	安田城跡	富山県	539	甲斐国分尼寺跡	山梨県
410	五領ヶ台貝塚	神奈川県	475	越中五箇山菅沼集落	富山県	540	勝沼氏館跡	山梨県
411	三浦安針墓	神奈川県	476	越中五箇山相倉集落	富山県	541	新府城跡	山梨県
412	三殿台遺跡	神奈川県	477	王塚・千坊山遺跡群	富山県	542	谷戸城跡	山梨県
413	若宮大路	神奈川県	478	串田新遺跡	富山県	543	鉢子塚古墳 等	山梨県
414	寿福寺境内	神奈川県	479	高瀬遺跡	富山県	544	白山城跡	山梨県
415	秋葉山古墳群	神奈川県	480	桜谷古墳	富山県	545	武田氏館跡	山梨県
416	勝坂遺跡	神奈川県	481	小杉丸山遺跡	富山県	546	妻岩山	山梨県
417	小田原城跡	神奈川県	482	上市黒川遺跡群	富山県	547	阿久遺跡	長野県
418	称名寺境内	神奈川県	483	増山城跡	富山県	548	井戸尻遺跡	長野県
419	浄光明寺境内・冷泉為相墓	神奈川県	484	大岩日石寺石仏	富山県	549	旧中込学校	長野県
420	浄智寺境内	神奈川県	485	大境洞窟住居跡	富山県	550	旧文武学校	長野県
421	浄妙寺境内	神奈川県	486	朝日貝塚	富山県	551	駒形遺跡	長野県
422	瑞泉寺境内	神奈川県	487	直坂遺跡	富山県	552	弘法山古墳	長野県
423	寸沢崖石器時代遺跡	神奈川県	488	不動堂遺跡	富山県	553	高瀬城跡	長野県
424	石塔山	神奈川県	489	北代遺跡	富山県	554	高梨氏館跡	長野県
425	川尻石器時代遺跡	神奈川県	490	柳田布尾山古墳	富山県	555	佐野遺跡	長野県
426	相模国分寺跡	神奈川県	491	チカモリ遺跡	石川県	556	寺ノ清水石器時代住居跡	長野県
427	相模国分尼寺跡	神奈川県	492	岡の宮古墳群	石川県	557	小林一茶旧宅	長野県
428	大塚・蔵勝土遺跡	神奈川県	493	吉崎・次場遺跡	石川県	558	松代城跡 等	長野県
429	大仏切通	神奈川県	494	金沢城跡	石川県	559	松代藩主真田家墓所	長野県
430	新夷奈切通	神奈川県	495	九谷磁器窯跡	石川県	560	松本城	長野県
431	長柄桜山古墳群	神奈川県	496	狐山古墳	石川県	561	上田城跡	長野県
432	鶴岡八幡宮境内	神奈川県	497	御経塚遺跡	石川県	562	上之段石器時代遺跡	長野県
433	伝上杉憲方墓	神奈川県	498	散田金谷古墳	石川県	563	埴科古墳群	長野県
434	田名向原遺跡	神奈川県	499	七尾城跡	石川県	564	信濃国分寺跡	長野県
435	栗勝寺跡	神奈川県	500	珠洲陶器窯跡	石川県	565	神坂峠遺跡	長野県
436	藤沢院御方供養塔	神奈川県	501	秋草山古墳群	石川県	566	屋敷神楽石原産地遺跡	長野県
437	日野塚墓	神奈川県	502	上山田貝塚	石川県	567	川柳村塚古墳・塚塚古墳	長野県
438	新根屋跡	神奈川県	503	真根遺跡	石川県	568	大室古墳群	長野県
439	仏法寺跡	神奈川県	504	須賀野馬穴古墳	石川県	569	大深山遺跡	長野県
440	法華堂跡(源朝朝基・北条義時墓)	神奈川県	505	石動山	石川県	570	中山道	長野県
441	北条氏常盤寺跡	神奈川県	506	鳥越城跡	石川県	571	鳥羽山洞窟	長野県
442	名越切通	神奈川県	507	東大寺領横江荘遺跡 等	石川県	572	郡原岩陰遺跡	長野県
443	明月院境内	神奈川県	508	能登国分寺跡 等	石川県	573	福島屋跡	長野県
444	和賀江嶋	神奈川県	509	法皇山横穴古墳	石川県	574	平出遺跡	長野県
445	奥山荘城館遺跡	新潟県	510	末松庵寺跡	石川県	575	矢出川遺跡	長野県
446	沖ノ原遺跡	新潟県	511	万行遺跡	石川県	576	梨久保遺跡	長野県
447	下関府遺跡	新潟県	512	和田山・末寺山古墳群	石川県	577	龍岡城跡	長野県
448	下谷地遺跡	新潟県	513	王山古墳群	福井県	578	成立石器時代住居跡	長野県
449	観音平・天神堂古墳群	新潟県	514	岡津製塩遺跡	福井県	579	乙塚古墳 附 段尻巻古墳	岐阜県
450	宮口古墳群	新潟県	515	上船塚古墳	福井県	580	加納城跡	岐阜県
451	旧新潟税関	新潟県	516	兜山古墳	福井県	581	関ヶ原古戦場	岐阜県
452	吉津八幡山遺跡	新潟県	517	丸間藩砲台跡	福井県	582	琴塚古墳	岐阜県
453	荒原遺跡	新潟県	518	吉崎御坊跡	福井県	583	元屋敷陶器窯跡	岐阜県
454	佐渡金山遺跡	新潟県	519	金ヶ崎城跡	福井県	584	江馬氏城館跡 等	岐阜県
455	佐渡国分寺跡	新潟県	520	後瀬山城跡	福井県	585	高山陣屋跡	岐阜県

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
586	壺井一里塚	岐阜県	651	正法寺古墳	愛知県	716	近江国府跡 等	滋賀県
587	正家庵寺跡	岐阜県	652	青塚古墳	愛知県	717	近江大津宮御遺跡	滋賀県
588	赤保木瓦葺跡	岐阜県	653	大アラク古宮跡	愛知県	718	穴太庵寺跡	滋賀県
589	藤巻大塚古墳	岐阜県	654	大曲輪貫塚	愛知県	719	吉保利古墳群	滋賀県
590	長塚古墳	岐阜県	655	大高城跡 附 丸根館跡 鷺津館跡	愛知県	720	光浄院庭園	滋賀県
591	堂之上遺跡	岐阜県	656	大山庵寺跡	愛知県	721	甲賀郡中野遺跡群	滋賀県
592	飛騨国分寺塔跡	岐阜県	657	大平一里塚	愛知県	722	皇子山古墳	滋賀県
593	美濃国府跡	岐阜県	658	断尖山古墳	愛知県	723	船坂墓屋伝	滋賀県
594	美濃国分寺跡	岐阜県	659	長久平古戦場 附 御旗山 首塚 色金山	愛知県	724	紫香実宮跡	滋賀県
595	苗木城跡	岐阜県	660	長篠城跡	愛知県	725	春日山古墳群	滋賀県
596	野古墳群	岐阜県	661	東之宮古墳	愛知県	726	小谷城跡	滋賀県
597	弥勒寺官街遺跡群	岐阜県	662	二子古墳	愛知県	727	垂水斎王観音跡	滋賀県
598	油島千本松跡切堤	岐阜県	663	二子山古墳	愛知県	728	樹塚寺跡	滋賀県
599	老洞・新倉須恵器窯跡	岐阜県	664	入海貫塚	愛知県	729	瀬田丘陵生産遺跡群	滋賀県
600	伊豆国分寺塔跡	静岡県	665	白鳥塚古墳	愛知県	730	清水山城館跡	滋賀県
601	横須賀城跡	静岡県	666	八幡山古墳	愛知県	731	清滝寺古墳家墓所	滋賀県
602	藤成院跡	静岡県	667	緑小川古墳	愛知県	732	善法院庭園	滋賀県
603	菊川城館遺跡群	静岡県	668	百々陶器窯跡	愛知県	733	草津宿本跡	滋賀県
604	久能山	静岡県	669	富田一里塚	愛知県	734	大岩山古墳群	滋賀県
605	休塚遺跡	静岡県	670	御木庵寺塔跡	愛知県	735	大中の湖南遺跡	滋賀県
606	旧見付学校 附 磐田文庫	静岡県	671	北野庵寺跡	愛知県	736	竹生島	滋賀県
607	興国寺城跡	静岡県	672	阿坂城跡 附 高城跡 柵城跡	三重県	737	茶臼山古墳・小茶臼山古墳	滋賀県
608	玉泉寺	静岡県	673	伊賀国庁跡	三重県	738	藤樹書院跡	滋賀県
609	御厨古墳群	静岡県	674	伊賀国分寺跡	三重県	739	堂ノ上遺跡	滋賀県
610	高天神城跡	静岡県	675	伊賀国分寺跡	三重県	740	南滋賀町庵寺跡	滋賀県
611	三岳城跡	静岡県	676	伊勢国府跡	三重県	741	日吉神社境内	滋賀県
612	山中城跡	静岡県	677	伊勢国分寺跡	三重県	742	藤少菩提寺石多宝塔および石	滋賀県
613	志太郡街跡	静岡県	678	王塚古墳	三重県	743	百濟寺境内	滋賀県
614	柴屋寺庭園	静岡県	679	夏見庵寺跡	三重県	744	龍盤山古墳	滋賀県
615	小島陣屋跡	静岡県	680	久留根官街遺跡	三重県	745	越前寺石仏谷墓跡	滋賀県
616	上白岩遺跡	静岡県	681	旧崇広堂	三重県	746	北近江城館跡群	滋賀県
617	新豊院山古墳群	静岡県	682	旧豊宮崎文庫	三重県	747	北高具行墓	滋賀県
618	神子元鳥標台	静岡県	683	旧林崎文庫	三重県	748	老藤森	滋賀県
619	諏訪原城跡	静岡県	684	御墓山古墳	三重県	749	伊藤仁斎宅(古義堂)跡ならび	京都府
620	千原遺跡	静岡県	685	向山古墳	三重県	750	宇治川太閤堤跡	京都府
621	浅間古墳	静岡県	686	斎宮跡	三重県	751	荷田春満旧宅	京都府
622	大庭塚遺跡	静岡県	687	上野城跡	三重県	752	賀茂御祖神社境内	京都府
623	大知波神楽寺跡	静岡県	688	城之越遺跡	三重県	753	賀茂別雷神社境内	京都府
624	餅子塚古墳 等	静岡県	689	水池土器製作遺跡	三重県	754	笠置山	京都府
625	長浜城跡	静岡県	690	正法寺山石跡	三重県	755	櫻原庵寺跡	京都府
626	伝説越御所跡	静岡県	691	赤木城跡及び田平子神楽壇跡	三重県	756	岩倉具親御殿旧宅	京都府
627	島田宿大井川川越遺跡	静岡県	692	多気北高氏城館跡 等	三重県	757	久世庵寺跡	京都府
628	葦山反射炉	静岡県	693	谷川土清旧宅	三重県	758	久津川車塚・丸塚古墳	京都府
629	葦山役所跡	静岡県	694	谷川土清墓	三重県	759	旧二条殿宮(二条城)	京都府
630	祐谷横穴群	静岡県	695	朝熊山総塚群	三重県	760	藤仁宮跡(山城国分寺跡)	京都府
631	片山庵寺跡	静岡県	696	長楽山庵寺跡	三重県	761	教王護国寺境内	京都府
632	北江間横穴群	静岡県	697	長野氏城跡 等	三重県	762	玉鳳院庭園	京都府
633	北条氏部跡(円成寺跡)	静岡県	698	天白遺跡	三重県	763	金胎寺境内	京都府
634	了仙寺	静岡県	699	善福院落寺町石	三重県	764	栗栖野瓦葺跡	京都府
635	和田岡古墳群	静岡県	700	美旗古墳群	三重県	765	惠解山古墳	京都府
636	蝦塚遺跡	静岡県	701	宝塚古墳	三重県	766	桂春院庭園	京都府
637	藤橋山古墳	静岡県	702	本居宣長墓(山室山)	三重県	767	孤蓬庵庭園	京都府
638	阿野一里塚	愛知県	703	本居宣長墓(樹歌寺) 附 本居春庭墓	三重県	768	御土居	京都府
639	伊良湖東大寺瓦葺跡	愛知県	704	明合古墳	三重県	769	高山寺境内	京都府
640	瓜棚遺跡	愛知県	705	野村一里塚	三重県	770	高瀬川一之船入	京都府
641	橋狭間古戦場伝説地 附 戦人塚	愛知県	706	扇宮院跡	三重県	771	高台寺庭園	京都府
642	貫殿山貫塚	愛知県	707	芦浦観音寺跡	滋賀県	772	高麗寺跡	京都府
643	吉胡貫塚	愛知県	708	衣川庵寺跡	滋賀県	773	作山古墳	京都府
644	三河国分寺跡	愛知県	709	円満院庭園	滋賀県	774	山科本願寺南殿跡附山科本願	京都府
645	三河国分尼寺跡	愛知県	710	下之郷遺跡	滋賀県	775	産土山古墳	京都府
646	小長曾陶器窯跡	愛知県	711	鎌河城跡	滋賀県	776	私市門山古墳	京都府
647	小牧山	愛知県	712	観音寺城跡	滋賀県	777	詩仙堂	京都府
648	松平氏遺跡	愛知県	713	藤仲寺境内	滋賀県	778	慈照寺(銀閣寺)旧境内	京都府
649	真宮遺跡	愛知県	714	旧和中殿本館	滋賀県	779	芝ノ原古墳	京都府
650	富山蛇穴	愛知県	715	京極氏遺跡 等	滋賀県	780	蛇塚古墳	京都府

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
781	松花堂おびその跡	京都府	846	吉志部瓦窯跡	大阪府	911	篠山城跡	兵庫県
782	浄瑠璃寺庭園	京都府	847	旧堺燈台	大阪府	912	洲本城跡	兵庫県
783	森山遺跡	京都府	848	禁野車塚古墳	大阪府	913	如女塚古墳	兵庫県
784	真珠庵庭園	京都府	849	金剛寺境内	大阪府	914	新宮宮内遺跡	兵庫県
785	神良苑	京都府	850	金山古墳	大阪府	915	西宮砲台	兵庫県
786	神明山古墳	京都府	851	郡山宿本陣	大阪府	916	西米女塚古墳	兵庫県
787	仁和寺御所跡	京都府	852	契沖旧庵(円珠庵)ならびに墓	大阪府	917	西条古墳群	兵庫県
788	随心院境内	京都府	853	吉市古墳群	大阪府	918	赤松氏城跡 等	兵庫県
789	正道官街遺跡	京都府	854	高井田横穴	大阪府	919	赤穂城跡	兵庫県
790	聖護院旧仮皇居	京都府	855	高宮養寺跡	大阪府	920	多田院	兵庫県
791	聖塚・葛津塚古墳	京都府	856	鴻池新田会所跡	大阪府	921	大石良雄宅跡	兵庫県
792	西寺跡	京都府	857	国府遺跡	大阪府	922	大中遺跡	兵庫県
793	西芳寺庭園	京都府	858	黒跡山古墳	大阪府	923	但馬国分寺跡	兵庫県
794	青蓮院旧仮御所	京都府	859	今城塚古墳 等	大阪府	924	淡路国分寺塔跡	兵庫県
795	石川丈山墓	京都府	860	桜井駅跡(補正成伝説地)	大阪府	925	塚塚山古墳 第一、二、三古墳	兵庫県
796	赤坂今井墳墓	京都府	861	塚塚古墳群	大阪府	926	竹田城跡	兵庫県
797	千歳車塚古墳	京都府	862	四ツ池遺跡	大阪府	927	茶すじ山古墳	兵庫県
798	船岡山	京都府	863	四天王寺旧境内	大阪府	928	中山荘園古墳	兵庫県
799	退蔵院庭園	京都府	864	鹿谷寺跡	大阪府	929	田能遺跡	兵庫県
800	大覚寺御所跡	京都府	865	七尾瓦窯跡	大阪府	930	徳島藩松帆台場跡	兵庫県
801	大山崎瓦窯跡	京都府	866	塚塚古墳	大阪府	931	楠木正成墓碑	兵庫県
802	大住車塚古墳	京都府	867	住吉行宮跡	大阪府	932	揚州葡萄園跡	兵庫県
803	大山院書院庭園	京都府	868	春日大社南郷目代今西氏屋敷	大阪府	933	播磨国分寺跡	兵庫県
804	大徳寺方丈庭園	京都府	869	緒方洪庵旧宅おびそ跡	大阪府	934	柏原藩陣屋跡	兵庫県
805	醍醐寺境内	京都府	870	膳尾寺旧境内■(ボウ)赤八天石蔵おびそ石	大阪府	935	八上城跡	兵庫県
806	丹波国分寺跡	京都府	871	松岳山古墳	大阪府	936	八木城跡	兵庫県
807	丹波国分寺跡	京都府	872	心合寺山古墳	大阪府	937	塚塚古墳	兵庫県
808	餅子山古墳 等	京都府	873	新堂養寺跡 附 オガンジ池瓦窯跡・お亀石古墳	大阪府	938	箕谷古墳群	兵庫県
809	長岡宮跡	京都府	874	新堂養寺跡 附 オガンジ池瓦窯跡 お亀石古墳	大阪府	939	明石城跡	兵庫県
810	鳥羽殿跡	京都府	875	西塚古墳 第一、第二古墳	大阪府	940	明石藩舞子台場跡	兵庫県
811	橋井大塚山古墳	京都府	876	石室殿古墳	大阪府	941	有間城跡	兵庫県
812	天皇の杜古墳	京都府	877	赤坂城跡	大阪府	942	和田岬砲台	兵庫県
813	天塚古墳	京都府	878	千早城跡	大阪府	943	ナガレ山古墳	奈良県
814	天龍寺庭園	京都府	879	池上曾根遺跡	大阪府	944	マルコ山古墳	奈良県
815	東海庵書院庭園	京都府	880	長塚古墳	大阪府	945	メノ山古墳	奈良県
816	南禅院庭園	京都府	881	通法寺跡	大阪府	946	慶原寺跡	奈良県
817	南禅寺境内	京都府	882	塚塚古墳	大阪府	947	安福寺跡	奈良県
818	日吉ヶ丘・明石墳墓群	京都府	883	帝塚山古墳	大阪府	948	宇陀松山城跡	奈良県
819	白米山古墳	京都府	884	田辺養寺跡	大阪府	949	宇智川磨崖碑	奈良県
820	園石浜遺物包含地	京都府	885	土佐十一烈士墓	大阪府	950	高土山古墳	奈良県
821	華上り瓦窯跡	京都府	886	土塔	大阪府	951	栄山寺行宮跡	奈良県
822	蛸子山古墳	京都府	887	嶋上郡街跡 附 寺跡	大阪府	952	塚塚古墳	奈良県
823	平安宮跡	京都府	888	關籠山古墳	大阪府	953	阿寺跡	奈良県
824	平川養寺跡	京都府	889	橋本城跡(上赤坂城跡)	大阪府	954	屋敷山古墳	奈良県
825	平等院庭園	京都府	890	難波宮跡 等	大阪府	955	乙女山古墳	奈良県
826	方広寺石燈おびそ石塔	京都府	891	二子塚古墳	大阪府	956	花山塚古墳	奈良県
827	本願寺境内	京都府	892	日下貝塚	大阪府	957	福田部宮跡	奈良県
828	本願寺大書院庭園	京都府	893	日根花遺跡	大阪府	958	茅原大墓古墳	奈良県
829	妙心寺境内	京都府	894	乳間古墳	大阪府	959	丸山古墳	奈良県
830	妙心寺庭園	京都府	895	文珠塚古墳	大阪府	960	岩屋山古墳	奈良県
831	嵐山	京都府	896	牧野車塚古墳	大阪府	961	吉備池養寺跡	奈良県
832	龍安寺方丈庭園	京都府	897	摩羅山古墳	大阪府	962	吉野山	奈良県
833	靈寶院庭園	京都府	898	野中寺旧伽藍跡	大阪府	963	橋寺境内	奈良県
834	依山園書斎(山樂水明苑)	京都府	899	豊田白鳥埴輪製作遺跡	大阪府	964	宮山古墳	奈良県
835	いたすけ古墳	大阪府	900	伊丹養寺跡	兵庫県	965	宮滝遺跡	奈良県
836	阿武山古墳	大阪府	901	円教寺境内	兵庫県	966	巨勢山古墳群	奈良県
837	安瀨遺跡	大阪府	902	加茂遺跡	兵庫県	967	巨勢寺塔跡	奈良県
838	一須賀古墳群	大阪府	903	吉島古墳	兵庫県	968	興福寺旧境内	奈良県
839	河内寺養寺跡	大阪府	904	玉丘古墳群	兵庫県	969	金剛山	奈良県
840	海会寺跡	大阪府	905	五色塚(千変)古墳	兵庫県	970	樺山古墳	奈良県
841	観音塚古墳	大阪府	906	広護養寺跡	兵庫県	971	兼牛子塚古墳	奈良県
842	観心寺境内	大阪府	907	黒井城跡	兵庫県	972	見田・大沢古墳群	奈良県
843	丸山古墳	大阪府	908	三ツ塚養寺跡	兵庫県	973	元興寺極楽坊境内	奈良県
844	丸保山古墳	大阪府	909	山名氏城跡 等	兵庫県	974	元興寺小塔院跡	奈良県
845	岩屋	大阪府	910	山陽道野鹿駅跡	兵庫県	975	元興寺塔跡	奈良県

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
976	行基墓	奈良県	1041	牧野古墳	奈良県	1106	益田氏城館跡	鳥取県
977	高宮廃寺跡	奈良県	1042	毛原廃寺跡	奈良県	1107	岡田山古墳	鳥取県
978	高取城跡	奈良県	1043	美師寺旧境内	奈良県	1108	下府廃寺跡	鳥取県
979	黒塚古墳	奈良県	1044	権限寺跡	奈良県	1109	加茂岩倉遺跡	鳥取県
980	佐味田宝塚古墳	奈良県	1045	藤向古墳群	奈良県	1110	岩屋寺跡古墳	鳥取県
981	櫻井茶臼山古墳	奈良県	1046	神墓古墳	奈良県	1111	岩舟古墳	鳥取県
982	三井	奈良県	1047	鷲塚古墳	奈良県	1112	金崎古墳群	鳥取県
983	三井瓦窯跡	奈良県	1048	機關岩陰遺跡	和歌山県	1113	権利山洞窟住居跡	鳥取県
984	市尾墓山古墳・宮塚古墳	奈良県	1049	下里古墳	和歌山県	1114	荒神谷遺跡	鳥取県
985	慈光院庭園	奈良県	1050	紀伊園分寺跡	和歌山県	1115	荒島古墳群	鳥取県
986	球城山古墳	奈良県	1051	旧名千宿本陣	和歌山県	1116	今市大念寺古墳	鳥取県
987	酒船石遺跡	奈良県	1052	金剛峯寺境内	和歌山県	1117	佐太・廣武貝塚	鳥取県
988	春日山石窟仏	奈良県	1053	瓜村堤防	和歌山県	1118	山代二子塚	鳥取県
989	春日大社境内	奈良県	1054	高山寺貝塚	和歌山県	1119	山代方墳	鳥取県
990	小治田安萬侶墓	奈良県	1055	高野山奇石	和歌山県	1120	周布古墳	鳥取県
991	松山西口閘門	奈良県	1056	根家寺境内	和歌山県	1121	出雲玉作跡	鳥取県
992	葛瀧池古墳	奈良県	1057	三福寺塔跡	和歌山県	1122	出雲国山代郡遺跡群	鳥取県
993	楠山古墳	奈良県	1058	四箇郡一里塚	和歌山県	1123	出雲国府跡	鳥取県
994	新沢千塚古墳群	奈良県	1059	上野廃寺跡	和歌山県	1124	出雲国分寺跡 等	鳥取県
995	森野旧庭園	奈良県	1060	新宮城跡附水野家墓所	和歌山県	1125	出西・伊波野一里塚	鳥取県
996	水尾古墳	奈良県	1061	西園分塔跡	和歌山県	1126	小泉八雲旧居	鳥取県
997	正長元年柳生徳政碑	奈良県	1062	大谷古墳	和歌山県	1127	松江城	鳥取県
998	西山古墳	奈良県	1063	丹生都比売神社境内	和歌山県	1128	松江藩主松平家墓所	鳥取県
999	西大寺境内	奈良県	1064	浜口稲築墓	和歌山県	1129	上塩治地蔵山古墳	鳥取県
1000	赤土山古墳	奈良県	1065	明恵紀州遺跡率都婆	和歌山県	1130	上塩治地蔵山古墳	鳥取県
1001	川原寺跡	奈良県	1066	鳴神貝塚	和歌山県	1131	上島古墳	鳥取県
1002	太安萬侶墓	奈良県	1067	和歌山城	和歌山県	1132	森鷗外旧宅	鳥取県
1003	大安寺旧境内附石橋瓦窯跡	奈良県	1068	和歌山藩主徳川家墓所	和歌山県	1133	曾田庵	鳥取県
1004	大宮大寺跡	奈良県	1069	阿弥大寺古墳群	鳥取県	1134	西園旧居	鳥取県
1005	大神社境内	奈良県	1070	伊福吉部徳足比売墓跡	鳥取県	1135	西谷墳墓群	鳥取県
1006	大塚山古墳群	奈良県	1071	因幡園序跡	鳥取県	1136	石原古墳	鳥取県
1007	大峰山寺境内	奈良県	1072	榎山古墳	鳥取県	1137	石見銀山遺跡	鳥取県
1008	大野寺石仏	奈良県	1073	岩井寺塔跡	鳥取県	1138	石見園分寺跡	鳥取県
1009	地獄谷石窟仏	奈良県	1074	橋津古墳群	鳥取県	1139	大宮鷲塚	鳥取県
1010	中宮寺跡	奈良県	1075	向山古墳群	鳥取県	1140	丹花庵古墳	鳥取県
1011	中尾山古墳	奈良県	1076	妻木徳田遺跡	鳥取県	1141	仲仙寺古墳群	鳥取県
1012	定林寺跡	奈良県	1077	三徳山	鳥取県	1142	猪目洞窟遺物包含層	鳥取県
1013	天王山古墳	奈良県	1078	三明寺古墳	鳥取県	1143	津和野城跡	鳥取県
1014	伝馬鳥板蓋宮跡	奈良県	1079	若桜滝ヶ城跡	鳥取県	1144	田橋櫻井家たたら製鉄遺跡	鳥取県
1015	唐古・御遺跡	奈良県	1080	上淀廃寺跡	鳥取県	1145	田和山遺跡	鳥取県
1016	唐招提寺旧境内	奈良県	1081	青谷上寺地遺跡	鳥取県	1146	徳津堀古墳	鳥取県
1017	鳥の山古墳	奈良県	1082	青木遺跡	鳥取県	1147	富田城跡	鳥取県
1018	東大寺旧境内	奈良県	1083	船上山行宮跡	鳥取県	1148	宝塚古墳	鳥取県
1019	東大寺東南院旧境内	奈良県	1084	大原廃寺塔跡	鳥取県	1149	万福寺庭園	鳥取県
1020	当麻寺中之坊庭園	奈良県	1085	大御堂廃寺跡	鳥取県	1150	こうり塚古墳	岡山県
1021	藤ノ木古墳	奈良県	1086	智頭往來	鳥取県	1151	院庄館跡(児島高徳伝説地)	岡山県
1022	藤原京朱雀大路跡	奈良県	1087	鳥取城跡 等	鳥取県	1152	蒲原茶臼山古墳	岡山県
1023	藤原武智麻呂墓	奈良県	1088	鳥取藩主池田家墓所	鳥取県	1153	岡山城跡	岡山県
1024	頭塔	奈良県	1089	鳥取藩台場跡 等	鳥取県	1154	岡山藩主池田家墓所 等	岡山県
1025	二塚古墳	奈良県	1090	土師百井廃寺跡	鳥取県	1155	下道氏墓	岡山県
1026	尼寺廃寺跡	奈良県	1091	榎本廃寺跡	鳥取県	1156	笠神の文字岩	岡山県
1027	比叡寺跡	奈良県	1092	伯耆一宮跡	鳥取県	1157	寒風古窯跡群	岡山県
1028	飛鳥稲荷宮殿跡	奈良県	1093	伯耆園分寺 等	鳥取県	1158	丸山古墳	岡山県
1029	飛鳥京跡苑池	奈良県	1094	伯耆園分寺跡	鳥取県	1159	鬼城山	岡山県
1030	飛鳥寺跡	奈良県	1095	布勢古墳	鳥取県	1160	旧岡山藩藩庁	岡山県
1031	飛鳥水落遺跡	奈良県	1096	福市遺跡	鳥取県	1161	煎山遺跡	岡山県
1032	飛鳥池工房遺跡	奈良県	1097	米子城跡	鳥取県	1162	高松城跡 附 水攻築提跡	岡山県
1033	藍華山古墳	奈良県	1098	北山古墳	鳥取県	1163	作山古墳 第一古墳	岡山県
1034	文神麻呂墓	奈良県	1099	サルガ鼻洞窟住居跡	鳥取県	1164	三成古墳	岡山県
1035	平城京朱雀大路跡	奈良県	1100	スクモ塚古墳	鳥取県	1165	四ツ塚古墳群	岡山県
1036	平野塚穴山古墳	奈良県	1101	安部谷古墳	鳥取県	1166	構築遺跡	岡山県
1037	法華寺旧境内 等	奈良県	1102	安東一里塚	鳥取県	1167	眞田廃寺跡	岡山県
1038	法起寺境内	奈良県	1103	伊志見一里塚	鳥取県	1168	真金一里塚	岡山県
1039	法隆寺旧境内	奈良県	1104	医光寺庭園	鳥取県	1169	神宮寺山古墳	岡山県
1040	北山十八間戸	奈良県	1105	隠岐園分寺境内	鳥取県	1170	前田大塚古墳	岡山県

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
1171	惣爪塔跡	岡山県	1238	大村基次郎墓	山口県	1301	龍河洞	高知県
1172	造山古墳 第一、二、三、四、五、六古墳	岡山県	1237	大内氏遺跡 等	山口県	1302	綾塚古墳	福岡県
1173	大洲小洲山城跡	岡山県	1238	大日古墳	山口県	1303	安国寺妻稲墓群	福岡県
1174	大多羅寄宮跡	岡山県	1239	大日比ナツメカン原樹	山口県	1304	浦山古墳	福岡県
1175	大谷・定古墳群	岡山県	1240	茶臼山古墳	山口県	1305	屋形古墳群	福岡県
1176	津雲貝塚	岡山県	1241	中山忠光墓	山口県	1308	下高橋官街遺跡	福岡県
1177	津山城跡	岡山県	1242	朝田墳墓群	山口県	1307	下馬塚古墳	福岡県
1178	津島遺跡	岡山県	1243	長登嶺山跡	山口県	1308	釜塚古墳	福岡県
1179	樽多磨寺塔跡	岡山県	1244	長門鎮西所跡	山口県	1309	観世音寺境内および子院跡	福岡県
1180	備前国分寺跡	岡山県	1245	土井ヶ浜遺跡	山口県	1310	吉武高木遺跡	福岡県
1181	備前陶器窯跡 等	岡山県	1246	陶器窯跡	山口県	1311	橋塚古墳	福岡県
1182	備中国分寺跡	岡山県	1247	萩往還	山口県	1312	求菩提山	福岡県
1183	備中国分尼寺跡	岡山県	1248	萩城下町	山口県	1313	牛頭須惠器窯跡	福岡県
1184	備中松山城跡	岡山県	1249	萩城跡	山口県	1314	金環遺跡	福岡県
1185	尾上車山古墳	岡山県	1250	萩反射炉	山口県	1315	穴ヶ堂山古墳	福岡県
1186	美作国分寺跡	岡山県	1251	萩藩主毛利家墓所	山口県	1316	元塚跡	福岡県
1187	美和山古墳群	岡山県	1252	白須たたら製鉄遺跡	山口県	1317	吉月横穴	福岡県
1188	彦崎貝塚	岡山県	1253	敷山城跡	山口県	1318	五郎山古墳	福岡県
1189	福山城跡	岡山県	1254	木戸孝允旧宅	山口県	1319	御所ヶ谷神籬石	福岡県
1190	万富東大寺瓦窯跡	岡山県	1255	野谷石風呂	山口県	1320	御所山古墳	福岡県
1191	箕作辰甫旧宅	岡山県	1256	阿波国分尼寺跡	徳島県	1321	御塚・権現塚古墳	福岡県
1192	半佐大塚古墳	岡山県	1257	都牟婁寺跡	徳島県	1322	光正寺古墳	福岡県
1193	門田貝塚	岡山県	1258	浜野丸山古墳	徳島県	1323	高山彦九郎墓	福岡県
1194	岡宮山古墳	岡山県	1259	勝勝城館跡	徳島県	1324	高良山神籬石	福岡県
1195	安芸国分寺跡	広島県	1260	丹田古墳	徳島県	1325	瑞穂館跡	福岡県
1196	一宮(桜山墓後學長伝説地)	広島県	1261	段の塚穴	徳島県	1326	国分瓦窯跡	福岡県
1197	横見寺跡	広島県	1262	徳島城跡	徳島県	1327	今山遺跡	福岡県
1198	花園遺跡	広島県	1263	徳島藩主蜂須賀家墓所	徳島県	1328	今宿古墳群	福岡県
1199	寄倉岩跡遺跡	広島県	1264	塩竈勤善所跡	香川県	1329	桜塚古墳	福岡県
1200	吉川氏城館跡 等	広島県	1265	屋島	香川県	1330	志登支石墓群	福岡県
1201	宮の前庵寺跡	広島県	1266	快天山古墳	香川県	1331	鹿毛馬神籬石	福岡県
1202	鶴山城跡	広島県	1267	丸亀城跡	香川県	1332	七夕池古墳	福岡県
1203	原爆ドーム(旧広島県産業奨励館)	広島県	1268	喜兵衛島製塩遺跡	香川県	1333	宗像神社境内	福岡県
1204	御年代古墳	広島県	1269	高松城跡	香川県	1334	女山神籬石	福岡県
1205	広島城跡	広島県	1270	讃岐国分尼寺跡	香川県	1335	小郡官街遺跡群	福岡県
1206	三ツ城古墳	広島県	1271	宗吉瓦窯跡	香川県	1336	小田茶臼塚古墳	福岡県
1207	寺町庵寺跡	広島県	1272	城山	香川県	1337	徳ノ峠古墳	福岡県
1208	小平川氏城跡 等	広島県	1273	石清尾山古墳群	香川県	1338	新町支石墓群	福岡県
1209	浄栄寺・七ツ塚古墳群	広島県	1274	大坂城石垣石切丁跡	香川県	1339	須玖岡本遺跡	福岡県
1210	藤山墳墓群	広島県	1275	中寺庵寺跡	香川県	1340	聖福寺境内	福岡県
1211	中小田古墳群	広島県	1276	天霧城跡	香川県	1341	石神山古墳	福岡県
1212	二子塚古墳	広島県	1277	二ノ宮窯跡	香川県	1342	石塚山古墳	福岡県
1213	福山城跡	広島県	1278	富田茶臼山古墳	香川県	1343	仙道古墳	福岡県
1214	毛利氏城跡 等	広島県	1279	府中・山内瓦窯跡	香川県	1344	潜塚古墳	福岡県
1215	矢谷古墳	広島県	1280	有田古墳群	香川県	1345	船迫遺跡	福岡県
1216	頼山陽居室	山口県	1281	伊予国分寺塔跡	愛媛県	1346	曾根遺跡群	福岡県
1217	綾羅木郷遺跡	山口県	1282	宇和島城	愛媛県	1347	相島積石塚群	福岡県
1218	伊藤博文旧宅	山口県	1283	永納山城跡	愛媛県	1348	大ノ瀬官街遺跡	福岡県
1219	榎栗浜遺跡	山口県	1284	河後森城跡	愛媛県	1349	大宰府学校院跡	福岡県
1220	吉田松陰幽因の旧宅	山口県	1285	久米官街遺跡群	愛媛県	1350	大分庵寺塔跡	福岡県
1221	旧萩藩御船倉	山口県	1286	松山城跡	愛媛県	1351	竹原古墳	福岡県
1222	旧萩藩校明倫館	山口県	1287	上黒岩岩跡遺跡	愛媛県	1352	筑後国府跡	福岡県
1223	見島ジョウコボ古墳群	山口県	1288	湯築城跡	愛媛県	1353	筑前国分寺跡	福岡県
1224	高杉晋作墓	山口県	1289	等妙寺旧境内	愛媛県	1354	餅子塚古墳	福岡県
1225	佐波川閼水	山口県	1290	能島城跡	愛媛県	1355	津屋崎古墳群	福岡県
1226	周防国分寺旧境内	山口県	1291	法安寺跡	愛媛県	1356	塚花塚古墳	福岡県
1227	周防国街跡	山口県	1292	同豊城跡	高知県	1357	田主丸古墳群	福岡県
1228	周防鎮西司跡	山口県	1293	高知城跡	高知県	1358	唐原山城跡	福岡県
1229	周防藩干拓遺跡 等	山口県	1294	宿毛貝塚	高知県	1359	塔原塔跡	福岡県
1230	松下村塾	山口県	1295	谷重遺墓	高知県	1360	楠名・重定古墳	福岡県
1231	常栄寺庭園	山口県	1296	土佐国分寺跡	高知県	1361	日岡古墳	福岡県
1232	仁馬山古墳	山口県	1297	土佐藩砲台跡	高知県	1362	日祥塚古墳	福岡県
1233	青海島鯨墓	山口県	1298	比江庵寺塔跡	高知県	1363	日輪寺古墳	福岡県
1234	石城山神籬石	山口県	1299	不動ガ岩屋洞窟	高知県	1364	柁木神籬石	福岡県
1235	村田清風旧宅および墓	山口県	1300	武市平平太旧宅および墓	高知県	1365	萩ノ尾古墳	福岡県

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
1366	八女古墳群	福岡県	1431	熊本藩主細川家墓所	熊本県	1496	今町一里塚	宮崎県
1367	坂付遺跡	福岡県	1432	隈部氏館跡	熊本県	1497	佐土原城跡	宮崎県
1368	比恵遺跡	福岡県	1433	堅志田城跡	熊本県	1498	持田古墳群	宮崎県
1369	福岡城跡	福岡県	1434	御領買塚	熊本県	1499	宗麟原供養塔	宮崎県
1370	平塚川邊遺跡	福岡県	1435	江田穴観音古墳	熊本県	1500	松本塚古墳	宮崎県
1371	豊前園分寺跡	福岡県	1436	江田船山古墳 等	熊本県	1501	常心塚古墳	宮崎県
1372	堀川用水及び朝倉橋水車	福岡県	1437	佐敷城跡	熊本県	1502	新田原古墳群	宮崎県
1373	野方遺跡	福岡県	1438	小田良古墳	熊本県	1503	生日古墳群	宮崎県
1374	友枝瓦窯跡	福岡県	1439	人吉城跡	熊本県	1504	千畑古墳	宮崎県
1375	雷山神籬石	福岡県	1440	水前寺成跡園	熊本県	1505	川南古墳群	宮崎県
1376	老司古墳	福岡県	1441	石貫ナギノ横穴群	熊本県	1506	大島高田遺跡	宮崎県
1377	怡土城跡	福岡県	1442	石貫穴観音横穴	熊本県	1507	茶臼原古墳群	宮崎県
1378	おつぼ山神籬石	佐賀県	1443	千金甲古墳(乙号)	熊本県	1508	中ノ尾供養碑	宮崎県
1379	安永田遺跡	佐賀県	1444	千金甲古墳(甲号)	熊本県	1509	都於郡城跡	宮崎県
1380	横田下古墳	佐賀県	1445	大村横穴群	熊本県	1510	南方古墳群	宮崎県
1381	杉吉衛門窯跡	佐賀県	1446	大坊古墳	熊本県	1511	日向国府跡	宮崎県
1382	粟畑遺跡	佐賀県	1447	柳屋城跡	熊本県	1512	藤佐城跡	宮崎県
1383	勝尾城築紫氏遺跡	佐賀県	1448	池辺寺跡	熊本県	1513	本庄古墳群	宮崎県
1384	西隈古墳	佐賀県	1449	塚原古墳群	熊本県	1514	本野原遺跡	宮崎県
1385	多久聖廟	佐賀県	1450	田中城跡	熊本県	1515	蓮ヶ池横穴群	宮崎県
1386	帯塚山神籬石	佐賀県	1451	鍋田横穴	熊本県	1516	宇宿買塚	鹿児島県
1387	大隈重信旧宅	佐賀県	1452	二子山石器製作遺跡	熊本県	1517	横瀬古墳	鹿児島県
1388	大川内鍋島窯跡	佐賀県	1453	富岡吉利支丹供養碑	熊本県	1518	旧集成館	鹿児島県
1389	谷口古墳	佐賀県	1454	井慶ヶ穴古墳	熊本県	1519	柱巻墓	鹿児島県
1390	餅子塚古墳	佐賀県	1455	方保田東原遺跡	熊本県	1520	広田遺跡	鹿児島県
1391	田代太田古墳	佐賀県	1456	豊前街道 等	熊本県	1521	高山城跡	鹿児島県
1392	土生遺跡	佐賀県	1457	野津古墳群	熊本県	1522	佐多旧薬園	鹿児島県
1393	肥前国庁跡	佐賀県	1458	格蘭ノヤ古墳	大分県	1523	薩摩国分寺跡	鹿児島県
1394	肥前磁器窯跡 等	佐賀県	1459	安国寺薬師遺跡 等	大分県	1524	志布志城跡	鹿児島県
1395	肥前陶器窯跡	佐賀県	1460	宇佐神宮境内	大分県	1525	指宿橋牟礼川遺跡	鹿児島県
1396	業山尻支石墓群	佐賀県	1461	横尾買塚	大分県	1526	鹿児島紡績所技師館	鹿児島県
1397	シーボルト宅跡	長崎県	1462	岡城跡	大分県	1527	住吉買塚	鹿児島県
1398	ホケノ石銅製作遺跡	長崎県	1463	岡藩主中川家墓所	大分県	1528	上野原遺跡	鹿児島県
1399	香城古墳群	長崎県	1464	下山古墳	大分県	1529	城山	鹿児島県
1400	吉利支丹墓碑	長崎県	1465	角牟礼城跡	大分県	1530	清色城跡	鹿児島県
1401	旧島原藩薬園跡	長崎県	1466	葛原古墳	大分県	1531	赤木名城跡	鹿児島県
1402	曲崎古墳群	長崎県	1467	岩戸遺跡	大分県	1532	大隅国分寺跡等	鹿児島県
1403	金石城跡	長崎県	1468	鬼ノ岩屋古墳	大分県	1533	大口筋 等	鹿児島県
1404	原山支石墓群	長崎県	1469	鬼塚古墳	大分県	1534	知覧城跡	鹿児島県
1405	原城跡	長崎県	1470	龜塚古墳	大分県	1535	塚崎古墳群	鹿児島県
1406	高島秋帆旧宅	長崎県	1471	旧竹田荘 等	大分県	1536	唐仁古墳群	鹿児島県
1407	櫻管古墳群	長崎県	1472	熊野磨崖仏 等	大分県	1537	徳之島カムイヤキ陶器窯跡	鹿児島県
1408	出島和蘭商館跡	長崎県	1473	穴観音古墳	大分県	1538	南浦文之墓	鹿児島県
1409	勝本城跡	長崎県	1474	犬飼石仏	大分県	1539	隼人塚	鹿児島県
1410	小管修船場跡	長崎県	1475	吉宮古墳	大分県	1540	柘ノ原遺跡	鹿児島県
1411	清水山城跡	長崎県	1476	広瀬淡窓墓	大分県	1541	フルスト原遺跡	沖縄県
1412	泉福寺洞窟	長崎県	1477	高瀬石仏	大分県	1542	安慶名城跡	沖縄県
1413	対馬藩主宗家墓所	長崎県	1478	三浦梅園旧宅	大分県	1543	伊波買塚	沖縄県
1414	大村藩主大村家墓所	長崎県	1479	四日市横穴群	大分県	1544	宇江城城跡	沖縄県
1415	大野台支石墓群	長崎県	1480	七ツ森古墳群	大分県	1545	宇佐浜遺跡	沖縄県
1416	長崎台場跡魚見岳台場跡	長崎県	1481	緒方宮迫西石仏	大分県	1546	浦添城跡	沖縄県
1417	塔の首遺跡	長崎県	1482	緒方宮迫東石仏	大分県	1547	円覚寺跡	沖縄県
1418	日野江城跡	長崎県	1483	小迫辻原遺跡	大分県	1548	萩堂買塚	沖縄県
1419	肥前波佐見陶磁器窯跡	長崎県	1484	菅尾石仏	大分県	1549	下田原城跡	沖縄県
1420	福井洞窟	長崎県	1485	千代丸古墳	大分県	1550	玉城城跡	沖縄県
1421	平戸和蘭商館跡	長崎県	1486	川部・高森古墳群	大分県	1551	玉城	沖縄県
1422	矢立山古墳群	長崎県	1487	大分元町石仏	大分県	1552	具志原買塚	沖縄県
1423	チブサン・オブサン古墳	熊本県	1488	大友氏遺跡	大分県	1553	具志川城跡	沖縄県
1424	阿高・黒橋買塚	熊本県	1489	築山古墳	大分県	1554	具志川城跡	沖縄県
1425	井寺古墳	熊本県	1490	福沢諭吉旧居	大分県	1555	国頭方西海道	沖縄県
1426	宇土城跡	熊本県	1491	法恩寺山古墳群	大分県	1556	今得仁城跡 等	沖縄県
1427	永安寺東古墳・永安寺西古墳	熊本県	1492	法鏡寺庵寺跡	大分県	1557	座喜味城跡	沖縄県
1428	釜尾古墳	熊本県	1493	豊後園分寺跡	大分県	1558	斎場御嶽	沖縄県
1429	岩原古墳群	熊本県	1494	成宜園跡	大分県	1559	山田城跡	沖縄県
1430	鞠智城跡	熊本県	1495	安井息軒旧宅	宮崎県	1560	糸敷城跡	沖縄県

No.	名称	都道府県
1561	首里城跡	沖縄県
1562	勝連城跡	沖縄県
1563	先島諸島火番盛	沖縄県
1564	川平貝塚	沖縄県
1565	大山貝塚	沖縄県
1566	大和井	沖縄県
1567	知念城跡	沖縄県
1568	中城城跡	沖縄県
1569	仲原遺跡	沖縄県
1570	仲泊遺跡	沖縄県
1571	末吉宮跡	沖縄県
1572	銘苜墓跡群	沖縄県
1573	木綿原遺跡	沖縄県
1574	延暦寺境内	2県以上
1575	加賀藩主前田家墓所	2県以上
1576	歌妓瓦窯跡	2県以上
1577	近松門左衛門墓	2県以上
1578	熊野三山	2県以上
1579	熊野参詣道	2県以上
1580	玄藩尾城(内中尾山城)跡	2県以上
1581	三井三池炭鉱跡 宮原坑跡 万田坑跡	2県以上
1582	山陰道	2県以上
1583	出羽仙台街道中山越	2県以上
1584	石のカタ古墳	2県以上
1585	大峯奥新道	2県以上
1586	朝鮮通信使遺跡	2県以上
1587	鳥海山	2県以上
1588	霜根旧街道	2県以上
1589	琵琶湖疏水	2県以上
1590	彦根藩主井伊家墓所	2県以上

(2) 名勝一覽

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
1	ピリカノカ	北海道	41	吾妻峡	群馬県
2	旧岩船氏庭園(香雪園)	北海道	42	三波川(サクラ)	群馬県
3	天都山	北海道	43	吹割溪ならびに吹割瀑	群馬県
4	金平成園(澤成園)	青森県	44	妙義山	群馬県
5	種差海岸	青森県	45	郷國ヶ岡(ツツジ)	群馬県
6	瑞楽園	青森県	46	長瀬	埼玉県
7	清藤氏書院庭園	青森県	47	錯梨氏庭園	千葉県
8	盛美園	青森県	48	旧古河氏庭園	東京都
9	仏宇多(仏ヶ浦)	青森県	49	旧芝離宮庭園	東京都
10	イーハトーブの風景地	岩手県	50	旧朝倉文夫氏庭園	東京都
11	旧観自在王院庭園	岩手県	51	向島百花園	東京都
12	巖美溪	岩手県	52	小金井(サクラ)	東京都
13	基石海岸	岩手県	53	円覚寺庭園	神奈川県
14	高田松原	岩手県	54	建長寺庭園	神奈川県
15	珊瑚島	岩手県	55	三溪園	神奈川県
16	男神岩・女神岩・鳥越山	岩手県	56	山手公園	神奈川県
17	猊鼻溪	岩手県	57	瑞泉寺庭園	神奈川県
18	旧有備館および庭園	宮城県	58	旧新発田藩下屋敷庭園 等	新潟県
19	秋保大滝	宮城県	59	佐渡海府海岸	新潟県
20	磐司	宮城県	60	佐渡小木海岸	新潟県
21	齋藤氏庭園	宮城県	61	笹川流	新潟県
22	旧秋田藩主佐竹氏別邸(如斯亭)庭園	秋田県	62	清津峡	新潟県
23	池田氏庭園	秋田県	63	貞観園	新潟県
24	奈曾の白瀑谷	秋田県	64	田代の七ツ釜	新潟県
25	檜木内川堤(サクラ)	秋田県	65	渡辺氏庭園	新潟県
26	玉川寺庭園	山形県	66	称名滝	富山県
27	金峰山	山形県	67	時国氏庭園	石川県
28	山寺	山形県	68	上時国氏庭園	石川県
29	酒井氏庭園	山形県	69	成巽閣庭園	石川県
30	大沼の浮島	山形県	70	曾々木海岸	石川県
31	總光寺庭園	山形県	71	那谷寺庫裡庭園	石川県
32	会津松平氏庭園	福島県	72	白米の千枚田	石川県
33	須賀川の牡丹園	福島県	73	伊藤氏庭園	福井県
34	南湖公園	福島県	74	気比の松原	福井県
35	霊山	福島県	75	旧玄成院庭園	福井県
36	桜川(サクラ)	茨城県	76	三方五湖	福井県
37	常磐公園	茨城県	77	柴田氏庭園	福井県
38	華厳瀑および中宮祠湖(中禅寺湖)湖畔	栃木県	78	若狭蘇洞門	福井県
39	大谷の奇岩群	栃木県	79	城福寺庭園	福井県
40	楽山園	群馬県	80	西福寺書院庭園	福井県

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
81	滝谷寺庭園	福井県	121	旧秀隣寺庭園	滋賀県
82	東尋坊	福井県	122	旧彦根藩松原下屋敷庭園	滋賀県
83	梅田氏庭園	福井県	123	居初氏庭園	滋賀県
84	養浩館(旧御泉水屋敷)庭園	福井県	124	金剛輪寺明壽院庭園	滋賀県
85	萬徳寺庭園	福井県	125	慶雲館庭園	滋賀県
86	猿橋	山梨県	126	玄宮楽々園	滋賀県
87	恵林寺庭園	山梨県	127	胡宮神社社務所庭園	滋賀県
88	向嶽寺庭園	山梨県	128	光浄院庭園	滋賀県
89	光前寺庭園	長野県	129	浄信寺庭園	滋賀県
90	寝覚の床	長野県	130	西明寺本坊庭園	滋賀県
91	天龍峽	長野県	131	醒井峡谷	滋賀県
92	姨捨(田毎の月)	長野県	132	青岸寺庭園	滋賀県
93	永保寺庭園	岐阜県	133	善法院庭園	滋賀県
94	霞間ヶ溪(サクラ)	岐阜県	134	多賀神社奥書院庭園	滋賀県
95	鬼岩	岐阜県	135	大角氏庭園	滋賀県
96	東氏館跡庭園	岐阜県	136	大通寺舎山軒および蘭亭庭園	滋賀県
97	伊豆西南海岸	静岡県	137	竹生島	滋賀県
98	楽寿園	静岡県	138	福田寺庭園	滋賀県
99	三保松原	静岡県	139	兵主神社庭園	滋賀県
100	柴屋寺庭園	静岡県	140	円山公園	京都府
101	清見寺庭園	静岡県	141	円通寺庭園	京都府
102	日本平	静岡県	142	燕庵庭園	京都府
103	白糸ノ滝	静岡県	143	笠置山	京都府
104	竜潭寺庭園	静岡県	144	旧円徳院庭園	京都府
105	臨濟寺庭園	静岡県	145	玉鳳院庭園	京都府
106	阿寺の七滝	愛知県	146	琴引浜	京都府
107	乳岩および乳岩峽	愛知県	147	桂春院庭園	京都府
108	鳳来寺山	愛知県	148	孤蓬庵庭園	京都府
109	名古屋城二之丸庭園	愛知県	149	御室(サクラ)	京都府
110	木曾川堤(サクラ)	愛知県	150	高台寺庭園	京都府
111	旧諸戸氏庭園	三重県	151	今日庵(裏千家)庭園	京都府
112	熊野の鬼ヶ城 等	三重県	152	酬恩庵庭園	京都府
113	三多気のサクラ	三重県	153	涉成園	京都府
114	諸戸氏庭園	三重県	154	照福寺庭園	京都府
115	城之越遺跡	三重県	155	真珠庵庭園	京都府
116	赤目の峡谷	三重県	156	成就院庭園	京都府
117	二見浦	三重県	157	清風荘庭園	京都府
118	北畠氏館跡庭園	三重県	158	退蔵院庭園	京都府
119	円満院庭園	滋賀県	159	大仙院庭園	京都府
120	延暦寺坂本里坊庭園	滋賀県	160	大沢池 附 名古屋滝跡	京都府

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
161	智積院庭園	京都府	201	当麻寺中之坊庭園	奈良県
162	滴翠園	京都府	202	奈良公園	奈良県
163	東海庵書院庭園	京都府	203	飛鳥京跡苑池	奈良県
164	南禅院庭園	京都府	204	法華寺庭園	奈良県
165	南禅寺方丈庭園	京都府	205	橋杭岩	和歌山県
166	白沙村莊庭園	京都府	206	根来寺庭園	和歌山県
167	不審庵(表千家)庭園	京都府	207	天徳院庭園	和歌山県
168	平安神宮神苑	京都府	208	那智大滝	和歌山県
169	平等院庭園	京都府	209	粉河寺庭園	和歌山県
170	本法寺庭園	京都府	210	養翠園	和歌山県
171	妙心寺庭園	京都府	211	和歌山城西之丸庭園	和歌山県
172	無鄰庵庭園	京都府	212	浦富海岸	鳥取県
173	嵐山	京都府	213	観音院庭園	鳥取県
174	琉璃溪	京都府	214	三徳山	鳥取県
175	龍安寺庭園	京都府	215	小鹿溪	鳥取県
176	霊雲院庭園	京都府	216	深田氏庭園	鳥取県
177	霊洞院庭園	京都府	217	尾崎氏庭園	鳥取県
178	雙ヶ岡	京都府	218	医光寺庭園	鳥根県
179	曼殊院書院庭園	京都府	219	隠岐海苔田ノ鼻	鳥根県
180	對龍山莊庭園	京都府	220	隠岐国賀海岸	鳥根県
181	聚光院庭園	京都府	221	隠岐知夫赤壁	鳥根県
182	南宗寺庭園	大阪府	222	隠岐白島海岸	鳥根県
183	普門寺庭園	大阪府	223	隠岐布施海岸	鳥根県
184	箕面山	大阪府	224	鬼舌振	鳥根県
185	龍泉寺庭園	大阪府	225	旧堀氏庭園	鳥根県
186	安養院庭園	兵庫県	226	菅田庵	鳥根県
187	旧赤穂城庭園 等	兵庫県	227	千丈溪	鳥根県
188	旧大岡寺庭園	兵庫県	228	潜戸	鳥根県
189	慶野松原	兵庫県	229	断魚溪	鳥根県
190	香住海岸	兵庫県	230	美保の北浦	鳥根県
191	神戸外国人墓地 等	兵庫県	231	万福寺庭園	鳥根県
192	但馬御火浦	兵庫県	232	立久恵	鳥根県
193	田淵氏庭園	兵庫県	233	奥津溪	岡山県
194	依水園	奈良県	234	応神山	岡山県
195	円成寺庭園	奈良県	235	下津井鷲羽山	岡山県
196	吉野山	奈良県	236	鬼ヶ嶽	岡山県
197	旧大乘院庭園	奈良県	237	旧津山藩別邸庭園(衆楽園)	岡山県
198	月瀬梅林	奈良県	238	高島	岡山県
199	慈光院庭園	奈良県	239	豪溪	岡山県
200	大和三山	奈良県	240	神庭瀑	岡山県

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
241	白石島	岡山県	281	入野松原	高知県
242	磐窟谷	岡山県	282	旧亀石坊庭園	福岡県
243	頼久寺庭園	岡山県	283	戸島氏庭園	福岡県
244	吉川元春館跡庭園	広島県	284	松濤園	福岡県
245	旧万徳院庭園	広島県	285	清水寺本坊庭園	福岡県
246	縮景園	広島県	286	藤江氏魚楽園	福岡県
247	浄土寺庭園	広島県	287	九年庵庭園	佐賀県
248	帝釈川の谷(帝釈峡)	広島県	288	旧円融寺庭園	長崎県
249	平和記念公園	広島県	289	旧金石城庭園	長崎県
250	鞆公園	広島県	290	石田城五島氏庭園	長崎県
251	錦帯橋	山口県	291	旧熊本藩八代城主浜御茶屋庭園	熊本県
252	狗留孫山	山口県	292	水前寺成趣園	熊本県
253	宗隣寺庭園	山口県	293	千巖山および高舞登山	熊本県
254	常栄寺庭園	山口県	294	不知火及び水島	熊本県
255	常德寺庭園	山口県	295	妙見浦	熊本県
256	須佐湾	山口県	296	竜ヶ岳	熊本県
257	青海島	山口県	297	竜仙島(片島)	熊本県
258	石柱溪	山口県	298	六郎次山	熊本県
259	長門峡	山口県	299	別府の地獄	大分県
260	俵島	山口県	300	耶馬溪	大分県
261	毛利氏庭園	山口県	301	五箇瀬川峡谷(高千穂峡谷)	宮崎県
262	龍宮の潮吹	山口県	302	比叡山および矢筈岳	宮崎県
263	阿波国分寺庭園	徳島県	303	尾鈴山瀑布群	宮崎県
264	旧徳島城表御殿庭園	徳島県	304	妙国寺庭園	宮崎県
265	鳴門	徳島県	305	旧島津氏玉里邸庭園	鹿児島県
266	琴弾公園	香川県	306	志布志麓庭園	鹿児島県
267	象頭山	香川県	307	仙巖園 附 花倉御飯屋庭園	鹿児島県
268	神懸山(寒霞溪)	香川県	308	知覧麓庭園	鹿児島県
269	岩屋	愛媛県	309	坊津	鹿児島県
270	古岩屋	愛媛県	310	伊江御殿別邸庭園	沖縄県
271	志島ヶ原	愛媛県	311	伊江殿内庭園	沖縄県
272	千疋のサクラ	愛媛県	312	下地島の通り池	沖縄県
273	大三島	愛媛県	313	宮良殿内庭園	沖縄県
274	天赦園	愛媛県	314	首里城書院・鎖之間庭園	沖縄県
275	波止浜	愛媛県	315	石垣氏庭園	沖縄県
276	八幡山	愛媛県	316	川平湾及び於茂登岳	沖縄県
277	保国寺庭園	愛媛県	317	東平安名崎	沖縄県
278	西河溪	愛媛県	318	三波石峡	2県以上
279	室戸岬	高知県	319	木曾川	2県以上
280	竹林寺庭園	高知県			

(3) 天然記念物一覧

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
1	エゾミカサリュウ化石	北海道	51	勝源院の逆ガシワ	岩手県
2	オオミズナギドリ繁殖地	北海道	52	盛岡石割ザクラ	岩手県
3	オンネトー湯の滝マンガン酸化物生成地	北海道	53	早池峰山のアカエゾマツ自生南限地	岩手県
4	ヒノキアスナロおよびアオトドマツ自生地	北海道	54	大槌沼モリアオガエルおよびその繁殖地	岩手県
5	円山原始林	北海道	55	長泉寺の大イチョウ	岩手県
6	歌オブナ自生北限地帯	北海道	56	棒島ウミネコ繁殖地	岩手県
7	釧路湿原	北海道	57	藤島のフジ	岩手県
8	後方羊蹄山の高山植物帯	北海道	58	日出島クロコシジロウミツバメ繁殖地	岩手県
9	根室車石	北海道	59	樋口沢ゴトランド紀化石産地	岩手県
10	沙流川源流原始林	北海道	60	龍谷寺のモリオカシダレ	岩手県
11	春採湖ヒブナ生息地	北海道	61	浪打峠の交叉層	岩手県
12	女満別湿生植物群落	北海道	62	ヨコグラノキ北限地帯	宮城県
13	松前小島	北海道	63	伊豆沼・内沼の鳥類およびその生息地	宮城県
14	焼尻の自然林	北海道	64	雨乞のイチョウ	宮城県
15	蘆岩原始林	北海道	65	横山のウグイス生息地	宮城県
16	大黒島海鳥繁殖地	北海道	66	歌津館崎の魚竜化石産地及び魚竜化石	宮城県
17	天売島海鳥繁殖地	北海道	67	花山のアズマシャクナゲ自生北限地帯	宮城県
18	登別原始林	北海道	68	球状閃緑岩	宮城県
19	樺津湿原	北海道	69	魚取沼テツギヨ生息地	宮城県
20	幌満ゴヨウマツ自生地	北海道	70	苦竹のイチョウ	宮城県
21	霧多布泥炭形成植物群落	北海道	71	姉滝	宮城県
22	名寄高師小僧	北海道	72	小原のコツブガヤ	宮城県
23	名寄鈴石	北海道	73	小原のヒダリマキガヤ	宮城県
24	夕張岳の高山植物群落および蛇紋岩メランジュ帯	北海道	74	小原の材木岩	宮城県
25	落石岬のサイイツツジ自生地	北海道	75	称名寺のシイノキ	宮城県
26	和琴ミンミンゼミ発生地	北海道	76	青葉山	宮城県
27	鶺鴒川ゴヨウマツ自生北限地帯	北海道	77	滝前不動のフジ	宮城県
28	下北半島のサルおよびサル生息北限地	青森県	78	沢辺ゲンジボタル発生地	宮城県
29	蕪島ウミネコ繁殖地	青森県	79	朝鮮ウメ	宮城県
30	仏宇多(仏ヶ浦)	青森県	80	棒島環地性植物群落	宮城県
31	法量のイチョウ	青森県	81	東昌寺のマルミガヤ	宮城県
32	縄道石山・縄道石の特殊植物群落	青森県	82	東和町ゲンジボタル生息地	宮城県
33	北金ヶ沢のイチョウ	青森県	83	八景島環地性植物群落	宮城県
34	カズグリ自生地	岩手県	84	陸前江ノ島のウミネコおよびウトウ繁殖地	宮城県
35	シダレカツラ	岩手県	85	砥柱寺のコウヤマキ	宮城県
36	安家洞	岩手県	86	壁窟神社の壁窟ザクラ	宮城県
37	花輪堤ハナショウブ群落	岩手県	87	ジ状珪石および噴泉塔	秋田県
38	華蔵寺の宝珠マツ	岩手県	88	ザリガニ生息地	秋田県
39	葛根田の大岩屋	岩手県	89	角館のシダレザクラ	秋田県
40	館ヶ崎角岩岩脈	岩手県	90	芝谷地湿原植物群落	秋田県
41	岩手山高山植物帯	岩手県	91	秋田駒ヶ岳高山植物帯	秋田県
42	岩泉湧窟及びコウモリ	岩手県	92	象潟	秋田県
43	数美溪	岩手県	93	千屋断層	秋田県
44	暮石海岸	岩手県	94	男鹿目黒火山群一ノ目湯	秋田県
45	崎山の潮吹穴	岩手県	95	筑紫森岩脈	秋田県
46	崎山の氣燻岩	岩手県	96	長走風穴高山植物群落	秋田県
47	三貫島オオミズナギドリ及びヒメクロウミツバメ繁殖地	岩手県	97	鳥海山獅子ヶ鼻湿原植物群落 等	秋田県
48	姉帯小島谷根反の珪化木地帯	岩手県	98	桃洞・佐渡のスギ原生林	秋田県
49	実相寺のイチョウ	岩手県	99	伊佐沢の久保ザクラ	山形県
50	蛇ヶ崎	岩手県	100	羽黒山の爺スギ	山形県

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
101	熊野神社の大スギ	山形県	151	三波川(サクラ)	群馬県
102	月山	山形県	152	上野村亀甲石産地	群馬県
103	三瀧気比神社社叢	山形県	153	上野積原のシオジ林	群馬県
104	山五十川のユスギ	山形県	154	榛名神社の矢立スギ	群馬県
105	早田のオハツキイチョウ	山形県	155	吹割溪ならびに吹割瀨	群馬県
106	草岡の大明神ザクラ	山形県	156	生犬穴	群馬県
107	南谷のカシミザクラ	山形県	157	川原湯岩脈(臥龍岩および昇龍岩)	群馬県
108	飛鳥ウミネコ繁殖地	山形県	158	草津白根のアズマシャクナゲ等	群馬県
109	文下のケヤキ	山形県	159	湯の丸レンゲツツジ群落	群馬県
110	駒止温泉	福島県	160	薄根の大クワ	群馬県
111	見瀧の大石	福島県	161	敷島のキンメイチク	群馬県
112	賢沼ウナギ生息地	福島県	162	吉見百穴ヒカリゴケ発生地	埼玉県
113	吾妻山ヤエハクサンシャクナゲ自生地	福島県	163	石戸蒲ザクラ	埼玉県
114	高瀬の大木(ケヤキ)	福島県	164	長瀬	埼玉県
115	三春滝ザクラ	福島県	165	武甲山石灰岩地特殊植物群落	埼玉県
116	鹿島神社のベグマタイト岩脈	福島県	166	平林寺境内林	埼玉県
117	照島ウ生息地	福島県	167	宝蔵寺沼ムジナモ自生地	埼玉県
118	諏訪神社の翁スギ楡スギ	福島県	168	与野の大カヤ	埼玉県
119	杉沢の大スギ	福島県	169	笠森寺自然林	千葉県
120	赤井谷地沼野植物群落	福島県	170	犬伏崎の白亜紀浅海堆積物	千葉県
121	赤津のカツラ	福島県	171	高岩山のサル生息地	千葉県
122	沢尻の大ヒノキ(サワラ)	福島県	172	神崎の大クス	千葉県
123	中蓋戸のシダレモミジ	福島県	173	成東・東金食虫植物群落	千葉県
124	中山風穴地特殊植物群落	福島県	174	清澄の大スギ	千葉県
125	猪苗代湖のハクチョウおよびその渡来地	福島県	175	千本イチョウ	千葉県
126	猪苗代湖ミズスギゴケ群落	福島県	176	太東海浜植物群落	千葉県
127	塔のヘツリ	福島県	177	竹岡のヒカリモ発生地	千葉県
128	入水鍾乳洞	福島県	178	鶴枝ヒメハルゼミ発生地	千葉県
129	馬場ザクラ	福島県	179	府馬の大クス	千葉県
130	平伏沼モリアオガエル繁殖地	福島県	180	木下貝層	千葉県
131	木幡の大スギ	福島県	181	シノキ山のシノキ群叢	東京都
132	柳津ウグイ生息地	福島県	182	旧白金御料地	東京都
133	雄国沼湿原植物群落	福島県	183	御店の神代ケヤキ	東京都
134	いぶき山イブキ樹叢	茨城県	184	幸神神社のシダレアカシデ	東京都
135	安良川の翁スギ	茨城県	185	江戸城跡のヒカリゴケ生育地	東京都
136	桜川のサクラ	茨城県	186	三宝寺池沼沢植物群落	東京都
137	大戸のサクラ	茨城県	187	小笠原南島の沈水カルスト地形	東京都
138	白旗山八幡宮のオハツキイチョウ	茨城県	188	善福寺のイチョウ	東京都
139	片庭ヒメハルゼミ発生地	茨城県	189	大島海浜植物群落	東京都
140	逆スギ	栃木県	190	鳥島	東京都
141	金剛ザクラ	栃木県	191	南硫黄島	東京都
142	尚仁沢上流部イヌブナ自然林	栃木県	192	馬場大門のケヤキ並木	東京都
143	湯沢噴泉塔	栃木県	193	練馬白山神社の大ケヤキ	東京都
144	名草の巨石群	栃木県	194	山神の樹叢	神奈川県
145	安中原市のスギ並木	群馬県	195	諸磯の隆起海岸	神奈川県
146	永明寺のキンモクセイ	群馬県	196	城瀬寺のビャクシン	神奈川県
147	横室の大カヤ	群馬県	197	早川のピランジュ	神奈川県
148	華蔵寺のキンモクセイ	群馬県	198	箱根仙石原湿原植物群落	神奈川県
149	岩神の飛石	群馬県	199	霧スギ	神奈川県
150	原町の大ケヤキ	群馬県	200	粟島のオオミズナギドリおよびウミウ繁殖地	新潟県

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
201	羽吉の大クワ	新潟県	251	アラレガコ生息地	福井県
202	鱒川神社の大ケヤキ	新潟県	252	常神のソテツ	福井県
203	笠懸のカモシカ生息地	新潟県	253	杉森神社のおハツキイチョウ	福井県
204	宮川神社社叢	新潟県	254	専福寺の大ケヤキ	福井県
205	極楽寺の野中ザクラ	新潟県	255	蒼島環地性植物群落	福井県
206	月潟の類産ナシ	新潟県	256	東尋坊	福井県
207	佐渡小木海岸	新潟県	257	本願清水イトヨ生息地	福井県
208	笹川流	新潟県	258	萬徳寺のヤマモミジ	福井県
209	将軍スギ	新潟県	259	燕岩岩脈	山梨県
210	小山田ヒガンザクラ樹林	新潟県	260	雁ノ穴	山梨県
211	小滝川稜玉産地	新潟県	261	吉田治内樹型	山梨県
212	小木の御所ザクラ	新潟県	262	古長禪寺のビャクシン	山梨県
213	水原のハクチョウ渡来地	新潟県	263	根古屋神社の大ケヤキ	山梨県
214	清津峡	新潟県	264	三恵の大ケヤキ	山梨県
215	青海川の稜玉産地及び稜玉岩塊	新潟県	265	山ノ神のフジ	山梨県
216	虫川の大スギ	新潟県	266	山高神代ザクラ	山梨県
217	鳥屋野逆ダケの藪	新潟県	267	山中のハリモミ純林	山梨県
218	天神社の大スギ	新潟県	268	上沢寺のおハツキイチョウ	山梨県
219	田上村ツナギガヤ自生地	新潟県	269	上野原の大ケヤキ	山梨県
220	田代のセツ蓋	新潟県	270	新倉の糸魚川-静岡構造線	山梨県
221	椋平サクラ樹林	新潟県	271	神座風穴 附 蒲鉾穴および眼鏡穴	山梨県
222	能生ヒメハルゼミ発生地	新潟県	272	身延町ブッポウソウ繁殖地	山梨県
223	能生白山神社社叢	新潟県	273	精進の大スギ	山梨県
224	梅護寺の珠数掛ザクラ	新潟県	274	西湖編纂穴およびコウモリ	山梨県
225	平坂崎の波蝕陥穴群	新潟県	275	船津治内樹型	山梨県
226	了玄庵のツナギガヤ	新潟県	276	大室洞穴	山梨県
227	笹笠八幡宮社叢	新潟県	277	忍野八海	山梨県
228	宮崎鹿島樹叢	富山県	278	八木沢のおハツキイチョウ	山梨県
229	十二町潟オニバス発生地	富山県	279	美森の大ヤマツツジ	山梨県
230	称名滝	富山県	280	富岳風穴	山梨県
231	上日寺のイチョウ	富山県	281	富士山原始林及び青木ヶ原樹海	山梨県
232	真川の跡津川断層	富山県	282	富士風穴	山梨県
233	杉沢の沢スギ	富山県	283	本國寺のおハツキイチョウ	山梨県
234	猪谷の背斜向斜	富山県	284	本栖風穴	山梨県
235	飯久保の飄筆石	富山県	285	鳴沢氷穴	山梨県
236	立山の山崎懸谷	富山県	286	龍宮洞穴	山梨県
237	脇谷のトチノキ	富山県	287	濃湖原レンゲツツジおよびフジザクラ群落	山梨県
238	栢野の大スギ	石川県	288	テングノムギメシ産地	長野県
239	気多神社社叢	石川県	289	横川の蛇石	長野県
240	御仏供スギ	石川県	290	岩村田ヒカリゴケ産地	長野県
241	山科の大桑層化石産地と陥穴	石川県	291	月瀬の大スギ	長野県
242	鹿島の森	石川県	292	高瀬溪谷の噴湯丘と球状石灰石	長野県
243	篠原のキンメイチク	石川県	293	黒岩山	長野県
244	手取川流域の珪化木産地	石川県	294	三岳のブッポウソウ繁殖地	長野県
245	松月寺のサクラ	石川県	295	四阿山の的岩	長野県
246	須須神社社叢	石川県	296	志賀高原石の湯のゲンジボタル生息地	長野県
247	曾々木海岸	石川県	297	十三崖のチョウゲンボウ繁殖地	長野県
248	太田の大トチノキ	石川県	298	浪の地獄谷噴泉	長野県
249	堂形のシイノキ	石川県	299	小黒川のミズナラ	長野県
250	八幡神社の大スギ	石川県	300	小野のシダレグリ自生地	長野県

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
301	新野のハナノキ自生地	長野県	351	御前崎のウミガメ及びその産卵地	静岡県
302	西内のシダレグリ自生地	長野県	352	三島神社のキンモクセイ	静岡県
303	素戔神社の神代ザクラ	長野県	353	手石の弥陀ノ岩屋	静岡県
304	中房温泉の膠状珪酸および珪華	長野県	354	新町の大ソテツ	静岡県
305	東内のシダレエノキ	長野県	355	杉梓別命神社の大クス	静岡県
306	ハヶ岳キバナシャクナゲ自生地	長野県	356	大瀬崎のビャクシン樹林	静岡県
307	霧ヶ峰温泉植物群落	長野県	357	丹那断層	静岡県
308	オオサンショウウオ生息地	岐阜県	358	地震動の擦痕	静岡県
309	オオサンショウウオ生息地	岐阜県	359	智満寺の十本スギ	静岡県
310	一位森八幡神社社叢	岐阜県	360	堂ヶ島天窓洞	静岡県
311	一之瀬のホンシャクナゲ群落	岐阜県	361	能満寺のソテツ	静岡県
312	越原ハナノキ自生地	岐阜県	362	白羽の風蝕産地	静岡県
313	加子母のスギ	岐阜県	363	白糸ノ滝	静岡県
314	霞間ヶ深(サクラ)	岐阜県	364	八幡神社のイスノキ	静岡県
315	臥龍のサクラ	岐阜県	365	八幡野八幡宮・米宮神社社叢	静岡県
316	釜戸ハナノキ自生地	岐阜県	366	北浜の大カヤノキ	静岡県
317	粥川ウナギ生息地	岐阜県	367	万野風穴	静岡県
318	鬼岩	岐阜県	368	龍華寺のソテツ	静岡県
319	久々利のサクライソウ自生地	岐阜県	369	蓮着寺のヤマモモ	静岡県
320	久津八幡神社の夫婦スギ	岐阜県	370	阿寺の七滝	愛知県
321	根尾谷淡墨ザクラ	岐阜県	371	羽豆神社の社叢	愛知県
322	坂本のハナノキ自生地	岐阜県	372	輪の山ウ繁殖地	愛知県
323	鼻岩	岐阜県	373	猿投山の球状花崗岩	愛知県
324	治郎兵衛のイチイ	岐阜県	374	黄柳野ツゲ自生地	愛知県
325	洲原神社ブッポウソウ繁殖地	岐阜県	375	岡崎ゲンジボタル発生地	愛知県
326	神ノ御杖スギ	岐阜県	376	靴のシデコブシ自生地	愛知県
327	神源神社の大スギ	岐阜県	377	甘泉寺のコウヤマキ	愛知県
328	垂洞のシダレモミ	岐阜県	378	宮山原始林	愛知県
329	千光寺の五本スギ	岐阜県	379	牛久保のナギ	愛知県
330	禪昌寺の大スギ	岐阜県	380	御油のマツ並木	愛知県
331	大山の大スギ	岐阜県	381	小堤西池のカキツバタ群落	愛知県
332	竹原のシダレグリ自生地	岐阜県	382	神明社の大シイ	愛知県
333	中得姫誓願ザクラ	岐阜県	383	杉本の貞観スギ	愛知県
334	白山神社のハナノキおよびヒツバタゴ	岐阜県	384	清田の大クス	愛知県
335	飛水峽の蝨穴群	岐阜県	385	石巻山石灰岩地植物群落	愛知県
336	飛騨国分寺の大イチョウ	岐阜県	386	川宇連ハナノキ自生地	愛知県
337	美濃の壺石	岐阜県	387	大嶋ナメクジウオ生息地	愛知県
338	富田ハナノキ自生地	岐阜県	388	乳岩および乳岩峽	愛知県
339	榎谷のヤマモミジ樹林	岐阜県	389	馬背岩	愛知県
340	福地の化石産地	岐阜県	390	八百富神社社叢	愛知県
341	掛斐二度ザクラ	岐阜県	391	鳳来寺山	愛知県
342	ナチシダ自生北限地	静岡県	392	名古屋城のカヤ	愛知県
343	阿豆佐和氣神社の大クス	静岡県	393	木曾川堤(サクラ)	愛知県
344	伊古奈比め命神社のアオギリ自生地	静岡県	394	果号寺のシブナシガヤ	三重県
345	印野の燧岩露道	静岡県	395	鬼ヶ城環地性シダ群落	三重県
346	楽寿園	静岡県	396	金生水沼沢植物群落	三重県
347	葛見神社の大クス	静岡県	397	九木神社樹叢	三重県
348	京丸のアカヤシオおよびシロヤシオ群生地	静岡県	398	熊野の鬼ヶ城	三重県
349	駒門風穴	静岡県	399	月出の中央構造線	三重県
350	熊野の長フジ	静岡県	400	庫蔵寺のコツブガヤ	三重県

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
401	御池沼沢植物群落	三重県	451	日置のハダカガヤ	兵庫県
402	高倉神社のシブナシガヤ	三重県	452	畑上の大トチノキ	兵庫県
403	斎宮のハナショウブ群落	三重県	453	八代の大ケヤキ	兵庫県
404	細谷暖地性シダ群落	三重県	454	野島断層	兵庫県
405	西阿倉川アイナシ自生地	三重県	455	龍野のカタシボ竹林	兵庫県
406	大杉谷	三重県	456	葛崎ノ屏風岩	兵庫県
407	大島暖地性植物群落	三重県	457	オオヤマレンゲ自生地	奈良県
408	田光のシデコブシ及び湿地植物群落	三重県	458	カザグルマ自生地	奈良県
409	東阿倉川イヌナシ自生地	三重県	459	シシラン群落	奈良県
410	白子不断ザクラ	三重県	460	ルーミスジミ生息地	奈良県
411	不動院ムカデラン群落	三重県	461	向源スズラン群落	奈良県
412	塚本の大ムク	三重県	462	三ノ公川トガサワラ原始林	奈良県
413	伊吹山頂草原植物群落	滋賀県	463	空生山暖地性シダ群落	奈良県
414	鎌掛の屏風岩	滋賀県	464	春日神社境内ナギ樹林	奈良県
415	鎌掛谷ホンシャクナゲ群落	滋賀県	465	丹生川上中社のツルマンリョウ自生地	奈良県
416	熊野のヒダリマキガヤ	滋賀県	466	知足院ナラノヤエザクラ	奈良県
417	石山寺礎灰石	滋賀県	467	吐山スズラン群落	奈良県
418	息長ゲンジボタル発生地	滋賀県	468	二見の大ムク	奈良県
419	南花沢のハナノキ	滋賀県	469	八ツ房スギ	奈良県
420	平松のウツクシマツ自生地	滋賀県	470	仏経樹原始林	奈良県
421	別所高師小僧	滋賀県	471	妹山樹叢	奈良県
422	北花沢のハナノキ	滋賀県	472	与喜山暖帯林	奈良県
423	綿向山麓の接触変質地帯	滋賀県	473	屏風岩、兜岩および鐘岩	奈良県
424	了徳寺のオハツキイチョウ	滋賀県	474	オオウナギ生息地	和歌山県
425	オオミズナグドリ繁殖地	京都府	475	ユノミネシダ自生地	和歌山県
426	郷村断層	京都府	476	稲積島暖地性植物群落	和歌山県
427	琴引浜	京都府	477	橋杭岩	和歌山県
428	常照寺の九重ザクラ	京都府	478	熊野速玉神社のナギ	和歌山県
429	深泥池生物群集	京都府	479	栗栖川亀甲石包含層	和歌山県
430	清滝川のゲンジボタルおよびその生息地	京都府	480	古座川の一枚岩	和歌山県
431	大田ノ沢のカキツバタ群落	京都府	481	江須崎暖地性植物群落	和歌山県
432	東山洪積世植物遺体包含層	京都府	482	高池の虫喰岩	和歌山県
433	稗田野の蘆青石仮晶	京都府	483	新宮蘭沢浮島植物群落	和歌山県
434	遊龍松	京都府	484	神島	和歌山県
435	薫蓋クス	大阪府	485	鳥巢半島の泥岩岩脈	和歌山県
436	箕面山のサル生息地	大阪府	486	那智原始林	和歌山県
437	妙国寺のソテツ	大阪府	487	白浜の化石遺痕	和歌山県
438	野間の大ケヤキ	大阪府	488	白浜の泥岩岩脈	和歌山県
439	和泉葛城山ブナ林	大阪府	489	門前の大岩	和歌山県
440	鐘袖	兵庫県	490	キマダラルリツバメチョウ生息地	鳥取県
441	建屋のヒダリマキガヤ	兵庫県	491	浦富海岸	鳥取県
442	玄武洞	兵庫県	492	松上神社のサカキ樹林	鳥取県
443	口大屋の大アベマキ	兵庫県	493	船通山のイチイ	鳥取県
444	糸井の大カツラ	兵庫県	494	倉田八幡宮社叢	鳥取県
445	神戸丸山衝上断層	兵庫県	495	大野見宿禰命神社社叢	鳥取県
446	生島樹林	兵庫県	496	鳥取砂丘	鳥取県
447	但馬御火浦	兵庫県	497	唐川のカキツバタ群落	鳥取県
448	樽見の大ザクラ	兵庫県	498	波波伎神社社叢	鳥取県
449	淡路国道マツ並木	兵庫県	499	伯耆の大シイ	鳥取県
450	追手神社のモミ	兵庫県	500	白兎神社樹叢	鳥取県

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
501	クロキツタ産地	島根県	551	比婆山のブナ純林	広島県
502	隠岐海苔田ノ鼻	島根県	552	雄橋	広島県
503	隠岐国賀海岸	島根県	553	瀨山原始林	広島県
504	隠岐知夫赤壁	島根県	554	安下庄のシナナシ	山口県
505	隠岐白島海岸	島根県	555	恩徳寺の結びイブキ	山口県
506	沖島オオミズナギドリ繁殖地	島根県	556	峨嵋山樹林	山口県
507	海潮のカツラ	島根県	557	笠山コウライタチバナ自生地	山口県
508	岩屋寺の切間	島根県	558	千珠樹林	山口県
509	鬼舌坂	島根県	559	岩屋観音窟	山口県
510	玉若許命神社の八百スギ	島根県	560	吉郎の大岩郷	山口県
511	経島ウミネコ繁殖地	島根県	561	景清穴	山口県
512	高尾環地性潤葉樹林	島根県	562	見島ウシ産地	山口県
513	三隅大平ザクラ	島根県	563	見島のカメ生息地	山口県
514	三瓶山自然林	島根県	564	向島タヌキ生息地	山口県
515	三瓶小豆原埋没林	島根県	565	山口ゲンジボタル発生地	山口県
516	松代鉾山の叢石産地	島根県	566	指月山	山口県
517	星神島オオミズナギドリ繁殖地	島根県	567	出雲神社ツルマンリョウ自生地	山口県
518	石見置ヶ浦	島根県	568	小串エヒメアヤマメ自生南限地帯	山口県
519	瀬戸	島根県	569	小郡町ナギ自生北限地帯	山口県
520	多古のセツ穴	島根県	570	須佐高山の磁石石	山口県
521	大根島第二燧岩露道	島根県	571	須佐湾	山口県
522	築島の岩脈	島根県	572	青海島	山口県
523	竹崎のカツラ	島根県	573	石柱溪	山口県
524	唐音の蛇岩	島根県	574	川上のユズおよびナンテン自生地	山口県
525	日御碕の大ソテツ	島根県	575	川瀬のクスの森	山口県
526	波根西の珪化木	島根県	576	大玉スギ	山口県
527	立久恵	島根県	577	大正洞	山口県
528	オオサンショウウオ生息地	岡山県	578	大日比ナツミカン原樹	山口県
529	カブトガニ繁殖地	岡山県	579	大吼谷蟻塚洞	山口県
530	トラフダケ自生地	岡山県	580	中尾洞	山口県
531	臥牛山のサル生息地	岡山県	581	南桑カジカガエル生息地	山口県
532	鯉ヶ窪湿生植物群落	岡山県	582	俵島	山口県
533	象岩	岡山県	583	平川の大スギ	山口県
534	草間の間歇冷泉	岡山県	584	壁島ウミ産地	山口県
535	大賀の押被	岡山県	585	法泉寺のシンバク	山口県
536	湯原カジカガエル生息地	岡山県	586	万倉の大岩郷	山口県
537	白石島の鐘岩	岡山県	587	満珠樹林	山口県
538	菩提寺のイチョウ	岡山県	588	明神池	山口県
539	本谷のトラフダケ自生地	岡山県	589	木屋川・音信川ゲンジボタル発生地	山口県
540	羅生門	岡山県	590	余田臥龍梅	山口県
541	アビ渡来群遊海面	広島県	591	龍宮の潮吹	山口県
542	スナメリクジラ遊海面	広島県	592	龍蔵寺のイチョウ	山口県
543	ナメクジウオ生息地	広島県	593	六連島の雲母玄武岩	山口県
544	押ヶ坪断層帯	広島県	594	阿波の土柱	徳島県
545	久井・矢野の岩海	広島県	595	尖喰浦の化石遺痕	徳島県
546	熊野の大トチ	広島県	596	出羽島大池のシラタマモ自生地	徳島県
547	沼田西のエヒメアヤマメ自生南限地帯	広島県	597	赤羽根大師のエノキ	徳島県
548	船佐・山内逆断層帯	広島県	598	船窪のオンツツジ群落	徳島県
549	大朝のテングシデ群落	広島県	599	大浜海岸のウミガメおよびその産卵地	徳島県
550	忠海八幡神社社叢	広島県	600	沢谷のタヌキノショクダイ発生地	徳島県

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
601	津島暖地性植物群落	徳島県	651	千仏鍾乳洞	福岡県
602	乳保神社のイチョウ	徳島県	652	船小屋ゲンジボタル発生地	福岡県
603	美郷のホタルおよびその発生地	徳島県	653	太宰府神社のクス	福岡県
604	弁天島熱帯性植物群落	徳島県	654	太宰府神社のヒロハチシャノキ	福岡県
605	母川オオウナギ生息地	徳島県	655	長垂の含紅雲母ベグマタイト岩脈	福岡県
606	野神の大センダン	徳島県	656	鎮西村のカツラ	福岡県
607	鈴が峯のヤッコソウ発生地	徳島県	657	湯蓋の森(クス)衣掛の森(クス)	福岡県
608	円上島の球状ノーライト	香川県	658	平尾台	福岡県
609	屋島	香川県	659	本住のクス	福岡県
610	琴平町の大センダン	香川県	660	名島の礫石	福岡県
611	網島および丸亀島	香川県	661	夜宮の大珪化木	福岡県
612	皇子神社社叢	香川県	662	屋形石のセツ蓋	佐賀県
613	鹿浦越のランプロファイヤ岩脈	香川県	663	下合瀬の大カツラ	佐賀県
614	象頭山	香川県	664	靖野の大チャノキ	佐賀県
615	菅生神社社叢	香川県	665	広沢寺のソテツ	佐賀県
616	誓願寺のソテツ	香川県	666	高串アコウ自生北限地帯	佐賀県
617	天川神社社叢	香川県	667	黒髪山カネコシダ自生地	佐賀県
618	オキチモズク発生地	愛媛県	668	千石山サザンカ自生北限地帯	佐賀県
619	往至森寺のキンモクセイ	愛媛県	669	川古のクス	佐賀県
620	下柏の大柏(イブキ)	愛媛県	670	八藤丘陵の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没材	佐賀県
621	三崎のアコウ	愛媛県	671	有田のイチョウ	佐賀県
622	新居浜一宮神社のクスノキ群	愛媛県	672	オオウナギ生息地	長崎県
623	大山祇神社のクスノキ群	愛媛県	673	キイレツチトリモチ自生北限地	長崎県
624	砥部街上断層	愛媛県	674	阿値賀島	長崎県
625	八幡神社のイブキ	愛媛県	675	岩戸山樹叢	長崎県
626	八幡浜市大島のシュードタキライト及び変形	愛媛県	676	原生沼沼野植物群落	長崎県
627	北吉井のビャクシン	愛媛県	677	御岳鳥類繁殖地	長崎県
628	伊尾木洞のシダ群落	高知県	678	御橋観音シダ植物群落	長崎県
629	甲原松尾山のタチバナ群落	高知県	679	黒子島原始林	長崎県
630	室戸岬亜熱帯性樹林及海岸植物群落	高知県	680	七釜鍾乳洞	長崎県
631	松尾のアコウ自生地	高知県	681	洲原白岳原始林	長崎県
632	仁井田のヒロハチシャノキ	高知県	682	女夫木の大スギ	長崎県
633	千尋岬の化石遺痕	高知県	683	小長井のオガタマノキ	長崎県
634	大引割・小引割	高知県	684	多良岳ツクシヤクナゲ群叢	長崎県
635	大谷のクス	高知県	685	大村のイチイガシ天然林	長崎県
636	天神の大スギ	高知県	686	大村神社のオオムラザクラ	長崎県
637	唐船島の隆起海岸	高知県	687	辰の島海浜植物群落	長崎県
638	八束のクサマルハチ自生地	高知県	688	男女群島	長崎県
639	平石の乳イチョウ	高知県	689	地獄地帯シロドウダン群落	長崎県
640	龍河洞	高知県	690	池の原ミヤマキリシマ群落	長崎県
641	隠家森	福岡県	691	土黒川のおキチモズク発生地	長崎県
642	英彦山の鬼スギ	福岡県	692	奈留島権現山樹叢	長崎県
643	沖の島原始林	福岡県	693	奈良尾のアコウ	長崎県
644	芥屋の大門	福岡県	694	茨島玉石甌穴	長崎県
645	久喜宮のキンメイチク	福岡県	695	普賢岳紅葉樹林	長崎県
646	高良山のモウソウキンメイチク林	福岡県	696	平戸巖岩の岩石地植物群落	長崎県
647	黒木のフジ	福岡県	697	平成新山	長崎県
648	新舟小屋のクスノキ林	福岡県	698	野岳イヌツゲ群落	長崎県
649	水縄断層	福岡県	699	龍良山原始林	長崎県
650	青龍窟	福岡県	700	鶴浦ヒトツバタゴ自生地	長崎県

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
701	諫早市城山暖地性樹叢	長崎県	751	祝子川モウソウキンメイ竹林	宮崎県
702	スイゼンジノリ発生地	熊本県	752	上穂北のクス	宮崎県
703	阿蘇北向谷原始林	熊本県	753	清武の大クス	宮崎県
704	阿弥陀スギ	熊本県	754	青島の隆起海床と奇形波蝕痕	宮崎県
705	下の城のイチョウ	熊本県	755	石波の海岸樹林	宮崎県
706	下田のイチョウ	熊本県	756	川南湿原植物群落	宮崎県
707	菊池川のチスジノリ発生地	熊本県	757	双石山	宮崎県
708	金比羅スギ	熊本県	758	大久保の大ヒノキ	宮崎県
709	志津川のオキチモズク発生地	熊本県	759	竹野のホルトノキ	宮崎県
710	大野下の大ソテツ	熊本県	760	柘の滝鍾乳洞	宮崎県
711	竹の熊の大ケヤキ	熊本県	761	田原のイチョウ	宮崎県
712	藤崎台のクスノキ群	熊本県	762	東郷のクス	宮崎県
713	麻生原のキンモクセイ	熊本県	763	湯ノ宮の座論梅	宮崎県
714	妙見浦	熊本県	764	内海のアコウ	宮崎県
715	立田山ヤエクチナシ自生地	熊本県	765	八村スギ	宮崎県
716	竜仙島(片島)	熊本県	766	岬馬およびその繁殖地	宮崎県
717	オオサンショウウオ生息地	大分県	767	キイレットトリモチ産地	鹿児島県
718	半佐神宮社叢	大分県	768	ヒガンザクラ自生南限地	鹿児島県
719	九重山のコケモモ群落	大分県	769	ヤッコソウ発生地	鹿児島県
720	堅田郷八幡社のハナガシ林	大分県	770	稲尾岳	鹿児島県
721	高崎山のサル生息地	大分県	771	永利のオガタマノキ	鹿児島県
722	狩生鍾乳洞	大分県	772	栗野町ハナショウブ自生南限地帯	鹿児島県
723	小半鍾乳洞	大分県	773	志布志の大クス	鹿児島県
724	松屋寺のソテツ	大分県	774	城山	鹿児島県
725	大岩扇山	大分県	775	神屋・湯湾岳	鹿児島県
726	大杵社の大スギ	大分県	776	川内川のチスジノリ発生地	鹿児島県
727	大船山のミヤマキリシマ群落	大分県	777	大和浜のオキナワウラジロガシ林	鹿児島県
728	尾崎小ミカン先祖木	大分県	778	塚崎のクス	鹿児島県
729	姫島の黒曜石産地	大分県	779	藤川天神の臥龍梅	鹿児島県
730	風連洞窟	大分県	780	万之瀬川河口域のハマボウ群落及び干潟生物群集	鹿児島県
731	耶馬溪猿飛の臨穴群	大分県	781	蘭牟田池の泥炭形成植物群落	鹿児島県
732	杵原八幡宮のクス	大分県	782	ウブンドルのヤエヤマヤシ群落	沖縄県
733	瓜生野八幡宮のクスノキ群	宮崎県	783	ケラマジカおよびその生息地	沖縄県
734	下野八幡宮のイチョウ	宮崎県	784	安波のタナガーグムの植物群落	沖縄県
735	下野八幡宮のケヤキ	宮崎県	785	塩川	沖縄県
736	関の尾の臨穴	宮崎県	786	下地島の通り池	沖縄県
737	宮崎神社のオオシラフジ	宮崎県	787	久米の五枝のマツ	沖縄県
738	去川のイチョウ	宮崎県	788	宮良川のヒルギ林	沖縄県
739	虚空蔵島の亜熱帯林	宮崎県	789	慶佐次湾のヒルギ林	沖縄県
740	狹野のスギ並木	宮崎県	790	古見のサキシマスオウノキ群落	沖縄県
741	狹野神社ブッポウソウ繁殖地	宮崎県	791	荒川のカンヒザクラ自生地	沖縄県
742	古江のキンモクセイ	宮崎県	792	識名園のシマチスジノリ発生地	沖縄県
743	五箇瀬川峡谷(高千穂峡谷)	宮崎県	793	首里金城の大アカギ	沖縄県
744	幸嶋サル生息地	宮崎県	794	諸志御嶽の植物群落	沖縄県
745	高岡の月知梅	宮崎県	795	星立天然保護区域	沖縄県
746	高島のピロウ自生地	宮崎県	796	船浦のニッパヤシ群落	沖縄県
747	高鍋のクス	宮崎県	797	大池のオヒルギ群落	沖縄県
748	瓶岳針葉樹林	宮崎県	798	仲の神島海鳥繁殖地	沖縄県
749	妻のクス	宮崎県	799	仲間川天然保護区域	沖縄県
750	七折鍾乳洞	宮崎県	800	長暮崖壁及び崖麓の特殊植物群落	沖縄県

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
801	田港御願の植物群落	沖縄県	853	キシノウエトカゲ	定めず
802	南大東島東海岸植物群落	沖縄県	854	クマゲラ	定めず
803	平久保のヤエヤマシタン	沖縄県	855	ケナガネズミ	定めず
804	米原のヤエヤマヤシ群落	沖縄県	856	ゴイシツバメシジミ	定めず
805	名護のひんぶんガジュマル	沖縄県	857	コクガン	定めず
806	与那覇岳天然保護区域	沖縄県	858	シマアカネ	定めず
807	イヌワシ繁殖地	2県以上	859	ジュゴン	定めず
808	エヒメアヤメ自生南限地帯	2県以上	860	セマルハコガメ	定めず
809	カササギ生息地	2県以上	861	ダイセツタカネヒカゲ	定めず
810	ツバキ自生北限地帯	2県以上	862	ダイトウオオコウモリ	定めず
811	ノカイドウ自生地	2県以上	863	ツシマテン	定めず
812	ハマナス自生南限地帯	2県以上	864	ツシマヤマネコ	定めず
813	ヒトツバタゴ自生地	2県以上	865	トゲネズミ	定めず
814	ヘゴ自生北限地帯	2県以上	866	ネコギギ	定めず
815	横山楡原衝上断層	2県以上	867	ハナダカトンボ	定めず
816	犬ヶ岳ツクシシャクナゲ自生地	2県以上	868	ヒシクイ	定めず
817	三波石峡	2県以上	869	ヒメチャマダラセセリ	定めず
818	三嶺・天狗塚のミヤマクマザサ及びコメツツジ群落	2県以上	870	マガン	定めず
819	十和田湖および奥入瀬渓流	2県以上	871	ミヤコタナゴ	定めず
820	鷹巣山	2県以上	872	ヤマネ	定めず
821	瀬八丁	2県以上	873	ヤンバルクイナ	定めず
822	比叡山鳥類繁殖地	2県以上	874	ヤンバルテナゴコガネ	定めず
823	アカガシラカラスバト	定めず	875	リュウキュウキンバト	定めず
824	アカコッコ	定めず	876	リュウキュウヤマガメ	定めず
825	アカヒゲ	定めず	877	ルリカケス	定めず
826	アサヒヒョウモン	定めず	878	烏骨鶏	定めず
827	アユモドキ	定めず	879	越ヶ谷のシラコバト	定めず
828	イジママムシクイ	定めず	880	越の犬	定めず
829	イタセンバラ	定めず	881	河内奴鶏	定めず
830	イヌワシ	定めず	882	岩国のシロヘビ	定めず
831	ウスバキチョウ	定めず	883	紀州犬	定めず
832	エゾシマフクロウ	定めず	884	軍鶏	定めず
833	エラブオオコウモリ	定めず	885	甲斐犬	定めず
834	オーstonオオアカゲラ	定めず	886	黒柏鶏	定めず
835	オオトラツグミ	定めず	887	薩摩鶏	定めず
836	オオワシ	定めず	888	柴犬	定めず
837	オガサワラアメンボ	定めず	889	秋田犬	定めず
838	オガサワライトンボ	定めず	890	小笠原諸島産陸貝	定めず
839	オガサワラオオコウモリ	定めず	891	小国鶏	定めず
840	オガサワラクマバチ	定めず	892	声良鶏	定めず
841	オガサワラシジミ	定めず	893	地鶏	定めず
842	オガサワラセスジゲンゴロウ	定めず	894	地頭鶏	定めず
843	オガサワラゼミ	定めず	895	土佐犬	定めず
844	オガサワラタマムシ	定めず	896	東天紅鶏	定めず
845	オガサワラトンボ	定めず	897	奈良のシカ	定めず
846	オガサワラノスリ	定めず	898	比内鶏	定めず
847	オカヤドカリ	定めず	899	北海道犬	定めず
848	オジロワシ	定めず	900	叡叟鶏	定めず
849	カサガイ	定めず	901	叡叟矮鶏	定めず
850	カラスバト	定めず	902	矮鶏	定めず
851	カラフトルリシジミ	定めず	903	蜀鶏	定めず
852	カンムリウミスズメ	定めず	904	鶺鴒鶏	定めず

(4) 登録記念物一覧

No.	名称	都道府県	No.	名称	都道府県
1	函館公園	北海道	24	近江八景(堅田落雁)	滋賀県
2	旧菊池氏庭園(弘前明の星幼稚園庭園)	青森県	25	近江八景(三井晩鐘)	滋賀県
3	鳴海氏庭園	青森県	26	雲原砂防関連施設群	京都府
4	揚亀園	青森県	27	西山氏庭園	大阪府
5	田沢湖のクニマス(標本)	秋田県	28	みとろ苑庭園	兵庫県
6	物外軒庭園	栃木県	29	梶原氏(西梶原)庭園	兵庫県
7	巖華園	栃木県	30	小河氏庭園	兵庫県
8	野田市市民会館(旧茂木佐平治氏)庭園	千葉県	31	相楽園	兵庫県
9	国立西洋美術館園地	東京都	32	石谷氏庭園	鳥取県
10	牧野記念庭園(牧野富太郎宅跡)	東京都	33	亀井氏庭園	島根県
11	横浜公園	神奈川県	34	常盤公園	山口県
12	山下公園	神奈川県	35	四十島(ターナー島)	愛媛県
13	禪寺丸柿	神奈川県	36	大濠公園	福岡県
14	日本大通り	神奈川県	37	伊東氏庭園	長崎県
15	立山砂防工事専用軌道	富山県	38	平和公園	長崎県
16	末浄水場の園地	石川県	39	菊池川堤防のハゼ並木	熊本県
17	花籠公園	福井県	40	沈壁の滝	大分県
18	坪川氏庭園	福井県	41	蝙蝠の滝	大分県
19	旧山寺常山氏庭園	長野県	42	清水氏庭園	鹿児島県
20	象山神社園池	長野県	43	鳥濱氏庭園	鹿児島県
21	大木氏庭園	長野県	44	喜屋武海岸及び荒崎海岸	沖縄県
22	野中氏庭園	長野県	45	白水の滝	2県以上
23	鶴舞公園	愛知県			

資料 7

市民団体連携施策の例とそのメリット

本論文中の分析結果の一つとして、資源のイメージを共有する圏域は広い方が観光振興に成功していることを明らかにした。また、この結果に基づき、今後のブランディング主体が民間企業や市民レベルとなった場合でも、連携を推進することで、広い圏域でブランディングを進めるべきであると述べた。

ここでは、連携施策の具体例として、シーニックバイウェイ北海道（以下、SBW 北海道）を紹介する。筆者は以前、別の研究^{資-1}において SBW 北海道に関する調査を行ったことがある。その結果の一部を参考資料として紹介する。

シーニックバイウェイ(Scenic Byway)とは、①地域と行政の連携、②景観と自然環境への配慮、③地域資源の道による接続、を実現することにより個性的で美しい地域・環境・観光空間の構築を目指す施策である。アメリカで先行的に取り組みられている制度で、北海道は平成 17 年度から全国に先駆けて導入した。現在、正式な指定ルートが 9 ルート、候補ルートが 3 ルートとなっている。また、2009 年の段階で、シーニックバイウェイ北海道の活動団体は、323 団体が登録されており、約 2 万人の市民が関わっていた。

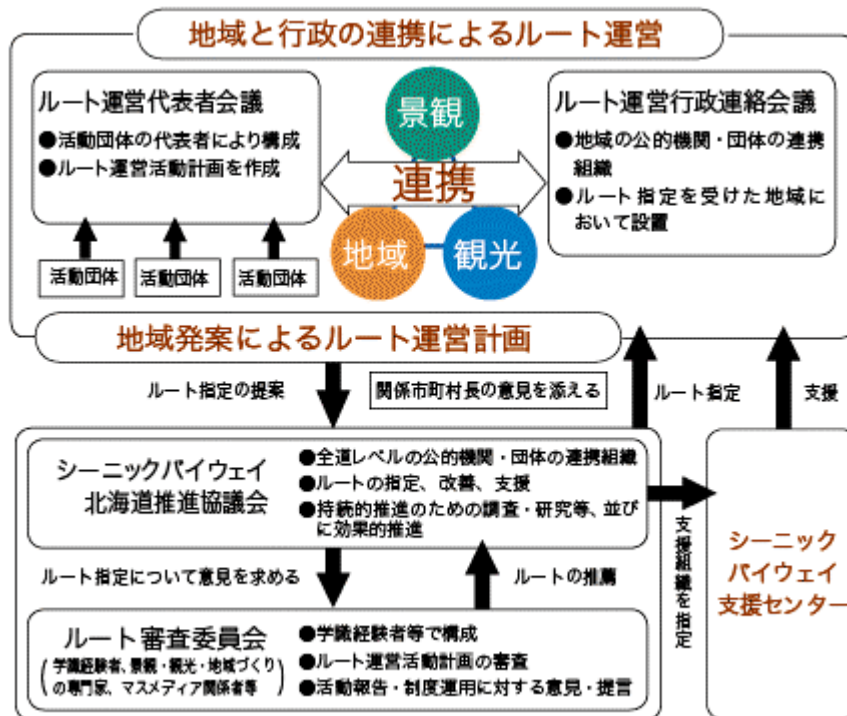


シーニックバイウェイ北海道ルート一覧^{資-2}

資-1 丸上雄哉，高野伸栄「社会ネットワーク分析によるシーニックバイウェイ北海道活動団体の連携構造に関する研究」（北海道大学卒業論文），2009

資-2 SBW 北海道 HP : <http://www.scenicbyway.jp/>, 2011 年 1 月 14 日より引用

シーニックバイウェイ北海道の連携・支援の概要を以下に示した。



シーニックバイウェイ北海道の連携方策の概要 資-3

この研究に関連したアンケート調査では、SBW 北海道に参加する全団体に対して団体間連携、行政との連携に向けた意識調査を行った。その回答結果から抽出した団体間連携のメリットとデメリットを以下に列記する。

<連携の利点>

1. 事業の効率化・インパクト増加
 - ・ 財政捻出
 - ・ 人材の確保
 - ・ 社会的評価・周知
2. 観光客誘致の基礎構築
 - ・ 情報共有による観光客に対するガイド能力の向上
 - ・ 通過型観光から滞在型観光へのシフト
3. 団体のモチベーション増加

資-3 SBW 北海道 HP : <http://www.scenicbyway.jp/>, 2011年1月14日より引用

- ・ 活動幅・発想の増加
 - ・ 互いの活動への理解
4. 地域の一体化
- ・ まちづくりに向けた姿勢として望ましい

<連携の問題点>

1. 団体間の調整の煩わしさ
- ・ 日程調整
 - ・ 負担配分
 - ・ 信頼関係の構築，人間関係や序列に気を使う必要性
 - ・ 観光資源共有への抵抗感
 - ・ 各団体の行動力低下の心配
2. 活動理念の相違
- ・ 民間企業（利益追求）とボランティア
 - ・ 団体間の温度差・意識格差
 - ・ 活動の独自性，団体の自主性の尊重
3. 社会問題・地理的問題
- ・ 少子高齢化
 - : Eメール等の使用能力の問題・格差
 - : 人不足で他団体に迷惑をかける不安
 - ・ 広域性：移動が困難

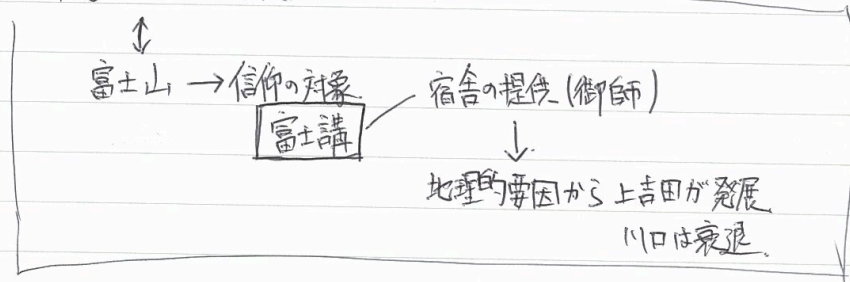
資料 8

研究対象決定に向けたスタディ

Date . . . 富士五湖 (河口湖・山中湖)

100m近い標高 } 農業に不向き
溶岩流の土壌 }
前提

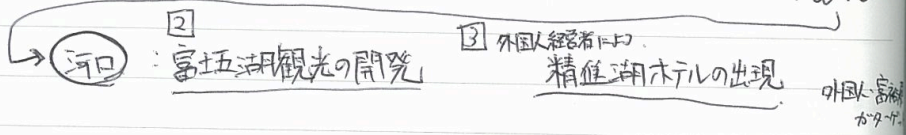
江戸時代 - 旅の制限



近代

- ① 馬車鉄道の開通 →
- ① ツーリスト誘致圏の拡大
 - ② 富士五湖の観光対象化
 - ③ レジャー文化の富士登山

② 江戸期と同様に、富士登山に向けた地理的要因から吉田が発展、河口が衰退



北麓の開発計画 ... 主体: 甲州財閥 + 山陽物産
ターゲット: 上流階級

(第一次世界大戦の戦後恐慌により頓挫)

富士嶽麓開発計画 主体: 一般大衆
ターゲット: 一般大衆

富士箱根国立公園指定
1936

山中湖

リゾート開発は富裕層がターゲット

- ① 別荘地開発
- ② リゾートコンプレックス
- ③ ゴルフ場
- ④ 高級ホテル(ホテルの改装)
 - 山中湖ホテル
- ⑤ 大学関係施設

市民の内発性 (薄)

河口湖

体系的開発は見えない

一般大衆がターゲット

- ① 富士スバルライン
 - ↓
 - 田から登山口への機能を奪還
 - ↓
 - 沿線の原生林の伐採
- ② 富士急ハイランド
- ③ 文化施設が多い。河口湖美術館

↑ (市民の内発)

フィールドのテーマ性 ①

1 同じような資源・地理特性を持つ両者が、別々の観光開発形態をとる理由は何なのか?

<仮説> 歴史的脈絡の中で、ターゲットに差異が生じたため?

市民生活は貧しいまま (農業ができない地勢)

(戦後)

米軍キャンプの進駐 → 撤退

↓
観光商業の衰退

↓
危機感・市民の内発的行動

- ① 貸家
- ② 民宿
- ③ リゾートコンプレックス別荘用地として農地を売却

* 山中湖は、地理・農業的要因から観光産業に傾倒する以外に道がなかった。

耕作は可能

市民生活は豊かになっていないが

耕作が可能であり、危機感は相対的に小さい

フィールドのテーマ性 ②

2 体系的開発の成功・失敗、モチベーションは何なのか?

<仮説> 市民が内発的に観光開発に賛同するかどうか?

このフィールドの場合、生活の危機感が山中湖 > 河口湖

参考文献資料一覽

第1章 序論

- 国土交通省観光庁編『観光白書 平成22年度版』, 2010年
- World Economic Forum HP : <http://www.weforum.org/>, 2011年1月1日
- 世界自然遺産を考えよう! : <http://jacsekaiisanprj.sakura.ne.jp/>, 日本山岳会自然保護委員会, 2010年10月15日
- 藻谷浩介『実測! ニッポンの地域力』日本経済新聞社, 2007
- Kevin Lynch『The Image of the City』The MIT Press, 1960

第2章 本論文の特色と研究手法

- 志水英樹「都市空間におけるイメージの形成過程に関する研究」, 1991
- 大佛俊泰「都市空間イメージの変形作用とその要因」, 1990
- 安田丑作「都市のイメージ形成に与えるプリントメディアの影響に関する考察」, 1995
- 長沢由喜子「街路空間イメージの形成に及ぼす愛着度の影響」, 1992
- 安田丑作「阪神・淡路大震災による神戸の都市イメージの変化に関する研究-イメージ形成におけるプリント・メディアの影響を通じて-」, 1997
- 井上美奈, 伊藤香織「都市ブランディングの現状と可能性 日本の先進事例を通じて」, 2006
- 須田寛『新・観光資源論』交通新聞社, 2003
- 敷田麻実「観光による持続可能な地域資源の活用戦略」, 2010
- 関満博, 日本都市センター編『新「地域」ブランド戦略 合併後の市町村の取り組み』日経広告研究所, 2007
- 丸上雄哉, 高野伸栄「社会ネットワーク分析によるシーニックバイウェイ活動団体の連携構造に関する研究」(北海道大学卒業論文), 2009
- 財団法人 日本交通公社編『美しき日本』, 1999

第3章 ケーススタディ

- 東洋経済新報社編『都市データパック 2010年版』東洋経済新報社, 2010
- 市町村要覧編集委員会, 『全国市町村要覧 [平成21年版]』第一法規出版, 2009
- Google マップ : <http://maps.google.co.jp/>, 2009年7月1日~2010年10月30日
- 安曇村誌編纂委員会編『安曇村誌』安曇村, 1998
- 長野県安曇村『開村130年の歩み』アサカワ印刷株式会社, 2005
- 鵜飼克郎『ウソの温泉 ホントの温泉』小学館, 2005
- 松本市役所安曇支所観光課提供資料・観光統計データ
- 柳川市観光協会『水と光につつまれて 50年のあゆみ』, 2004
- 柳川市『掘割なぜなぜ物語』, 2000
- 柳川市役所観光課提供資料・観光統計データ

- ニセコ町『ニセコ町統計資料「数字で見るニセコ」』, 2007/2008/2009
- 倶知安町『倶知安町観光振興計画』, 2009
- 倶知安町商工観光課提供資料・観光統計データ
- 倶知安観光協会 HP : <http://www.niseko.co.jp/>, 2009年9月11日
- 蘭越町産業経済課提供資料・観光統計データ
- 蘭越町 HP : <http://www.town.rankoshi.hokkaido.jp/>, 2009年9月12日
- 岩内町公式 HP : <http://www.town.iwanai.hokkaido.jp/index.shtml>, 2009年9月12日
- Web Navi きょうわ : <http://www.town.kyowa.hokkaido.jp/>, 2009年9月12日
- 鬼塚義弘「ニセコ地域への外国人観光客急増とその理由-世界のリゾートと競争するために-」, 『季刊 国際貿易と投資』, Spring 2006/No.63, pp.114-125
- 北村倫夫「国内における世界水準のデスティネーション・リゾートの形成に向けて 北海道ニセコひらふ地域を事例として」, 『知的資産創造』, 2008年2月号, pp.88-101
- 伊香保温泉品質向上委員会『心づくしのおもてなし 伊香保豆手帖』
- 渋川市『渋川市観光基本計画』, 2009
- 渋川市『渋川市観光基本計画(資料編)』, 2009
- 渋川市伊香保総合支所提供資料
- 渋川市役所経済部観光課提供資料・観光統計データ
- 弟子屈町役場企画財政課『弟子屈町勢要覧 弟子屈資料室追補版』, 2010
- 弟子屈町『第1次弟子屈町環境基本計画』, 2010
- 弟子屈町『弟子屈町地域公共交通総合連携計画』, 2009
- 弟子屈町役場観光商工課提供資料・観光統計データ
- 敷田麻実「観光地域における非営利・営利組織のガバナンスと協働モデルにかんする研究-北海道弟子屈町の事例分析から-」, 『日本地域政策研究』第8号(2010.3), pp.73-80
- 田口誠「てしかがえこまち推進協議会の挑戦」, 『アカデミア』, 平成21年(2009)秋号(第91号), pp.12-15
- 国立環境研究所『摩周湖モニタリングデータブック』, 2004
- 角皆潤「矛盾だらけの摩周湖マイカー規制」, 2008
- 片品村役場 HP : <http://www.vill.katashina.gunma.jp/index.html>, 2010年9月4日
- 檜枝岐村役場 HP : <http://www.hinoemata.com/soumu/gaiyou.html>, 2010年9月4日
- 環境省 尾瀬国立公園・檜枝岐自然保護官事務所提供資料・観光統計データ
- 檜枝岐村企画観光課提供資料・観光統計データ
- 片品村役場むらづくり観光課提供資料・観光統計データ
- 魚沼市役所商工観光課提供資料・観光統計データ

- JTB パブリッシング『尾瀬』, 2010
- 尾瀬の自然を守る会『尾瀬を守る 自然保護運動 25 年の歩み』上毛新聞社, 1997
- 尾瀬林業株式会社『はるかな尾瀬を永遠に一尾瀬を守り、育み、伝える一』尾瀬国立公園記念事業実行委員会, 2008
- ミズバショウの写真出所 : <http://userdisk.webry.biglobe.ne.jp>, 2010 年 9 月 5 日
- 東京電力自然学校 HP : <http://www.tepco.co.jp/eco/ns/index-j.html>, 2010 年 9 月 5 日
- 足尾ガイド作成委員会『足尾』足尾町, 2006
- 秋山智英『森よ、よみがえれ 足尾銅山の教訓と緑化作戦』農山漁村文化協会(農文協), 1990
- 日光市役所観光部提供資料・観光統計データ
- 日光市役所 HP : <http://www.city.nikko.lg.jp/index.html>, 2010 年 6 月 14 日
- 財団法人 自然公園財団『鳥取砂丘』, 2010
- 環境省浦富自然保護官事務所提供資料
- (財)自然公園財団 鳥取支部提供資料
- 鳥取市役所経済観光部観光コンベンション推進課提供資料
- 鳥取市役所鳥取砂丘・ジオパーク推進室提供資料・観光統計データ
- 松田真由美「鳥取砂丘観光の課題と方向性—砂丘政策の歴史的分析から」, 2004
- 後追スリバチの写真出所 : <http://sanin-geo.jp/modules/geopark/images/ru/toto04.jpg>, 2010 年 12 月 17 日
- 京丹後市商工観光部資料提供・観光統計データ
- 敷田麻実;末永聡「地域の沿岸域管理を実現するためのモデルに関する研究 :京都府網野町琴引浜のケーススタディからの提案」,『日本沿岸域学会論文集』, 2003, pp25-36
- 敷田麻実, 小島あずさ, 松本清次, 三浦到, 山崎達雄, 「パネルディスカッション(Ⅱ)沿岸域から始まる環境保全:海岸ゴミから生態系まで」,『沿岸域』, 第 14 巻 2 号, 2002, pp. 15-21
- 鳴り砂を守る会 HP : <http://www2.nkansai.ne.jp/org/sea-man/>, 2010 年 12 月 18 日
- 琴引浜鳴き砂文化館 HP : <http://www.nakisuna.jp/>, 2010 年 12 月 18 日
- 気象庁 HP : <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>, 2010 年 12 月 18 日
- 国立天文台『理科年表 平成 23 年』丸善, 2010
- 坂井宏光「日本の世界遺産における環境保全型観光産業の発展と課題—屋久島の世界自然遺産を中心として—」,『九州国際大学 教養研究』第 15 巻第 1 号, 2008, pp.63-79
- 屋久島町商工観光課提供資料・観光統計データ
- 屋久島観光協会提供資料
- 屋久島環境文化財団提供資料

- 山本秀雄編『屋久島歴史小年表』生命の島，2007
- 堀内直哉『屋久島で、実はこんなことが起きている』Book-mobile，2010
- 松本毅，比留間雄太，市川聡，小原比呂志，大森繁『YNAC 通信 NO.27』(有)屋久島野外活動総合センター，2010

第5章 観光都市を取巻く事象及び施策の全容

- 環境省 HP : <http://www.env.go.jp/>，2010年12月22日
- 文化庁 HP : <http://www.bunka.go.jp/>，2010年12月22日
- 林野庁 HP : <http://www.rinya.maff.go.jp/>，2010年12月23日
- 三船康道『まちづくりキーワード事典』学芸出版社，2006
- 加藤則芳『日本の国立公園』平凡社，2000
- 石川徹也『尾瀬から白保、そして21世紀へ』平凡社，2001
- 岩井正「伝建地区（伝統的建造物群保存地区）の現状と課題－伝建地区全国アンケートからみたまちづくりのサステナビリティ－」2007
- 白骨温泉公式 HP : <http://www.shirahone.org/>，2011年1月21日
- asahi.com : <http://www.asahi.com/>，2010年12月26日
- 内藤嘉昭『富士北麓観光開発史研究』学文社，2002
- 山と溪谷社『日本の世界遺産歩ける地図帳』，2007
- 世界遺産総合研究所『誇れる郷土ガイド-全国の世界遺産登録の動き-』シンクタンクせとうち総合研究機構，2003
- 北沢猛「地域遺産＝ヘリテージは地域再生の源泉である」、『季刊まちづくり』第15号，2007，pp.14-19

あとがきと謝辞

あとがき

本論文は、私が修士1年目の2009年7月から調査を開始(文献調査は5月から)し、2011年1月まで調査を続けた。約1年半の調査期間の中では、フットワークの軽さだけを携えて、全国の観光都市を巡った。

当時は、全て自腹で出向き、論文にすることが当然だと考えていた。それでも良いと考えていた。なぜなら、観光都市について研究することこそが、私の高専時代からの夢であったからだ。私の調べる能力が足りなかったと言えばそれまでだが、高専にも大学にも観光計画を専門に学べる研究室はなかった。だから高専や大学の研究室配属の際には、次のステップで観光計画を学ぶために少しでも関連のある研究室・必要なスキルが身に付く研究室を選んだ。結果的に、そこで得るものは多かつたし、そこでの経験は実際に修士論文を進める上での力になっていた。大学院の進学先として選んだ空間計画研究室は、都市計画分野を幅広く扱っており、都市系の視点から観光計画を学びたいと考えていた私にとっては最高の環境だったと考えている。

論文を書き終えてみると、もっと改善できたと思う点や、失敗したと思う点多々ある。それでも、自分の興味関心に対してわがままに、そして多くの時間を割き、貴重な経験を得たこの研究に対して、私は愛着を持っている。多くの友人から、「丸上の研究は楽しそうでうらやましい」と声をかけられた。実際に苦しいはずの論文執筆は、非常に楽しい時間であり、様々な壁に苦慮しながらも最後まで研究を楽しみと思えたことに誇りを感じている。この研究を通じて得た経験やスキルを、次のステップでも活かしていければ良いと考えている。

また、本論文は、観光都市のブランディングのあり方を探るために、観光都市の盛衰状況に加えて、抱える問題や潜在的な危機を抽出していく必要があった。そのため、現地調査のヒアリングの際には、失礼を承知で地域の問題についても積極的に聴いた。白骨温泉の偽装を行った旅館へのヒアリングは特に心苦しかった。論文中では、発言の内容により人物の特定が容易である場合が多いことから、特に意味を持つ人物以外は、発言元の詳細な記述は避けた。しかしながら、こうした旅館を含め、私の調査に対しては非常に協力的だった印象がある。話を聴いていると、どの旅館、どの役割を担う人物でも、自分が働く観光地に対して、深い愛情を有していることがわかってきた。そんな愛着のある自らの土地に対して、まるで悪者のような立場に陥った無念さ、後悔が痛い程伝わってきたことが強く印象に残っている。単なる革新事例の紹介に留まらず、こうした観光都市の影の部分にも焦点を当て、そこに陥った背景、プロセスを整理する作業こそが、この論文の一番苦慮した部分であり、成果に繋がる部分であると考えている。研究対象にした観光都市、そして、失礼な質問にも誠実に回答してくれた方々の一層の発展を願っている。

謝辞

本研究は、日本全国の観光都市を対象にした。突然のお願いにも関わらず、研究対象地の役所や観光関係者の方々は、資料提供やヒアリングに快く応じてくれた。特に白骨温泉の柳屋さんはヒアリング後、温泉に入れてくれた。日本の観光を支える方々のご厚意が、私の研究を支えてくれた。

北海道では武藤君、加藤君、菜畑君が泊めてくれた。加藤君は摩周湖やニセコまで同行してくれた。札幌では、北海道大学時代からの多くの友人、ORD会のメンバーが歓迎してくれた。他にも伊香保は三塚君、屋久島は阿南君が同行してくれた。鳥取砂丘と琴引浜の調査の際には、倉敷で永山さんに泊めてもらい、車も貸してもらった。金井さんは尾瀬まで同行してくれた他、研究の相談や観光地の情報提供をしてくれた。どの友人も嫌な顔一つせず、私の研究に付き合ってくれたことが嬉しかった。

また、空間計画研究室の同期として共にプロジェクトや研究に取り組んだ阿南君、小島君、竹田さん、福角さん、林君、金さん、博士課程の関谷さん、宋さん。研究室の仕事を受け継ぎ、支えてくれた後輩たち。研究室のOB及びOGの方々。そして、多くの示唆を教授して下さった、清家先生、清水先生、大野先生、前田先生、丹羽先生、三牧さん、田中さん、原さん。特に清家先生と清水先生は、私たちに対しても、ご自身の研究室の学生のように接してくれた。北沢先生が亡くなった後、私たちが不利な立場にならないように尽力してくれた。

北沢先生は、私が修士1年目の12月に亡くなった。その時、本論文はまだ模索段階で、北沢先生の前では会議の場で1度発表しただけにすぎない。その時のアドバイスは、「都市のブランディングはホットなテーマだが、非常に幅が広い。もっと事例を集めて焦点を絞るべき」というものだった。通常、ゼミや研究を進める中で、学生の多くはテーマを変えていく。しかし、私は頑固にもテーマを変えず、M1の段階から事例収集に努めた。このテーマを扱うことが長年の悲願であったことも理由だが、もう北沢先生のアドバイスをもらえないと思うと、たった一言でもコメントを貰えたこのテーマを大切にしていきたいという気持ちが大きかった。もし北沢先生がいなければ、UDCKがなければ、私は都市計画を専攻していなかったかもしれない。東大の柏キャンパスにはいないと思うし、今春からの職場にも興味を持たなかったと思う。北沢先生の元で学べたのはたった半年間だったが、私の人生に非常に大きな影響を与えてくれた先生だった。“北沢チルドレン”になれたことを誇りに思う。

最後に、私をこの歳まで支えてくれたのは両親・祖父母である。大学院進学が少数派である環境の中で、私が大学院で学ぶ2年間を理解し、経済的な支援をしてくれたこと、また私の将来に期待してくれたことが嬉しかった。

私を支えてくれた全ての方に心からの感謝を申し上げます。

2011年1月20日 丸上雄哉